

# 中道遺跡第87地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

埼玉県志木市教育委員会



# 中道遺跡第87地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

埼玉県志木市教育委員会



## はじめに

志木市教育委員会  
教育長 柚木 博

ここに刊行する『中道遺跡第 87 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が平成 30・令和元年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

志木市は埼玉県の南東部に位置し、都心から 25km 圏内という距離にあるため、住宅建設をはじめとする各種開発行為が非常に多い地域となっています。

現在、市内には、15 カ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

中道遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

さて、今回報告する中道遺跡第 87 地点の調査では、縄文時代、古墳時代、平安時代、中世以降の遺構・遺物が多く検出されました。中でも、平安時代の住居跡については 2 回もの建て替えが行われていたことが、調査によって判明しました。同じ土地に複数回の建て替えが行われた住居跡は、志木市内では多くありません。また、この住居跡のカマドには、瓦が補強材として利用されており、こちらも志木市内では珍しい例と言えます。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。



## 例 言

1. 本書は、平成30・令和元年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である中道遺跡第87地点の発掘調査報告書である。
2. 分譲住宅建設に伴う記録保存のための発掘調査として、志木市教育委員会が土木工事主体者から委託を受け、調査主体者として実施した。
3. 埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業を関東文化財振興会株式会社（代表取締役 宮田和男）に支援委託として委託した。
4. 発掘作業は平成31年1月28日から令和元年5月25日まで行い、引き続き、整理作業・報告書刊行作業を令和2年3月31日まで行った。
5. 本書は尾形則敏・大久保聡が監修し、編集は林邦雄が行った。執筆は第1章を尾形則敏、第2章第1節を大久保聡、それ以外を林邦雄が担当した。
6. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。
7. 調査組織は以下の通りである。

### 【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教 育 長	柚 木 博
教 育 政 策 部 長	土 岐 隆 一
教 育 政 策 部 次 長	北 村 竜 一
生 涯 学 習 課 長	原 田 謙 二
生 涯 学 習 課 主 幹	中 原 敦 也
生 涯 学 習 課 主 査	浅 見 千 穂
〃	武 井 香 代 子
〃	尾 形 則 敏
生 涯 学 習 課 主 任	松 永 真 知 子
〃	徳 留 彰 紀
〃	大 久 保 聡
生 涯 学 習 課 主 事 補	鈴 木 楓 月
志 木 市 文 化 財 保 護 審 議 会	井 上 國 夫 (会 長)
	深 瀬 克・高 橋 豊・上 野 守 嘉・新 田 泰 男 (委 員)
調 査 担 当 者	尾 形 則 敏・徳 留 彰 紀・大 久 保 聡

### 【関東文化財振興会株式会社】

林 邦 雄 (調 査 員)・下 岡 孝 明 (調 査 補 助 員)
発掘作業参加者
鎌 滝 軍 平・末 武 寿 一・田 中 勇・野 口 芳 孝・野 本 和 男・日 野 拓 男
整理作業参加者

遠藤香織・川又恵美子・郡司ゆき子・鈴木香織・益子光江

8. 各遺跡の発掘調査及び整理作業 報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である(敬称略)。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江原 順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・斉藤 純・齋藤欣延・斯波 治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢 均・早坂廣人・堀 善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本 龍・和田晋治・渡辺邦仁

9. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)

平成31年2月14日付け 教文資第5-1605号

○埋蔵物の文化財認定について(通知)

令和元年7月30日付け 教生文第7-38号

## 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1:10,000「志木市全図」株式会社パスコ調製

第2図 1:2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行  
株式会社ゼンリン

2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3. 挿図版の縮は、それぞれに明記した。

4. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。

5. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は[]、推定値は()を付した。

高:器高 口:口径 底:底径 厚:器厚

9. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

H=古墳時代～平安時代の住居跡 D=土坑 M=溝跡 P=ピット



# 目 次

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第 1 章 遺跡の立地と環境 .....	1
第 1 節 市域の地形と遺跡 .....	1
第 2 章 中道遺跡第 87 地点の調査 .....	8
第 1 節 遺跡の概要 .....	8
第 2 節 調査の経緯 .....	8
第 3 節 検出された遺構・遺物 .....	15
第 4 節 遺構外出土遺物 .....	59
第 3 章 調査のまとめ .....	63

図 版

報告書抄録

## 挿図目次

第 1 図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 10,000)..... 2	第 20 図 31 号住居跡出土遺物 (1 / 3) ..... 28
第 2 図 中道遺跡の調査地点 (1 / 2,500) ..... 9	第 21 図 32 号住居跡 (1 / 60・1 / 30) ..... 29
第 3 図 確認調査時の遺構分布 (1 / 200) ..... 10	第 22 図 32 号住居跡出土遺物 (1 / 3) ..... 30
第 4 図 全測図 (1 / 150) ..... 13	第 23 図 土坑 1 (1 / 60) ..... 45
第 5 図 基本層序図 (1 / 300・1 / 60) ..... 14	第 24 図 土坑 2 (1 / 60) ..... 46
第 6 図 27 号住居跡 1 (1 / 60)..... 16	第 25 図 土坑 3 (1 / 60) ..... 47
第 7 図 27 号住居跡 2 (1 / 30)..... 17	第 26 図 土坑 4 (1 / 60) ..... 48
第 8 図 27 号住居跡出土遺物 (1 / 3) ..... 17	第 27 図 土坑出土遺物 (1 / 3) ..... 49
第 9 図 28 号住居跡 1 (1 / 60) ..... 18	第 28 図 35 号溝跡 (1 / 60) ..... 51
第 10 図 28 号住居跡 2 (1 / 30) ..... 19	第 29 図 35 号溝跡出土遺物 (1 / 3) ..... 52
第 11 図 28 号住居跡出土遺物 (1 / 3) ..... 19	第 30 図 36 号溝跡 (1 / 60) ..... 53
第 12 図 29 号住居跡 (1 / 60) ..... 21	第 31 図 36 号溝跡出土遺物 (1 / 3) ..... 53
第 13 図 29 号住居跡出土遺物 (1 / 3) ..... 21	第 32 図 38 号溝跡 (1 / 80・1 / 60) ..... 55
第 14 図 30 号住居跡 1 (1 / 60) ..... 22	第 33 図 39 号溝跡 (1 / 60) ..... 56
第 15 図 30 号住居跡 2 (1 / 30) ..... 23	第 34 図 40 号溝跡 (1 / 60) ..... 57
第 16 図 30 号住居跡出土遺物 1 (1 / 3) ..... 23	第 35 図 45 号溝跡 (1 / 60) ..... 57
第 17 図 30 号住居跡出土遺物 2 (1 / 4) ..... 24	第 36 図 遺構外出土遺物 1 (1 / 3) ..... 60
第 18 図 31 号住居跡 1 (1 / 60) ..... 26	第 37 図 遺構外出土遺物 2 (1 / 3) ..... 61
第 19 図 31 号住居跡 2 (1 / 30・1 / 80・1 / 60) ..... 27	

## 表 目 次

第 1 表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 ..... 1	第 12 表 土坑出土土器一覧 ..... 49
第 2 表 発掘調査工程表 ..... 12	第 13 表 土坑出土陶磁器一覧 ..... 49
第 3 表 27 号住居跡出土土器一覧 ..... 17	第 14 表 35 号溝跡出土陶器一覧 ..... 52
第 4 表 28 号住居跡出土土器一覧 ..... 20	第 15 表 36 号溝跡出土陶器一覧 ..... 54
第 5 表 29 号住居跡出土土器一覧 ..... 21	第 16 表 36 号溝跡出土瓦質土器一覧 ..... 54
第 6 表 30 号住居跡出土土器一覧 ..... 25	第 17 表 溝跡一覧 ..... 58
第 7 表 30 号住居跡出土瓦一覧 ..... 25	第 18 表 ピット一覧 (1) ..... 58
第 8 表 31 号住居跡出土土器一覧 ..... 28	第 18 表 ピット一覧 (2) ..... 59
第 9 表 32 号住居跡出土土器一覧 ..... 30	第 19 表 遺構外出土遺物一覧 (1) ..... 61
第 10 表 32 号住居跡出土土製品一覧 ..... 30	第 19 表 遺構外出土遺物一覧 (2) ..... 62
第 11 表 土坑一覧 ..... 44	

# 図版目次

## 図版 1

1. 調査区南側完掘 西から
2. 調査区南東側 北から

## 図版 2

1. 調査区北側中央部完掘 西から
2. 調査区北側完掘 南東から

## 図版 3

1. 27号住居跡完掘状況
2. 27号住居跡土層断面A-A'
3. 27号住居跡土層断面B-B'
4. 27号住居跡カマド完掘状況
5. 27号住居跡カマド土層断面
6. 27号住居跡遺物出土状況
7. 27号住居跡貯蔵穴完掘状況
8. 27号住居跡 P 1・3完掘状況

## 図版 4

1. 27号住居跡 P 2・4完掘状況
2. 27号住居跡 P 5完掘状況
- 3・4. 27号住居跡炉跡完掘状況
- 5・6. 27号住居跡炉跡土層断面
7. 28号住居跡完掘状況
8. 28号住居跡土層断面A-A'

## 図版 5

1. 28号住居跡土層断面B-B'
2. 28号住居跡カマド完掘状況
3. 28号住居跡カマド土層断面A-A'
4. 28号住居跡カマド土層断面B-B'
- 5~7. 28号住居跡遺物出土状況
8. 28号住居跡カマド遺物出土状況

## 図版 6

1. 28号住居跡貯蔵穴 P 2完掘状況
2. 28号住居跡 P 1完掘状況
3. 28号住居跡 P 3完掘状況
4. 28号住居跡 P 4完掘状況
5. 29号住居跡完掘及び土層断面
6. 30号住居跡完掘状況
7. 30号住居跡土層断面A-A'
8. 30号住居跡土層断面B-B'

## 図版 7

1. 30号住居跡カマド完掘状況
2. 30号住居跡カマド土層断面A-A'
3. 30号住居跡カマド土層断面B-B'
4. 30号住居跡北側遺物出土状況
5. 30号住居跡南西側遺物出土状況
6. 30号住居跡遺物出土状況
- 7・8. 30号住居跡瓦出土状況

## 図版 8

1. 30号住居跡カマド遺物出土状況
2. 30号住居跡カマド袖部瓦検出状況
3. 30号住居跡 P 1・5完掘状況
4. 30号住居跡 P 2完掘状況
5. 30号住居跡 P 3完掘状況
6. 30号住居跡 P 4完掘状況
7. 30号住居跡 P 6完掘状況
8. 30号住居跡 P 7完掘状況

## 図版 9

1. 30号住居跡 P 8完掘状況
2. 31号住居跡完掘状況
3. 31号住居跡土層断面A-A'
4. 31号住居跡土層断面B-B'
5. 31号住居跡カマド完掘状況
6. 31号住居跡カマド土層断面
7. 31号住居跡カマド遺物出土状況
8. 31号住居跡 P 1・8完掘状況

## 図版 10

1. 31号住居跡 P 2完掘状況
2. 31号住居跡 P 3完掘状況
3. 31号住居跡 P 5・6完掘状況
4. 31号住居跡 P 4・7完掘状況
5. 31号住居跡掘り方土坑完掘状況
6. 31号住居跡掘り方土坑土層断面
7. 32号住居跡完掘状況
8. 32号住居跡土層断面

## 図版 11

1. 32号住居跡カマド完掘状況
2. 32号住居跡カマド土層断面A-A'
3. 32号住居跡カマド土層断面B-B'
4. 32号住居跡遺物出土状況
5. 32号住居跡貯蔵穴完掘状況
6. 32号住居跡貯蔵穴土層断面
7. 35号溝跡北側完掘状況
8. 35号溝跡南側完掘状況

## 図版 12

1. 35号溝跡南側完掘状況
2. 35号溝跡土層断面A-A'
3. 35号溝跡土層断面B-B'
4. 35号溝跡土層断面C-C'
5. 35号溝跡土層断面D-D'
- 6・7. 36号溝跡完掘状況
8. 36号溝跡土層断面A-A'

図版 13

1. 36号溝跡遺物出土状況
2. 38号溝跡完掘状況
3. 38号溝跡土層断面A-A'
4. 38号溝跡土層断面B-B'
- 5・6. 39号溝跡完掘状況
7. 39号溝跡土層断面A-A'
8. 39号溝跡土層断面B-B'

図版 14

1. 39号溝跡土層断面C-C'
2. 40号溝跡完掘状況
3. 40号溝跡土層断面A-A'
4. 40号溝跡土層断面B-B'
5. 45号溝跡完掘状況
6. 45号溝跡土層断面A-A'
7. 45号溝跡土層断面B-B'
8. 41～44号溝跡完掘状況

図版 15

1. 227号土坑・37号溝跡完掘状況
2. 228号土坑完掘状況
3. 229号土坑完掘状況
4. 230号土坑完掘状況
5. 232号土坑完掘状況
6. 233号土坑土層断面及び完掘状況
7. 235号土坑完掘状況
8. 236号土坑完掘状況

図版 16

1. 237号土坑完掘状況
2. 238号土坑完掘状況
3. 238号土坑土層断面
4. 238号土坑遺物出土状況
5. 239号土坑完掘状況
6. 240号土坑完掘状況
7. 241号土坑完掘状況
8. 242号土坑完掘状況

図版 17

1. 243号土坑完掘状況
2. 244号土坑完掘状況
3. 245号土坑完掘状況
4. 246・247号土坑完掘状況
5. 248号土坑完掘状況
6. 249号土坑完掘状況
7. 250号土坑土層断面及び完掘状況
8. 258・259号土坑完掘状況

図版 18

1. 260号土坑完掘状況
2. 262号土坑完掘状況
3. 264号土坑完掘状況
4. 265号土坑完掘状況
5. 269号土坑完掘状況西
6. 270号土坑完掘状況
7. 271号土坑完掘状況
8. 273号土坑完掘状況

図版 19

1. 274号土坑完掘状況
2. 275号土坑完掘状況
3. 276号土坑完掘状況
4. 277号土坑完掘状況
5. 278号土坑完掘状況
6. 279号土坑完掘状況
7. 280号土坑完掘状況
8. 281号土坑完掘状況

図版 20

1. 282号土坑完掘状況
2. 283号土坑完掘状況
3. 284号土坑完掘状況
4. 285号土坑完掘状況
5. 285号土坑土層断面
6. 285号土坑遺物出土状況
7. 287号土坑完掘状況
8. 288号土坑土層断面及び完掘状況

図版 21

1. 289号土坑完掘状況
2. 290号土坑完掘状況
3. TP 01 西壁土層断面 (基本土層)
4. TP 01 南壁土層断面 (基本土層)
5. TP 02 東壁土層断面 (基本土層)
6. TP 02 南壁土層断面 (基本土層)
- 7・8. 調査風景

図版 22

1. 27号住居跡出土遺物
2. 28号住居跡出土遺物
3. 29号住居跡出土遺物

図版 23

- 30号住居跡出土遺物

図版 24

1. 31号住居跡出土遺物
2. 32号住居跡出土遺物
3. 土坑出土遺物 1

図版 25

1. 土坑出土遺物 2
2. 35号溝跡出土遺物
3. 36号溝跡出土遺物

図版 26

- 遺構外出土遺物

# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりを持ち、面積は 9.05km<sup>2</sup>（註1）、人口約 7 万 5 千人の自然と文化の調和する都市である。

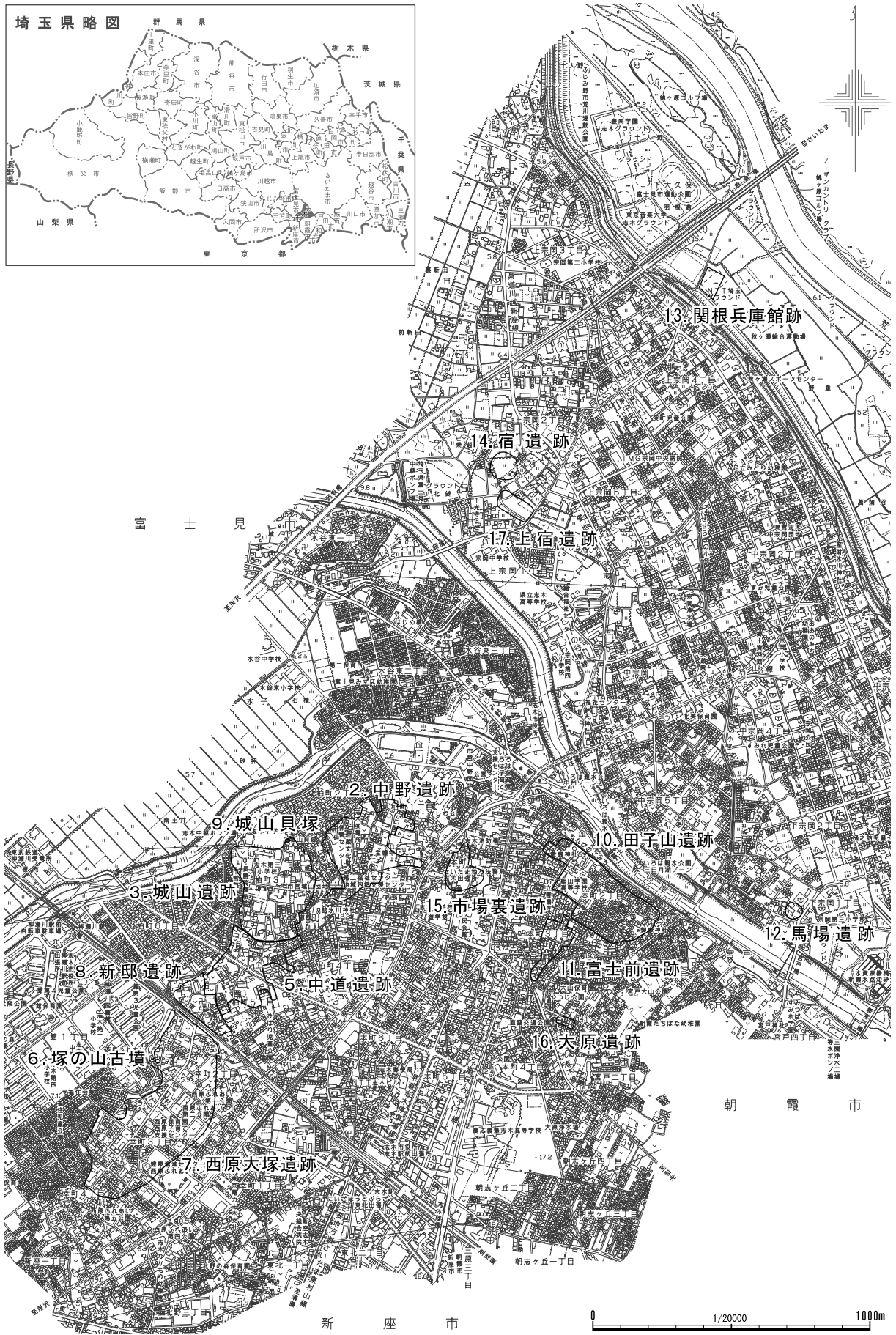
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の 3 本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	67,620㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,100㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鑄造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鑄造関連等
5	中道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700㎡	宅地	不明	近世以降？	溝跡	なし
17	上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合計		505,403㎡					

令和元年 11 月 14 日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた15遺跡である（第1図・第1表）。

## （2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2ヶ所、平成7（1995）年度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91⑰地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

### 2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする

東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚遺跡・新邸遺跡で住居跡(黒浜式期)、城山遺跡では住居跡(諸磯式期)が検出されている。そのうち、新邸遺跡・城山遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成27(2016)年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EIV式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所、平成25(2013)年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居(敷石住居)1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26(2015)年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28(2016・2017)年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期(称名寺式～堀之内式期)の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元(2019)年に発掘調査された城山遺跡第96地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは、壺、甕、高坏、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子(イネ・アワ・ダイズなど)、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24(2012)年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62(1987)年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出され



てきたが、最新では、平成15(2003)年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18(2006)年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11(1999)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。

なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計5点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15(2003)年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7(1995)年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期(7世紀中葉)の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14(2002)年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

#### 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ

ろ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げるができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶<sup>ふじゆしんぼう</sup>が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸軀が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『<sup>たてむらきゆうき</sup>館村旧記』（註2）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『<sup>かいこくざっき</sup>廻国雑記』（註3）に登場する『<sup>おおいししなののかみのやかた</sup>大石信濃守館』が『<sup>おおつかじゆうぎよくぼう</sup>大塚十玉坊』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鑄造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鑄型、鍋の耳部分の小型鑄型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、<sup>よろい さね</sup>鎧の札である鉄製品1点と鉄鎌1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であ

るため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成 11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成 27（2015）年度に第 49 地点の北側に隣接する第 95 地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新た土坑 45 基・井戸跡 2 基・溝跡 1 本・ピット 231 本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T 字形」の火葬土坑 5 基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の第 2 地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成 7（1995）年の中道遺跡第 37 地点からは、人骨と古銭 5 枚を出土した土坑墓 1 基と 13 世紀に比定される青磁盤 1 点を出土した道路状遺構 1 条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60（1985）年の第 1 地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓 2 基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「しょうりんざんかんのんじだいじゆいん松林山観音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成 25（2013）年には、第 74 地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成 5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治 2～5 年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

### [註]

註 1 平成 26 年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06km<sup>2</sup>から 9.05km<sup>2</sup>に変更された。

註 2 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）のなぬしみやはらなかせもんなかつね名主宮原伸右衛門仲恒が、享保 12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註 3 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18（1486）年 6 月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

### [引用文献]

神山健吉 1988 「『廻回雑記』に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第 7 号  
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第 31 号

## 第2章 中道遺跡第87地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

中道遺跡は、志木市柏町5丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西1kmに位置している。本遺跡は、南北方向に約300m、東西方向に約330mの広がりを持ち、面積54,420㎡を有している。遺跡を地勢的に見ると、武蔵野台地の北端部にあたり、標高は北端で約13m、南端で約14m、低地との比高差は約7mである。遺跡の現況は都市計画道路富士見・大原線（ユリノキ通り）の開通とともに各種開発が盛んに行われ、畑地は急激に減少している。

本遺跡では、これまでに88地点の調査（令和元年10月）が実施され（第2図）、旧石器時代、縄文時代中期、古墳時代前・中・後期、平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

### 第2節 調査の経緯

#### （1）調査に至る経過

平成30年10月、株式会社マイタウン（代表取締役社長 内田隆成）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町5丁目2955-2（面積416.00㎡）地内に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中道遺跡（コード11228-09-005）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

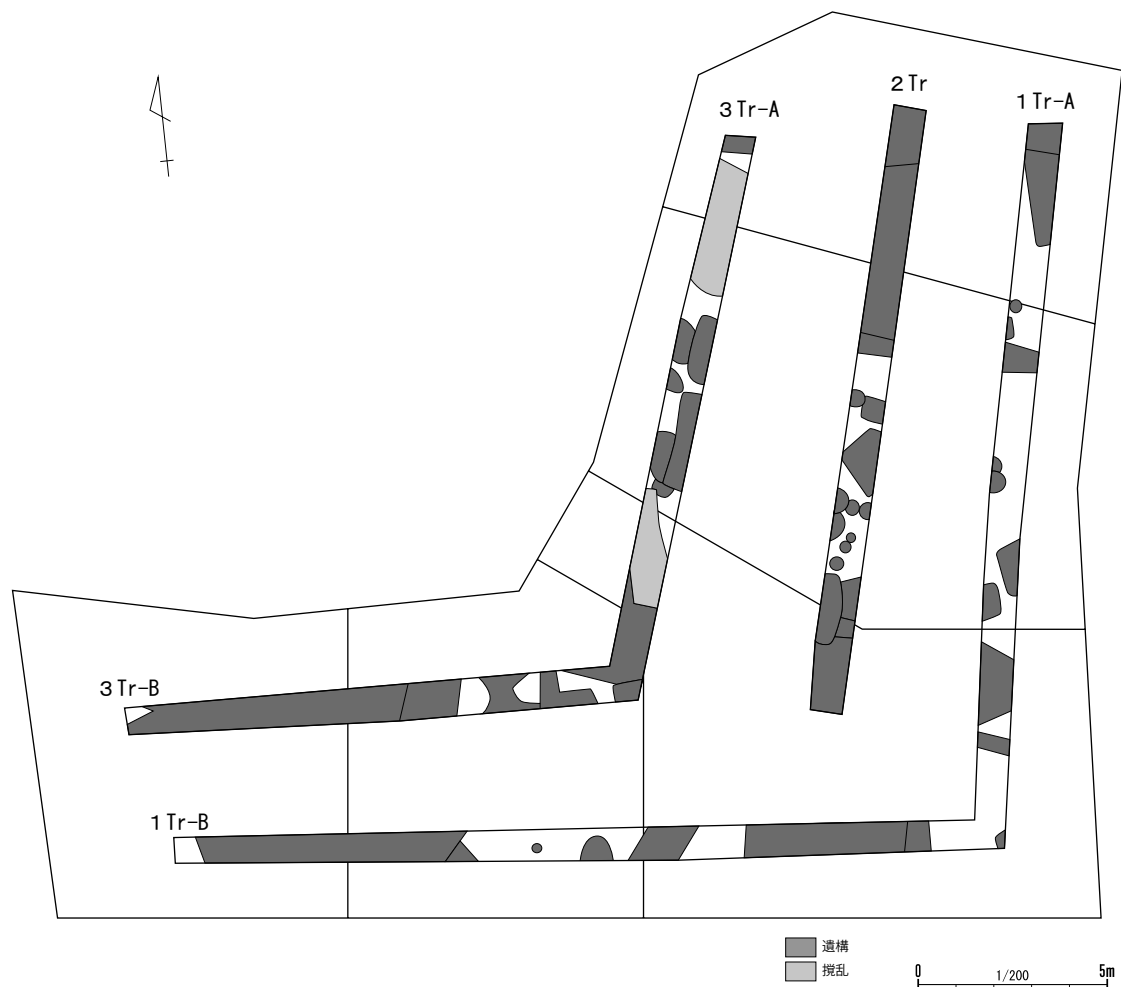
平成30年10月11日、教育委員会は、株式会社マイタウンより確認調査依頼書を受領し、中道遺跡第87地点として、10月22・23日に確認調査を実施した。確認調査は、第3図に示すように調査区南北方向に3本（1Tr-A、2Tr、3Tr-A）、東西方向に2本のトレンチ（1Tr-B、3Tr-B）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑2基、古墳時代後期～平安時代の住居跡7軒、中世以降の土坑23基・溝跡3本・柱穴13本を確認した。

教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。11月27日に株式会社マイタウンと埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、今回の工事内容については十分な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。12月5日、土木工事主体者である個人より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、





第2図 中道遺跡の調査地点（1／3,000）



第3図 確認調査時の遺構分布（1 / 200）

志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2項に基づき、平成31年1月17日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。1月28日、志木市と土木工事主体者の中で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

また、調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、関東文化財振興会株式会社（代表取締役 宮田 和男）の支援を受けることとし、1月28日に委託契約を締結した。

教育委員会は、1月22日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に、1月28日から発掘調査を実施した。

## （2）発掘調査の経過

発掘調査は、平成31年1月29日から令和元年5月24日で実施した。調査経過の概略は以下のとおりである。遺構番号はピット以外について中道遺跡内で使用された番号の続き番号を付してある。

1月期 1月29日より重機による表土除去及び場内整備を行った。調査範囲の南側と東側に高い塀が存在していたため、安全のため塀から1.2m程離して調査区を設定している。調査区西側から表土掘削を行い、表土の深さは70cm程である。残土は場外に搬出している。確認面は遺構の覆土と思われる暗褐色土で全面に拡がっていた。10m程で、確認面からもローム土が検出された。一部既存の水道栓

などを避けながら30日に第1期調査区の表土掘削を終了した。

2月期 1日より調査区内の整備、遺構検出を行い、遺構検出状況の写真撮影後、遺構掘削を開始した。調査区北側の第2期調査区を残土置場として、そこから一番遠い調査区西側の遺構から掘削を行っている。西側は全面に暗褐色土が広がっていたため、上面の土を適時除去しながらの作業である。プラン確認後、土坑や住居跡、溝跡が検出され、攪乱や切り合い関係の一番新しい遺構から掘削を行っている。また、この付近に北側道路部分の調査で検出された35号溝跡が伸びていることがわかっていたため、同時にこの溝跡の掘削も行っている。順次土坑やピット、溝跡の掘削や記録作業を進めたが、35号溝跡と東西に走る36号溝跡の間に位置する27号住居跡の南側において、覆土掘削中覆土が大きく崩落した。上面では35号溝跡の一部と思われていたが、井戸状の掘り込みが存在したうえ、5m以上の空洞部が存在した。幸いにも怪我人は出なかったが、当面この部分を立ち入り禁止にして作業を行っている。次の日から安全のため残土を投入して表土より2m程まで埋めたうえ、井戸の息抜きのため短管を設置している。15日に35号溝跡・36号溝跡の完掘写真を撮影、測量を行い、27号住居跡の掘削を進めている。また、35号溝跡の東側も同時に調査を進めている。27号住居跡は東・南及び中央部北側が35号溝跡や36号溝跡で破壊されているが、覆土は40cm程であった。21日にセクションベルトの写真撮影、作図、25日に遺物の出土状況の写真撮影や遺物の取り上げを行い、住居内のピットや貯蔵穴の掘削を行っている。

3月期 27号住居跡のピットや貯蔵穴の調査に並行して調査区中央部南側に位置した38号溝跡・40号溝跡の掘削を行い、1日に完掘写真の撮影、測量を行っている。10日から調査区南側に位置する28号住居跡の掘削を始めた。この住居跡の中央部には住居跡を切る掘り込みがあり、掘削すると塵やビニールなどが伴う平面形が室状となる掘り込みと確認された。西側の井戸状の掘り込みがあったため、安全を考え1m程で掘削を中止している。28号住居跡の覆土は30cm程で、東側にカマドが伴っている。北側は40号溝跡に破壊されている。28号住居跡の掘削と並行してピットや土坑の調査を進めている。13日に土層の断面写真撮影、及び作図、14・15日に遺物の出土状況写真、遺物の取り上げを行っている。それと並行して27号住居跡の掘り方調査を行っている。16～19日はピットやカマドなどの調査を行い、20日に28号住居跡完掘写真撮影、測量を行っている。並行して調査区中央部や北側の土坑やピットの調査を行い、22日に第1期調査区の完掘写真撮影、調査区の西側と東側にテストピットの掘削、作図、25日より重機による埋め戻しを開始して26日に第1期の発掘調査を終了した。

4月期 第2期は調査区の北側部分である。4月16日より重機による表土除去及び場内整備を行った。調査範囲の東側に高い塀が存在していたため、安全のため塀から1.0m程離して調査区を設定している。表土掘削は調査区北側から行い、表土の深さは60cm程である。残土は第1期調査区に搬出している。確認面は立川ローム層第Ⅲ層から第Ⅳ層であり、北側で溝跡や住居跡が重複し、南側では遺構は薄希になる。17日に表土掘削が終了した。

18日～24日は主に29号住居跡、35号溝跡・45号溝跡や土坑・ピットの精査、攪乱の除去を行っている。35号溝跡は調査区北端に東西方向に検出されている。20日から30号住居跡の掘削に着手したが、カマドが3カ所確認されたため、プラン確認を25日まで行った。以降31号住居跡の掘削できない部分を同時に掘削した。27日に30号住居跡の写真撮影、測量を行った。

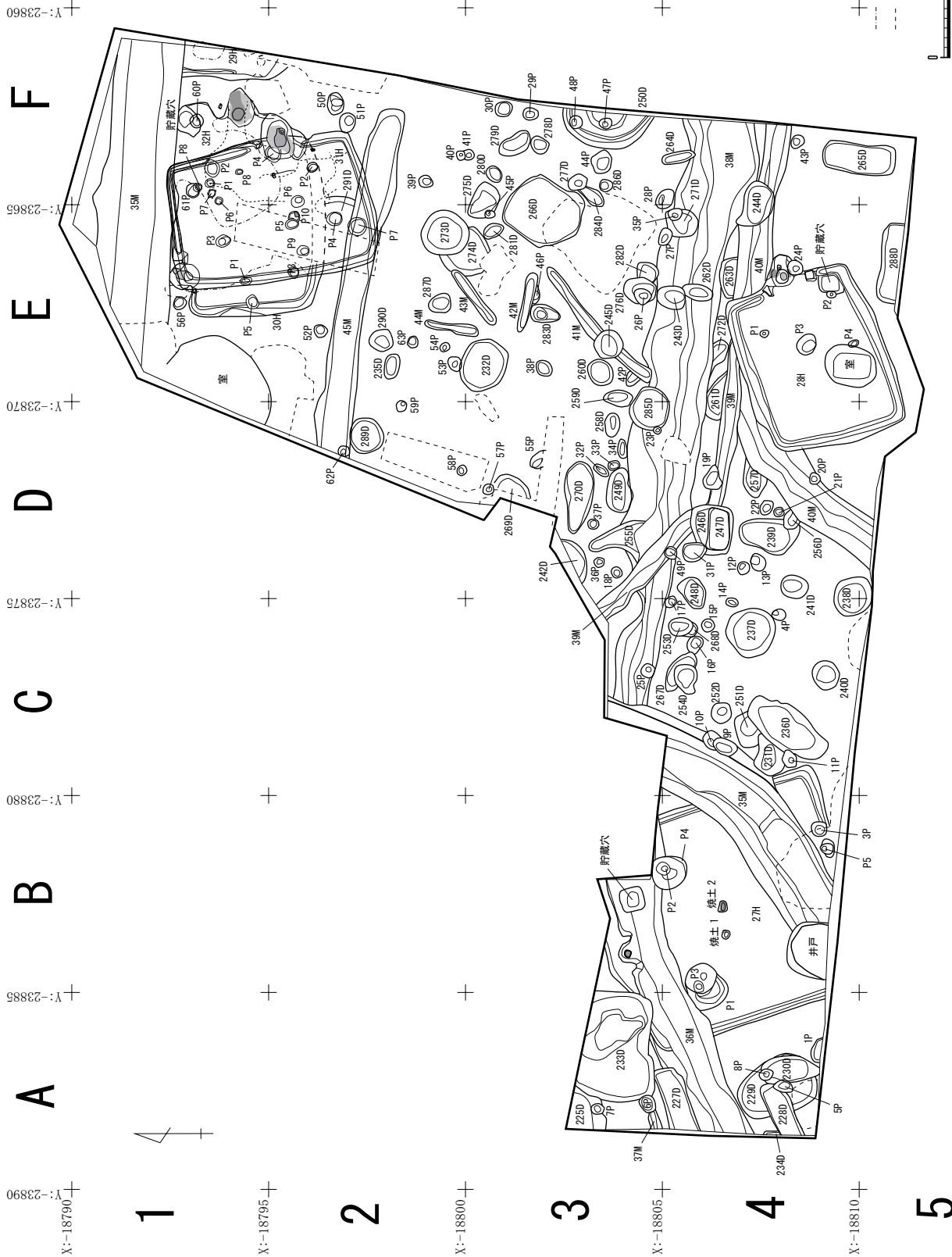
5月期 31号住居跡の掘削を継続し、14日に掘削終了、写真撮影や測量を行っている。15日から31号住居跡の掘り方の掘削と並行して32号住居跡を行い、20日に31号住居跡掘り方掘削を終了し

第2章 中道遺跡第87地点の調査

	1月	2月		3月		4月		5月	
		10日	20日	10日	20日	10日	20日	10日	20日
表土掘削	1.29	1.30							
35M	2.1	2.15							
36・37M	2.1	2.15							
38M		2.18	3.1						
39M		2.18	2.25						
40M		2.20	3.1						
41～44M				3.15	3.18				
45M						4.18	4.24		
27H		2.15	3.10						
28H				3.10	3.20				
29H						4.18	4.24		
30H						4.20	4.27		
31H						4.28	5.15		
32H								5.10	5.20
225～230D	2.5	2.10							
231～235D	2.10	2.15							
236～240D	2.10	2.15							
241～245D		2.18	2.25						
246～250D		2.18	2.25						
251～255D		2.26	3.5						
256～260D		2.26	3.5						
261～265D				3.6	3.15				
266～270D				3.6	3.15				
271～275D						4.18	4.24		
276～280D						4.18	4.24		
281～285D						4.18	4.24		
286～291D						4.18	4.24		
1～10P	2.1	2.15							
11～20P		2.5	2.10						
21～30P		2.9	2.18						
31～40P		2.19	3.10						
41～50P		2.19	3.10						
51～62P						4.18	4.24		
埋め戻し作業				3.25	3.27			5.23	5.24

第2表 発掘調査工程表



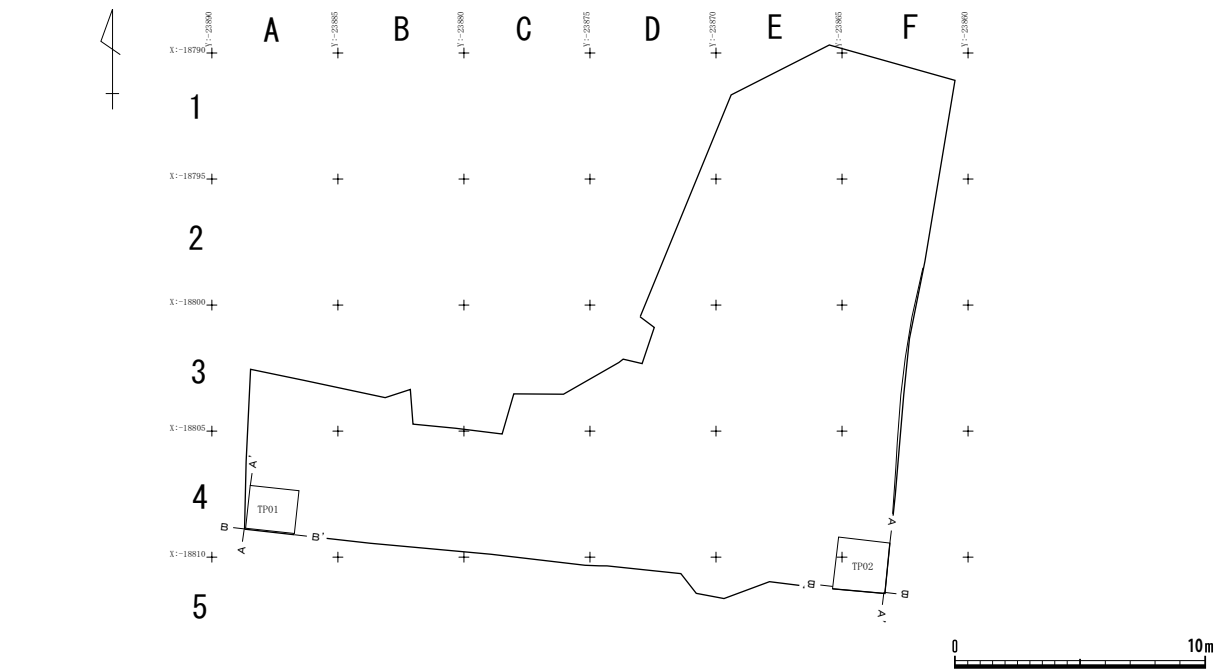


第4図 全測図 (1 / 150)

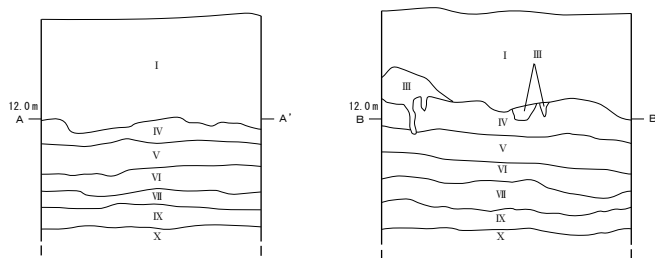
写真撮影、測量を行っている。21・22日は31号住居跡の床下土坑の調査や全体清掃を行い写真撮影、残務作業を行い23・24日に埋め戻し作業・機材撤収作業を行い発掘調査は終了した。

### (3) 基本層序

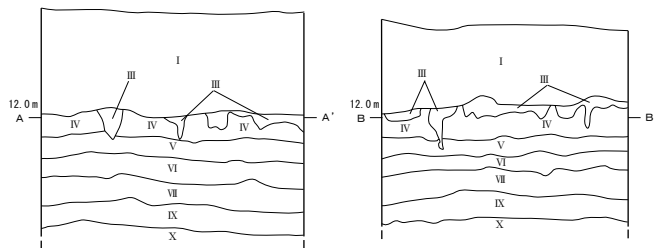
本調査区の基本層序を確認するため、調査区南西及び南東に2か所深掘りトレンチを設定し、土層の記録を行った。確認された層位は立川ローム第Ⅲ層～第Ⅹ層までである。第Ⅱ層より上面は後世の掘削で破壊されている。



TP01



TP02



第Ⅲ層 にぶい黄褐色土層 ソフトローム層 赤色・黒色スコリアを少量含む。  
 第Ⅳ層 明黄褐色土層 ハードローム層 赤色スコリアを少量、黒色スコリアを微量含む。  
 第Ⅴ層 黄褐色土層 第Ⅰ黒色帯層 赤色・黒色スコリアを含む。  
 第Ⅵ層 黄褐色土層 黒色スコリアを少量含む。A T包含層準であるが、白色粒子は極めて僅かである。  
 第Ⅶ層 にぶい褐色土層 第Ⅱ黒色帯層 赤色スコリアを含む。  
 第Ⅷ層 褐色土層 第Ⅱ黒色帯下層 黒色スコリアを含み、赤色スコリアを少量含む。  
 第Ⅸ層 黄褐色土層 小礫を僅かに含み、赤色スコリア・第Ⅸ層土を少量含む。



第5図 基本層序図 (1 / 300・1 / 60)

## 第3節 検出された遺構と遺物

### (1) 概要

本地点からは、縄文時代の土坑7基、ピット1基、古墳時代後期の住居跡2軒、平安時代の住居跡4軒、中世以降の土坑60基、溝跡11条、ピット63本が検出された。各遺構とも調査区の広い範囲に散在しており、明瞭な分布の規則性を見出すことはできない。

### (2) 住居跡

今回の発掘調査において古墳時代後期の住居跡2軒、平安時代の住居跡4軒が検出された。後世の掘り込みにより遺存状態は概ね悪い。調査区全域に分布するが、平安時代の住居跡3軒(30～32号住居跡)はほぼ同一位置に重複する。

#### 27号住居跡

**遺 構** (第6・7図)

[位 置] (A～C-3・4) グリッド。

[検出状況] 北側を36号溝跡、南側を35号溝跡、現代の井戸跡に切られている。北東側と南西側は調査区外である。

[構 造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸5.89m／短軸5.77m／確認面からの深さ30～41cm。長軸方位：N-18°-W。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝：確認部をほぼ全周する。上幅15～21cm／下幅5～12cm／深さ10～13cm。床面：やや起伏をもつ。ほぼ全面に硬化面が認められる。床面中央部より2個所にわたって被熱した掘り込みが認められた。カマド：長軸線にそった北壁中央に位置し、壁外に逆U字形に20cmほど突出する。36号溝跡に大きく破壊されている。袖部は残存していない。長軸0.53m、短軸0.51m、深さ0.40mを測り、燃焼部は底面に円形で確認されている。貯蔵穴：カマドの東側に位置する。上部を36号溝跡に破壊される。平面形は隅丸方形。長軸61cm、短軸59cm、深さ38cm。柱穴：北西隅のP1・3と北東隅のP2・4が本住居の主柱穴と思われる。柱穴の切り合い関係としては、P3がP1を切り、P2がP4を切る。床面からの深さはP1：37cm、P2：47cm、P3：42cm、P4：67cm。掘り方：全体が掘りこまれるが、外縁部がより深く掘り込まれる。深さ5～21cm。

[覆 土] 35層に分層される。

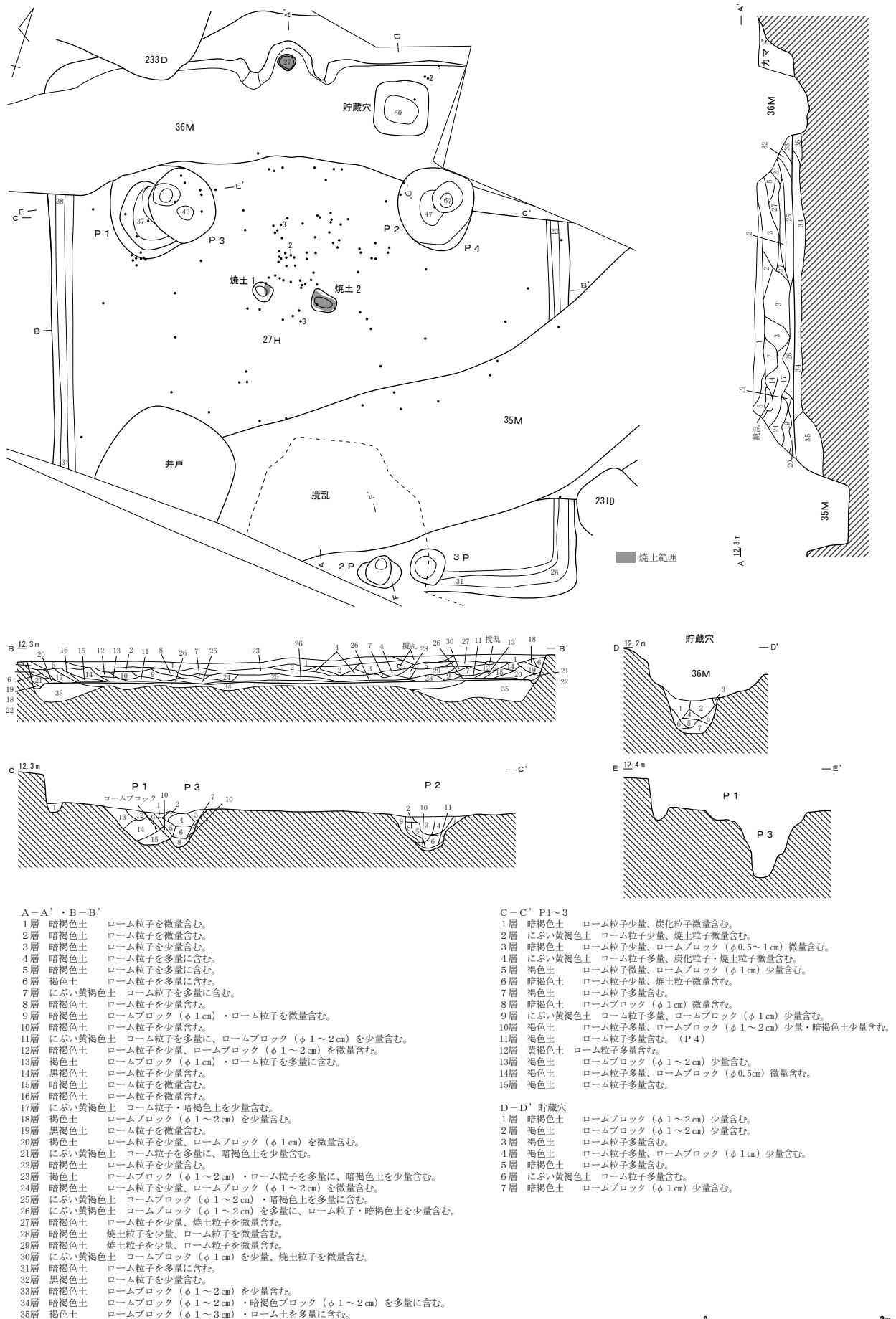
[遺 物] 土師器甕形土器が出土した。

[時 期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

**遺 物** (第8図、図版22-1、第3表)

[土 器] (第8図1～3、図版22-1-1～3、第3表)

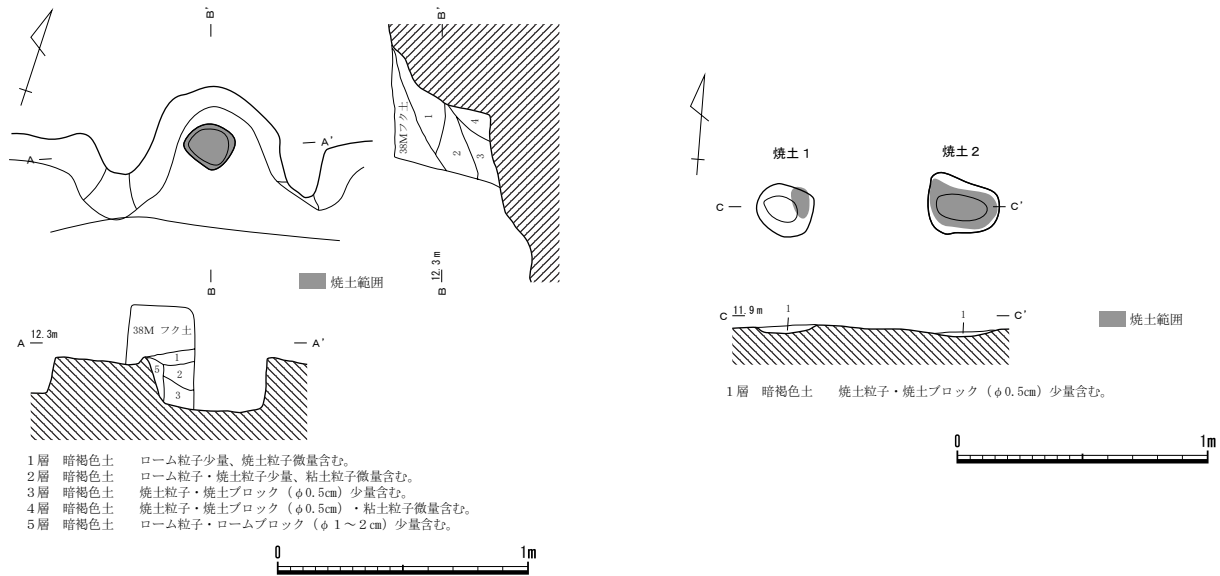
1～3は土師器甕形土器である。



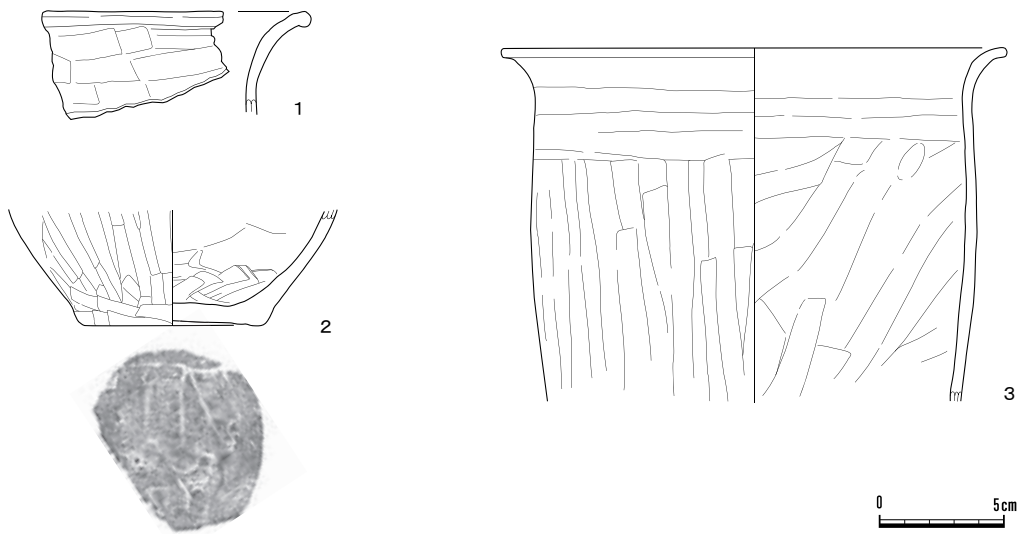
- A-A'・B-B'
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
  - 6層 褐色土 ローム粒子を多量に含む。
  - 7層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多量に含む。
  - 8層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 9層 暗褐色土 ロームブロック(φ1cm)・ローム粒子を微量含む。
  - 10層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 11層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多量に、ロームブロック(φ1~2cm)を少量含む。
  - 12層 暗褐色土 ローム粒子を少量、ロームブロック(φ1~2cm)を微量含む。
  - 13層 褐色土 ロームブロック(φ1cm)・ローム粒子を多量に含む。
  - 14層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 15層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
  - 16層 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
  - 17層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土を少量含む。
  - 18層 褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)を少量含む。
  - 19層 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
  - 20層 褐色土 ローム粒子を少量、ロームブロック(φ1cm)を微量含む。
  - 21層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多量に、暗褐色土を少量含む。
  - 22層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 23層 褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)・ローム粒子を多量に、暗褐色土を少量含む。
  - 24層 暗褐色土 ローム粒子を少量、ロームブロック(φ1~2cm)を微量含む。
  - 25層 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)・暗褐色土を多量に含む。
  - 26層 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)を多量に、ローム粒子・暗褐色土を少量含む。
  - 27層 暗褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。
  - 28層 暗褐色土 焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
  - 29層 暗褐色土 焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
  - 30層 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ1cm)を少量、焼土粒子を微量含む。
  - 31層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
  - 32層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
  - 33層 暗褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)を少量含む。
  - 34層 暗褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)・暗褐色土を多量に含む。
  - 35層 褐色土 ロームブロック(φ1~3cm)・ローム土を多量に含む。

- C-C' P1~3
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量、炭化粒子微量含む。
  - 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック(φ0.5~1cm)微量含む。
  - 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子・焼土粒子微量含む。
  - 5層 褐色土 ローム粒子微量、ロームブロック(φ1cm)少量含む。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
  - 7層 褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 8層 暗褐色土 ロームブロック(φ1cm)微量含む。
  - 9層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック(φ1cm)少量含む。
  - 10層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック(φ1~2cm)少量・暗褐色土少量含む。
  - 11層 褐色土 ローム粒子多量含む。(P4)
  - 12層 黄褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 13層 褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)少量含む。
  - 14層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック(φ0.5cm)微量含む。
  - 15層 褐色土 ローム粒子多量含む。
- D-D' 貯蔵穴
- 1層 暗褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)少量含む。
  - 2層 褐色土 ロームブロック(φ1~2cm)少量含む。
  - 3層 褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 4層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック(φ1cm)少量含む。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 6層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 7層 暗褐色土 ロームブロック(φ1cm)少量含む。

第6図 27号住居跡1(1/60)



第7図 27号住居跡2 (1/30)



第8図 27号住居跡出土遺物 (1/3)

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特徴	色調	胎土	調整	出土位置	遺存度
第8図1 図版 22-1-1	土師器 甕	高 [4.0]	口縁部は外反し、口唇部はやや肥厚する。	内外面：にぶい黄褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒を含む。	外面は横位のヘラナデを施す。	床面直上	口縁部片
第8図2 図版 22-1-2	土師器 甕	高 [4.6] 底 7.2	木葉痕を有する平底から体部は外傾して立ちあがる。	外面：明褐色 内面：にぶい褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒・小石を含む。	体部下位に縦位のヘラナデと横位のヘラケズリを施す。内面は斜位のナデを施す。	床面直上・覆土下層、床面上 5cm程	体部～底部 20%
第8図3 図版 22-1-3	土師器 甕	高 [14.0] 口 (20.0)	口縁部は直立する体部から外反して立ちあがり、口唇部は丸味をもつ。	内外面：にぶい黄褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒・小石を含む。	外面の口縁部はヨコナデを施し、体部は縦位のヘラケズリを施す。内面の口縁部はヨコナデを施し、体部は斜位のヘラケズリを施す。	床面直上・覆土下層、床面上 10cm程	口縁部～体部 30%

第3表 27号住居跡出土土器一覧

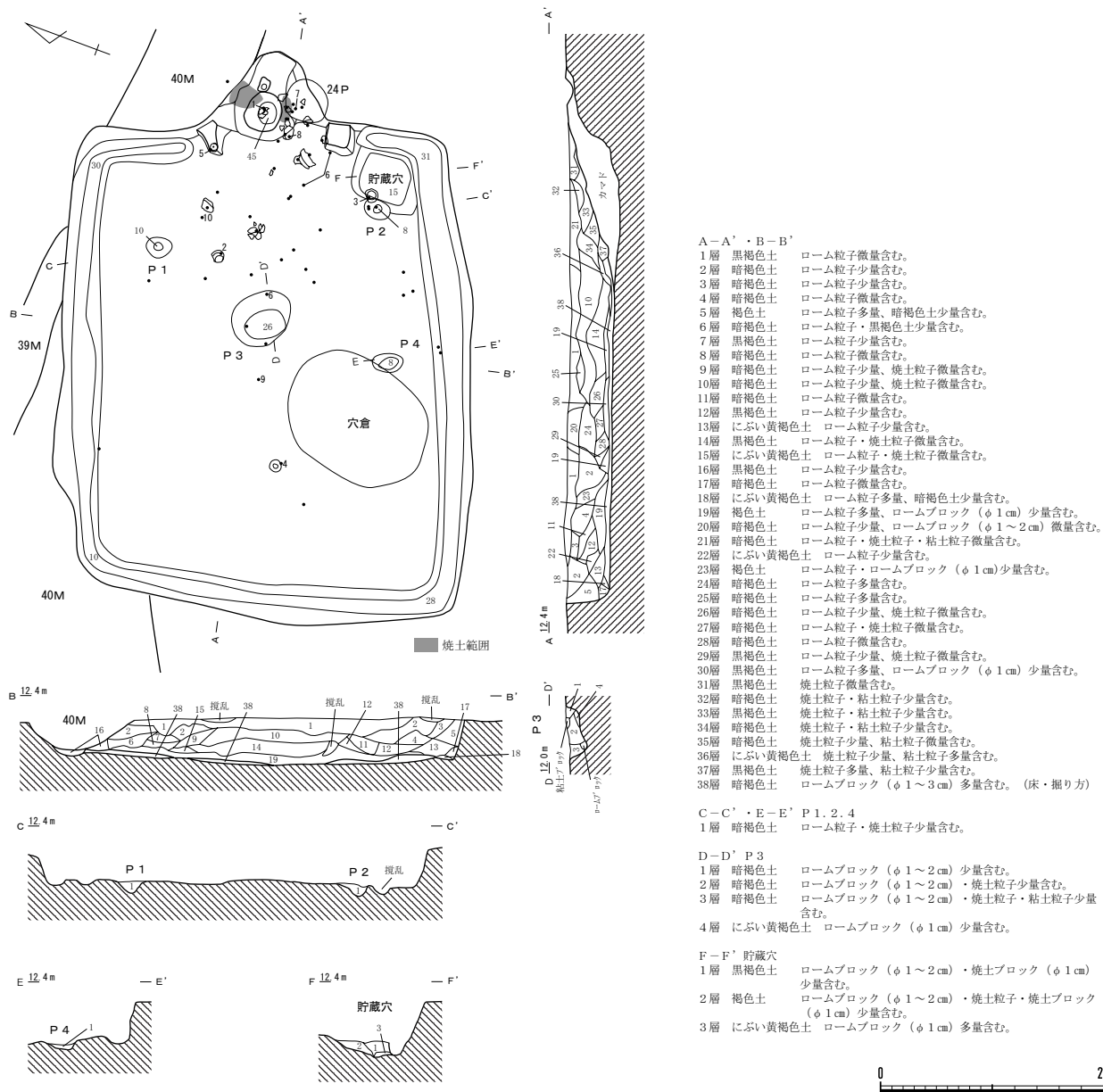
28号住居跡

遺構 (第9・10図)

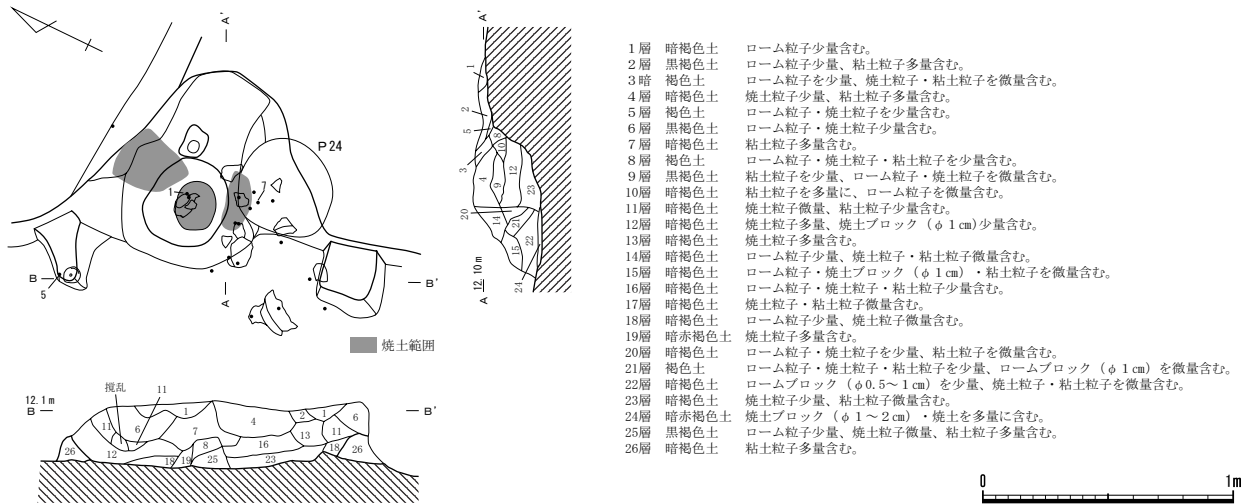
[位置] (D・E-4・5) グリッド。

[検出状況] 39・40号溝跡・現代の穴倉に切られるが、遺存状態は比較的良好である。

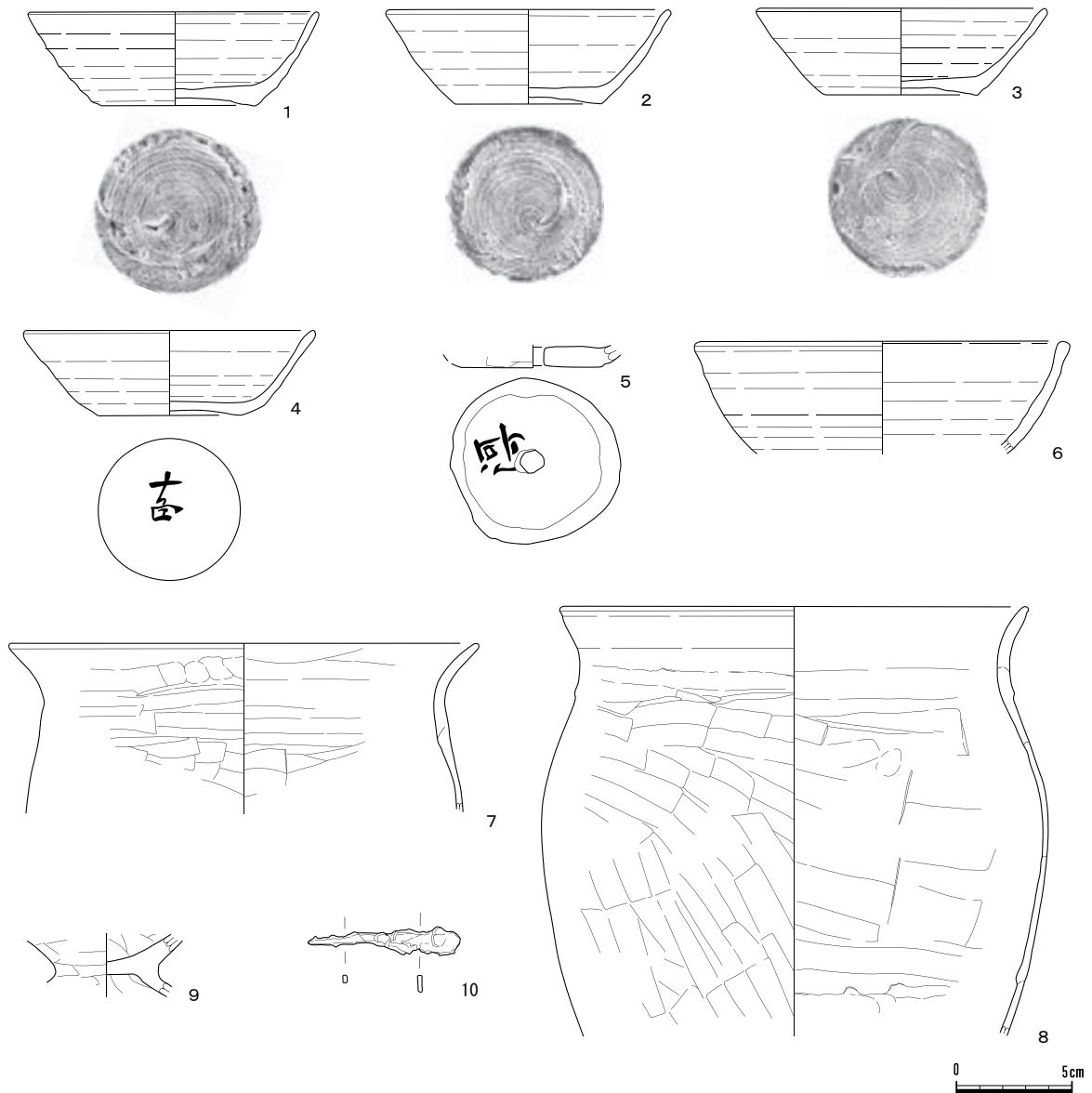
[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：長軸 4.55 m / 短軸 3.73 m / 確認面からの深さ 35 ~ 42cm。長軸方位：N-73°-E。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝：カマド前を除き、巡らされている。上幅 13 ~ 31cm / 下幅 6 ~ 24cm / 深さ 6 ~ 8cm。床面：やや起伏をもち、北側から南側に向けて傾斜する。ほぼ全面に硬化面が認められる。カマド：長軸に沿った東壁中央に位置し、壁外に逆U字形に 55cmほど突出する。袖部は粘土部分が僅かに確認される。長軸 0.78 m / 短軸 0.81 m / 深さ 0.45 m を測り、燃焼部は被熱が弱い焼土や焼土ブロックが確認されている。貯蔵穴：南東コーナーに長軸 60cm、短軸 50cm、深さ 15cm の隅丸方形の落ち込みがあり、貯蔵穴の可能性はある。柱穴：P1 ~ 4 を検出したが、支柱穴であるかどうかは不明である。掘り方：貼り床面直下がローム土である。



第9図 28号住居跡1 (1/60)



第10図 28号住居跡(1/30)



第11図 28号住居跡出土遺物(1/3)

[覆 土] 38層に分層される。

[遺 物] 須恵器環・埴形土器、土師器甕形土器、鉄製品（刀子）が出土した。

[時 期] 平安時代（9世紀中葉）。

**遺 物**（第11図、図版22-2、第4表）

**土 器**（第11図1～9、図版22-2-1～9、第4表）

1～5は須恵器埴形土器であるが、5については紡錘車に転用されている。また、4・5は底部に墨書を有し、4は「音」、5は「調」であろう。6は須恵器埴形土器、7～9は土師器甕形土器であるが、9は台付甕形土器の脚台部である。

**[鉄製品]**（第11図10、図版22-2-10）

10は刀子である。現在長6.5cm・最大幅0.7cm・厚さ4.9cm・重さ3.9g。断面形は方形である。出土位置は覆土である。

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第11図1 図版22-2-1	須恵器 環	高4.0 口12.2 底6.6	平底から体部は外傾して内湾し つつ立ちあがり、口唇部は丸く おさめる。	内外面：灰黄 色	白色粒子・砂粒・ 石英を含む。	内外面とも水挽きを施す。 底部外面に糸切り痕を残す。	カマド覆 土下層、 火床面上 5cm	80%
第11図2 図版22-2-2	須恵器 環	高4.0 口12.2 底6.2	口縁部は上げ底気味の底部から やや内湾しつつ外傾して立ちあ がり、口唇部に至る。	外面：褐灰色 内面：褐灰色	白色粒子・砂粒・ 石英を含む。	内外面とも水挽きされる。 底部外面に糸切り痕を残す。	床面直上	70%
第11図3 図版22-2-3	須恵器 環	高3.7 口12.5 底6.5	口縁部は上げ底気味の底部から 直線的に立ちあがる。	外面：褐灰色 内面：褐灰色	白色粒子・砂粒・ 石英を含む。	内外面とも水挽きされる。 底部外面に糸切り痕を残す。	床面直上	80%
第11図4 図版22-2-4	須恵器 環	高3.6 口12.4 底6.2	口縁部はやや揚げ底を呈する底 部から直線的に外傾して立ちあ がる。口唇部はややふくらみ丸 味をもつ。	内外面：にぶ い黄橙色	白色粒子・砂粒・ 石英・小石を含 む。	底部外面に墨書を有する。	床面直上	80%
第11図5 図版22-2-5	須恵器 環	高[0.9] 底(6.0)	平底から体部は外傾して立ちあ がる。底部中央に孔を穿つ。	内外面：にぶ い黄色	白色粒子・砂粒・ 小石を含む。	底部外面に墨書がみられる。 底部外面に糸切り痕。	覆土中層、 カマド 付近	底部 20%
第11図6 図版22-2-6	須恵器 埴	高[4.8] 口16.0	口縁部は体部から内湾して立ち あがり、口唇部はやや肥厚する。	内外面：灰黄 色	白色粒子をやや 多く、砂粒・石 英・小石を含む。	内外面とも水挽きされる。	覆土下層、 床面上 5cm	口縁部 ～体部 50%
第11図7 図版22-2-7	土師器 甕	高[7.2] 口20.0	口縁部は内傾する体部から外反 しつつ立ちあがり、口唇部は薄 くなる。	内外面：褐色	白色粒子・砂粒・ 石英を含む。	外面は横位のヘラケズリを 施し、内面も横位のヘラナ デ、ヘラケズリを施す。	覆土下層、 床面上 10cm	口縁部 ～体部 20%
第11図8 図版22-2-8	土師器 甕	高18.3 口(20.0)	口縁部は体部中位に張りをも ち、頸部で緩く括れ外反して立 ちあがる。	内外面：褐色	白色粒子・赤色 粒子・砂粒を含 む。	外面の口縁部に輪積み痕を 残し、体部には横位斜位の ヘラケズリを施す。内面は 横位のヘラナデを施す。	カマド覆 土下層、 火床面上 10cm	口縁部 ～体部 40%
第11図9 図版22-2-9	土師器 台付甕	—	ハの字状に開く脚部から体部は 外傾して立ちあがる。	内外面：黒褐 色	白色粒子・砂粒 を含む。	体部と脚部ともにヘラナデ を施す。	覆土上層、 床面上 25cm	胴部下端 ～脚部上 端 20%

第4表 28号住居跡出土土器一覧

## 29号住居跡

**遺 構**（第12図）

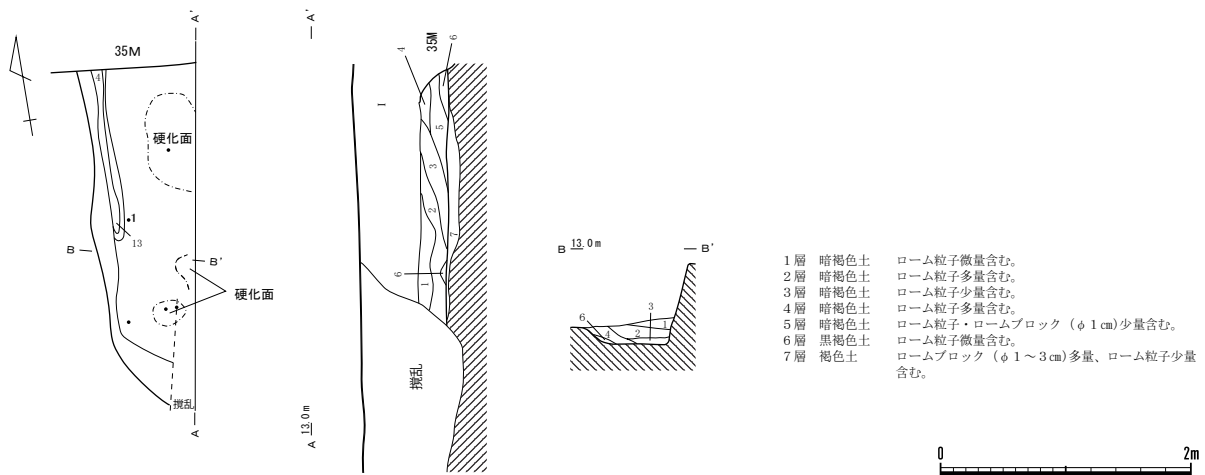
[位 置]（F-1）グリッド。

[検出状況] 南側で攪乱に、北側で35号溝跡に切られる。東側は調査区外である。

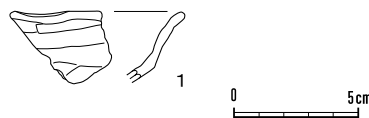
[構 造] 平面形：推定隅丸方形。規模：長短軸不明、確認面からの深さ10～18cm。長軸方位：N-3°-W。壁：緩やかに立ち上がる。壁溝：西側の一部で確認された。上幅18～23cm、下幅5～8cm、深さ5～13cm。床面：全体的に攪乱で破壊され遺存状況は悪いが、残存部分はやや起伏を持ち、部分的にしっかりとした硬化面が確認された。カマド・貯蔵穴・ピット：検出されていない。掘り方：硬化面直下が地山であり、認められなかった。



- [覆 土] 7層に分層される。
  - [遺 物] 土師器環形土器が出土した。
  - [時 期] 古墳時代後期（7世紀）。
  - 遺 物** (第13図、図版22-3、第5表)
  - [土 器] (第13図1、図版22-3-1、第5表)
- 1は土師器環形土器である。



第12図 29号住居跡 (1/60)



第13図 29号住居跡出土遺物 (1/3)

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第13図1 図版22-3-1	土師器 環	—	口縁部は外傾する体部下位に段を有し外反して立ちあがる。口縁部の一部は歪みをもつ。	内外面：橙色	白色粒子・砂粒・石英を含む。	外面は横位斜位のヘラケズリを施す。	床面直上	口縁部片

第5表 29号住居跡出土土器一覧

### 30号住居跡

**遺 構** (第14・15図)

[位 置] (E・F-1・2) グリッド。

[検出状況] 31・32号住居跡を切る。35号溝跡に切られる。遺存状態は概ね良好である。

[構 造] 平面形：不整な隅丸長方形。規模：長軸4.45m/短軸3.60m以上/確認面からの深さ18~28cm。長軸方位：N-85°-E。壁溝：北東コーナーからカマド右袖部、北西コーナーから南西コーナーにかけて確認できた。上幅9~20cm、下幅6~18cm、深さ7~10cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。床面：やや起伏をもち、南東側に傾斜する。硬化面は東西側にしっかりとした硬化面が認められた。カマド：短軸線にそった北壁西寄りに位置し、壁外に逆U字形に50cmほど突出する。左袖部には瓦が貼

り付けられる。長軸 0.72 m、短軸 0.5 m／深さ 0.34 m を測り、燃焼部は多量の焼土が確認されている。  
 貯蔵穴：認められなかった。柱穴：P 1～8 まで検出したが、位置・規模の点で支柱穴であるか不明である。掘り方：住居全体を概ね平坦に掘り込まれている。

[覆 土] 21 層に分層される。

[遺 物] 須恵器坏・埴・壺・甕形土器、土師器甕形土器、土製品、瓦が出土した。第 18 図の瓦はカマド左袖部から立った状態で出土しており、袖部の構築材として利用されたものと考えられる。

[時 期] 平安時代（9 世紀末葉）。

**遺 物**（第 16・17 図、図版 23、第 6・7 表）

[土 器]（第 16 図 1～8、図版 23-1-1～8、第 6 表）

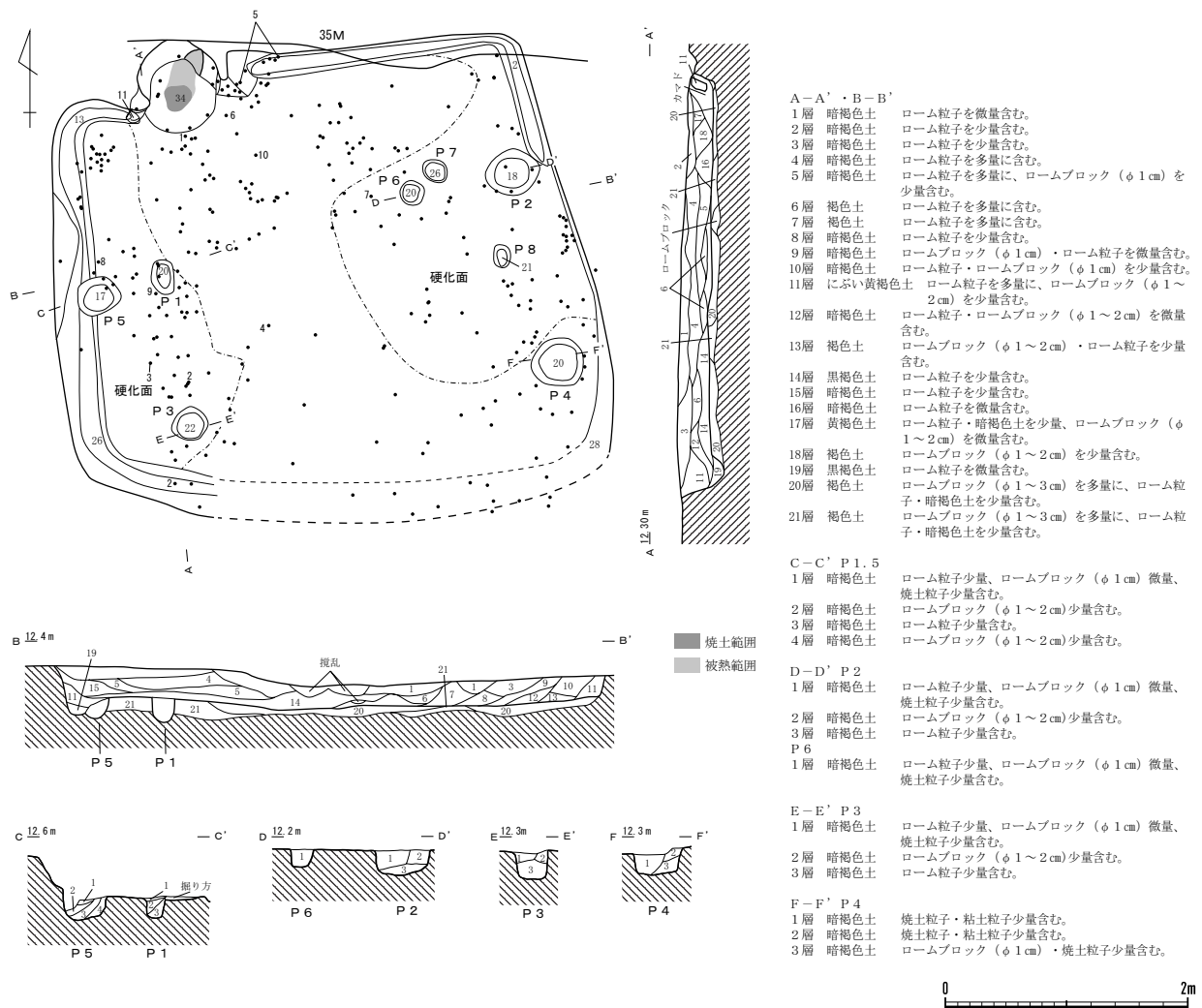
1 は須恵器坏形土器、2 は埴形土器、3 は壺形土器、4 は甕形土器、5～8 は土師器甕形土器。

[土 製 品]（第 16 図 9、図版 23-1-9）

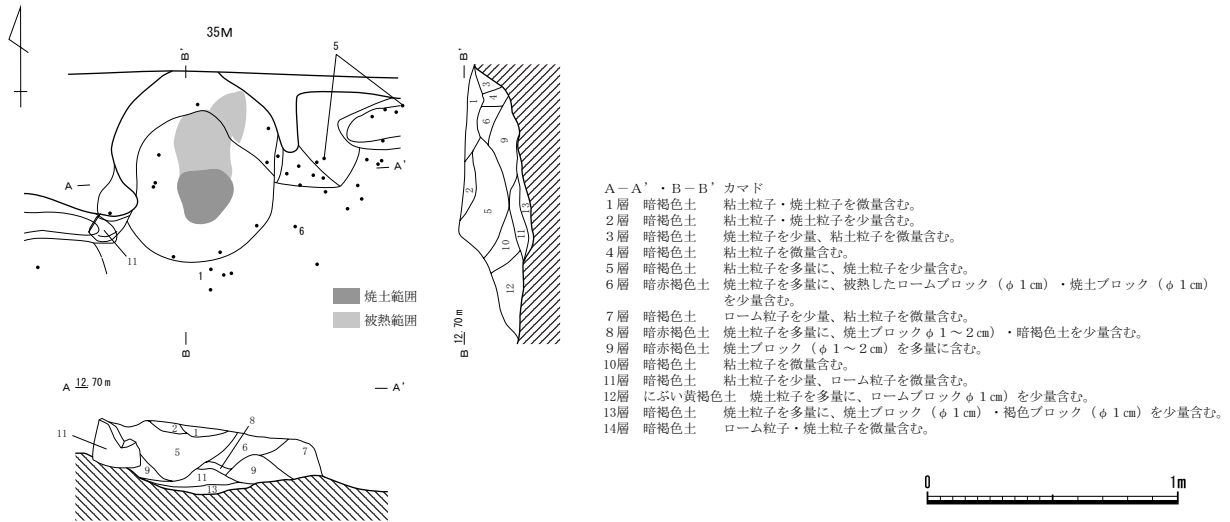
9 は不明土製品。上下両端を欠損する。現在長 14cm、幅 1.4cm。横断面形は長方形。柄のような形状であり、上部で接合痕が認められる。覆土上～中層での出土。

[瓦]（第 17 図 10・11、図版 23-1-10・11、第 7 表）

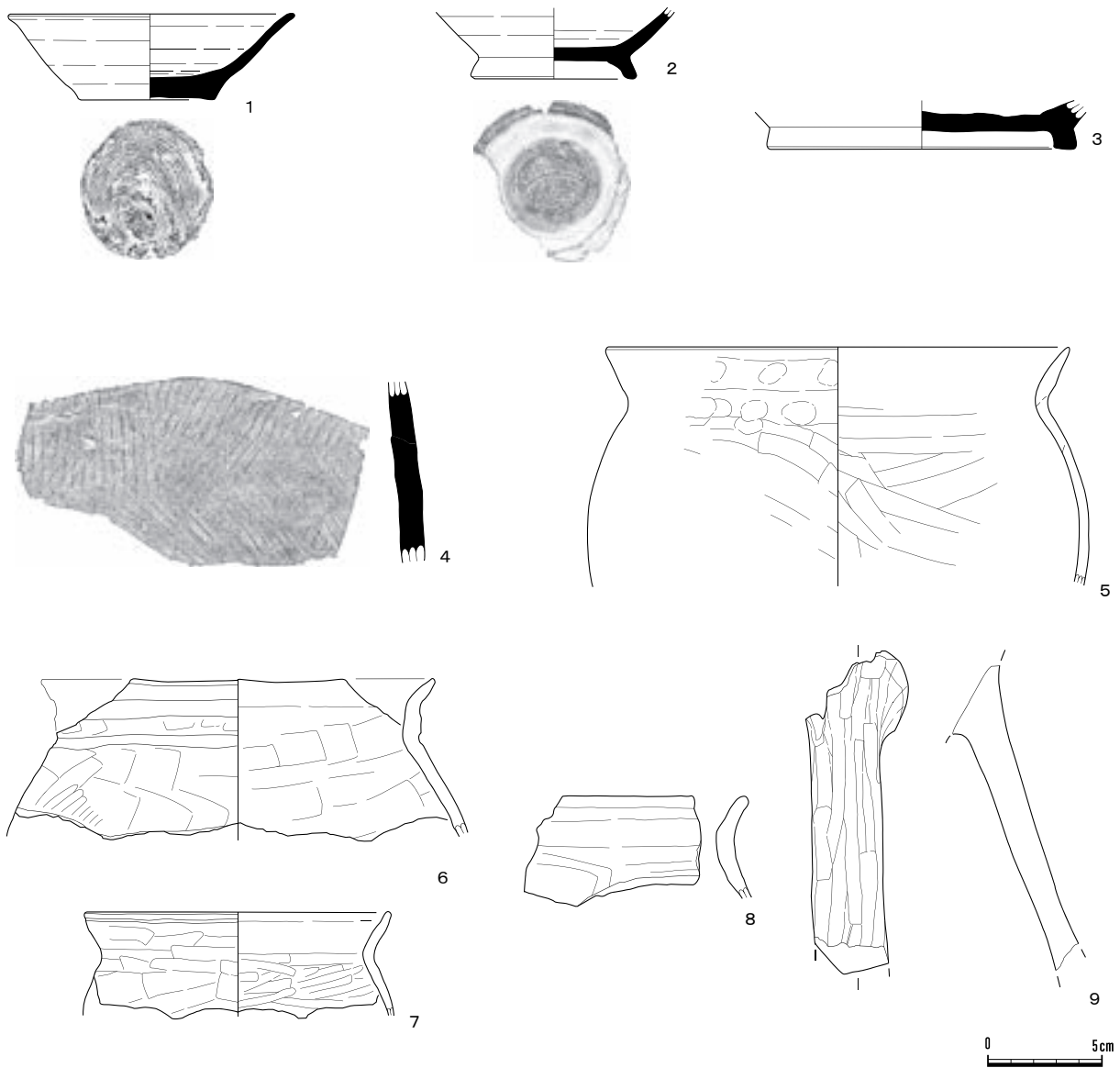
10 は丸瓦、11 は平瓦である。



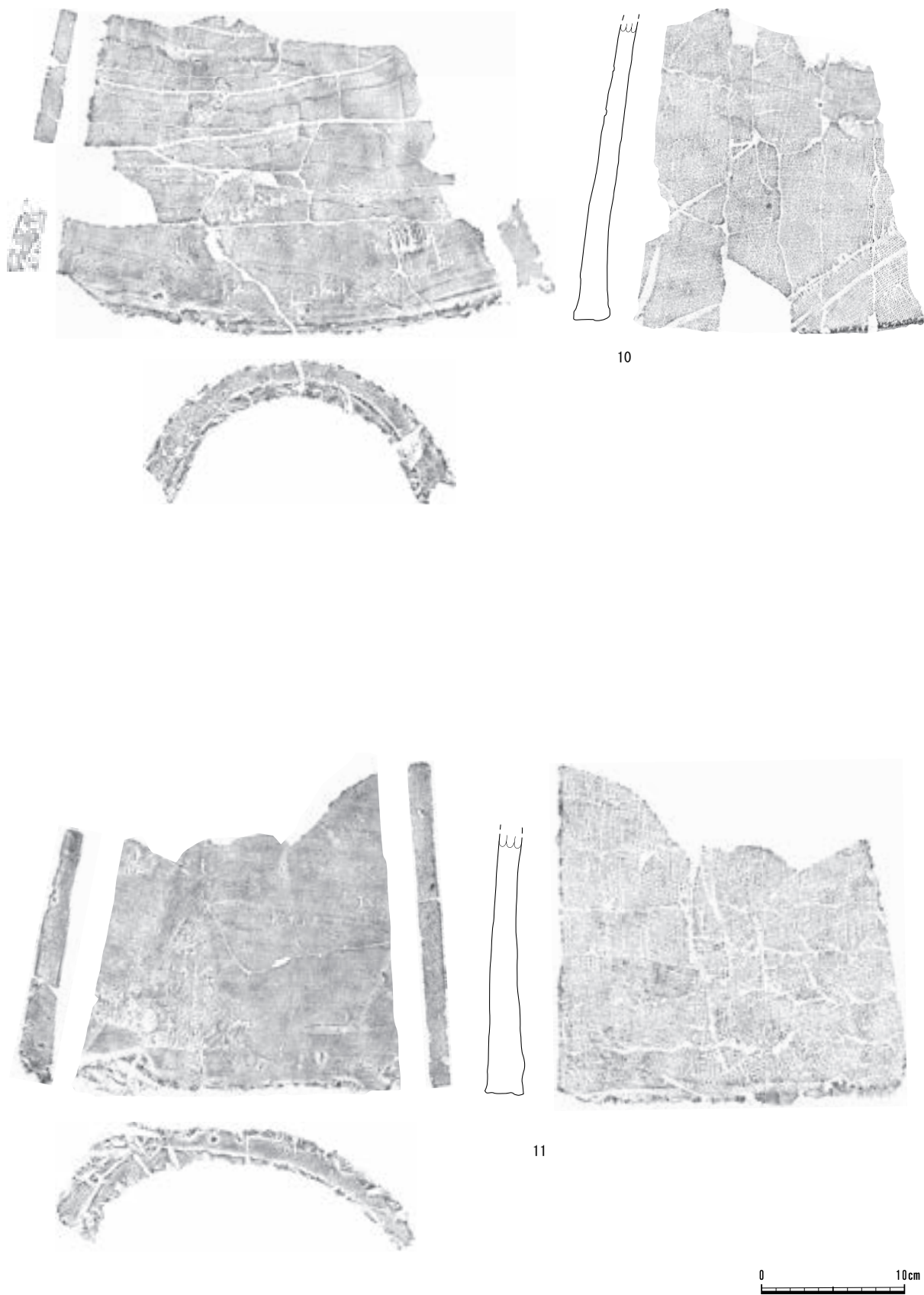
第 14 図 30 号住居跡（1 / 60）



第15図 30号住居跡 (1 / 30)



第16図 30号住居跡出土遺物 1 (1 / 3)



第17図 30号住居跡出土遺物2 (1/4)

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第 16 図 1 図版 23-1-1	須恵器 坏	高 3.7 口 12.2 底 5.8	平底から体部は大きく開いて直線的に立ちあがり、口唇部は薄くなり丸味をもつ。	内外面：にぶい黄橙色	白色粒子・砂粒・石英・小石を含む。	底部に糸切り痕を残す。	覆土下層、床面上 5cm	80%
第 16 図 2 図版 23-1-2	須恵器 埴	高 [3.0] 底 (7.0)	高台はハの字状に開き、体部は外傾して立ちあがる。	外面：にぶい黄橙色 内面：黄灰色	白色粒子・黒色粒子・砂粒・石英を含む。	内外面とも水挽きされる。	覆土中層、床面上 15cm	体部～高台部 30%
第 16 図 3 図版 23-1-3	須恵器 壺	高 [2.1] 底 (13.2)	直立気味の高台から、体部は外傾して立ちあがる。	内外面：灰黄色	白色粒子・黒色粒子・砂粒・小石を含む。	外面に自然釉。	覆土下層、床面上 5cm	底部 20%
第 16 図 4 図版 23-1-4	須恵器 甕	—		外面：暗灰黄色 内面：灰黄色	白色粒子・砂粒・石英・チャートを含む。	外面に縦位と斜位のタタキ目を施す。	覆土下層、床面上 5cm	体部片
第 16 図 5 図版 23-1-5	土師器 甕	高 [10.3] 口 20.0	口縁部は体部中位が張り、頸部で括れ外傾して立ちあがり、口唇部は尖り気味となる。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	赤色粒子・砂粒・角閃石を含む。	外面の口縁部にコビオサエを加え、体部は斜位のヘラケズリを施す。内面は横斜位のヘラケズリを加える。	覆土下層、床面上 5cm	口縁部～体部 20%
第 16 図 6 図版 23-1-6	土師器 甕	高 [6.8] 口 (17.0)	体部は内傾しつつ立ちあがり、頸部は直立し、口縁部は外傾して開き、口唇部は薄くなる。	外面：明褐色 内面：橙色	白色粒子・赤色粒子・砂粒を含む。	外面の口縁部～頸部はヨコナデを施し、体部はヘラナデの上に一部ヘラミガキを加える。内面はヘラナデを施す。	覆土下層、床面上 5cm	口縁部～体部 30%
第 16 図 7 図版 23-1-7	土師器 甕	高 [4.5] 口 (13.2)	内傾して立ちあがる体部から口縁部はくの字状に開き、口唇部下に 1 条の沈線をめぐらす。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒を含む。	外面は横位斜位のヘラナデを施す。内面は横位斜位の細かいヘラミガキを施す。	覆土中層、床面上 10cm	口縁部～体部 20%
第 16 図 8 図版 23-1-8	土師器 甕	—	口縁部は外反して立ちあがる。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子・砂粒・石英を含む。	口唇部は丸味をもつ。外面はヨコナデを施す。	覆土下層、床面上 5cm	口縁部片

第 6 表 30 号住居跡出土土器一覧

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第 17 図 10 図版 23-1-10	丸瓦	長さ [22.2] 幅 6.7	平底から体部は大きく開いて直線的に立ちあがり、口唇部は薄くなり丸味をもつ。	外面：にぶい黄褐色 内面：橙色	白色粒子・赤色粒子・砂粒を含む。	凸面に縄叩き後ヘラケズリ、ナデ、凹面に布目。	カマド左袖部に直立	基部～広端部 60%
第 17 図 11 図版 23-1-11	平瓦	長さ [23.5] 幅 7.5	直立気味の高台から、体部は外傾して立ちあがる。	外面：褐灰色 内面：褐灰色	白色粒子・砂粒・小石を含む。	凸面に縄叩き後ヘラケズリ、ナデ、凹面に布目。	カマド前床面直上	基部～広端部 60%

第 7 表 30 号住居跡出土瓦一覧

### 31 号住居跡

#### 遺 構 (第 18・19 図)

[位 置] (E・F-1・2) グリッド。

[検出状況] 30 号住居跡に切られ、32 号住居跡を切る。遺存状態は切り合い関係のため不良である。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸 5.31 m / 短軸 3.58 m / 確認面からの深さ 0.11 ~ 0.51 m。長軸方位：N - 12° - W。壁溝：カマド前を除き、住居内を全周する。上幅 11 ~ 17cm、下幅 6 ~ 14cm、深さ 9 ~ 13cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。床面：やや起伏をもつ。硬化面が認められた。硬化面は 2 面貼られていて、上層の硬化面はカマドの周囲に粘土や焼土を混入する土で床面を貼っている。下層の硬化面は強く貼られている。図示できなかったがカマド前の下層掘り方土中で支脚状の粘土塊が出土している。カマド：短軸線にそった東壁南寄りに位置し、壁外に逆 U 字形に 70cm ほど突出する。袖部は地山を僅かに残し、その周囲に粘土を貼り付け構築されている。長軸 1.15 m、短軸 0.70 m、深さ 0.38 m を測り、燃焼部は多量の焼土や焼土ブロックが確認され、良く被熱する。貯蔵穴：認められなかった。柱穴：本住居全体から 10 本検出された。このうち P 1 ~ 4 は本住居の主柱穴と思われる。床面からの深さは P 1 : 12cm、P 2 : 14cm、P 3 : 51cm、P 4 : 12cm、P 5 : 11cm、P 6 : 12cm、P 7 : 29cm、P 8 : 26cm、P 9 : 25cm、P 10 : 41cm。掘り方：外縁部がやや深く掘り込まれる。深さ 10 ~ 28cm。

また、本住居の北側より土坑状の掘り込みが検出されている。全体の大きさを計り長軸 1.52 m／短軸 0.76 m／深さ 0.59 mを測る。

〔覆 土〕 41層に分層される。

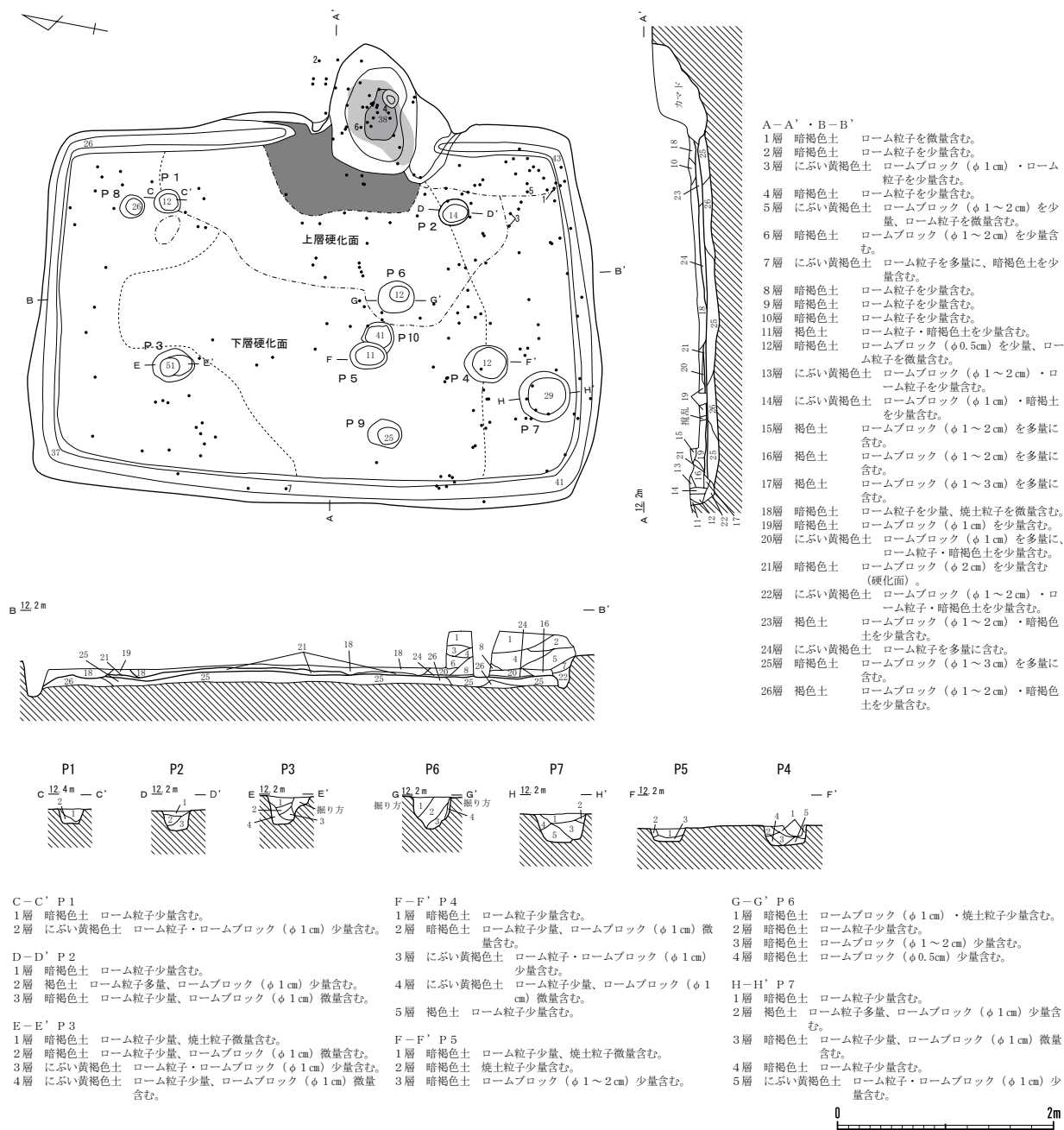
〔遺 物〕 須恵器坏形土器、土師器甕形土器が出土した。

〔時 期〕 平安時代（9世紀後葉）

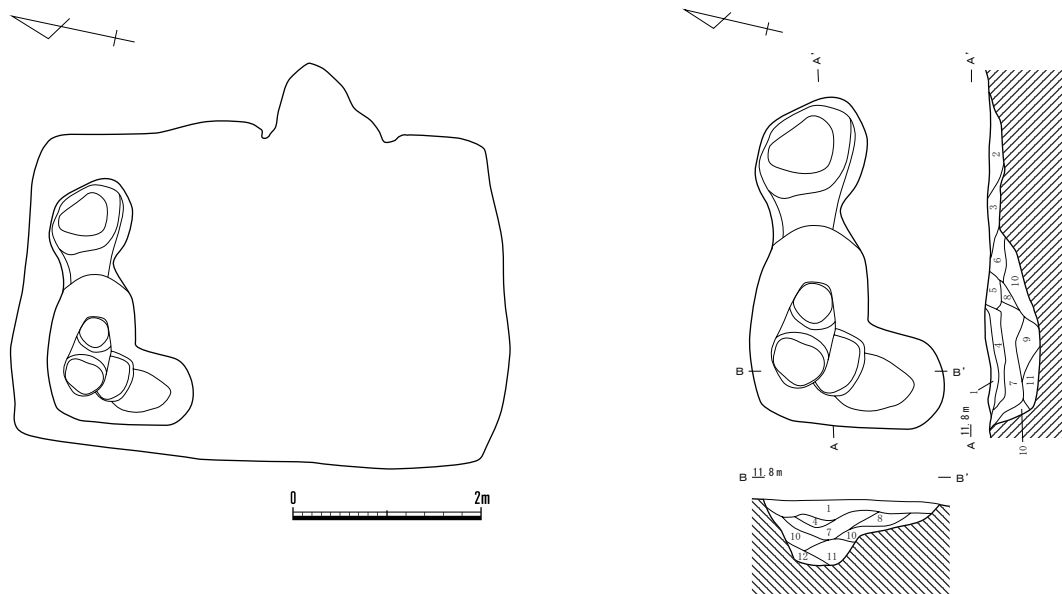
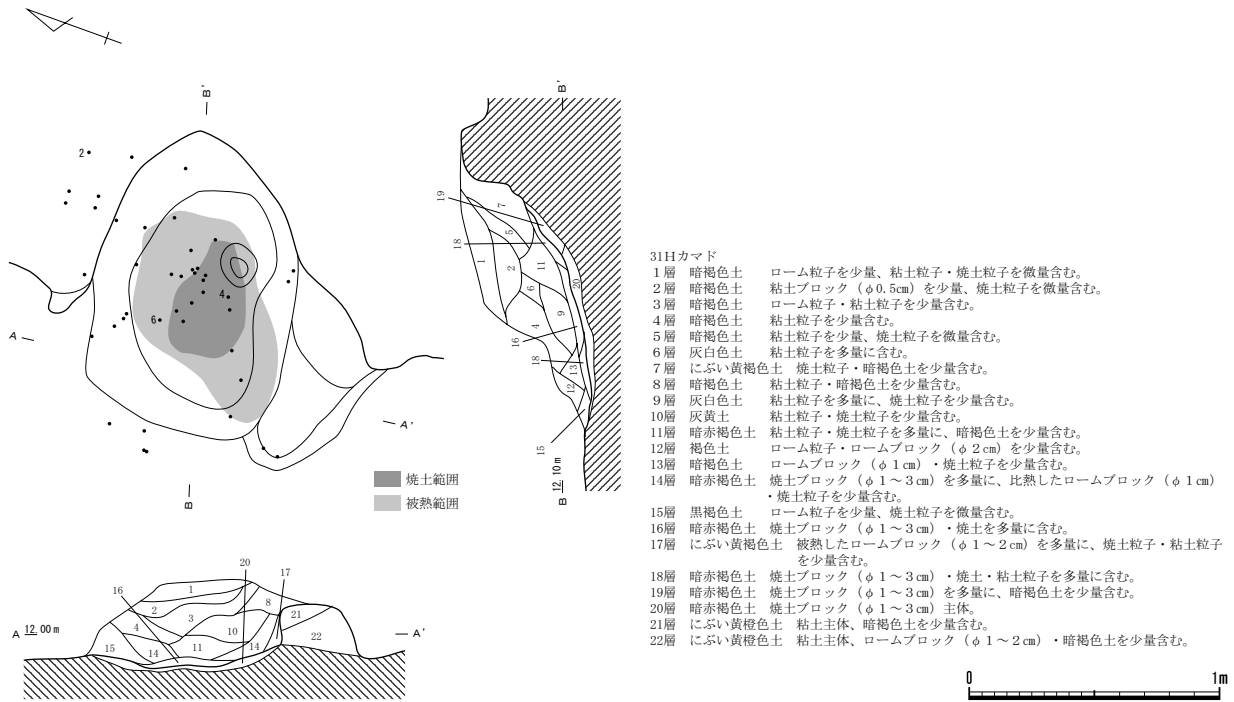
遺 物（第20図、図版24-1、第8表）

〔土 器〕（第20図1～7、図版24-1-1～7、第8表）

1～3は須恵器坏形土器、4～7は土師器甕形土器である。

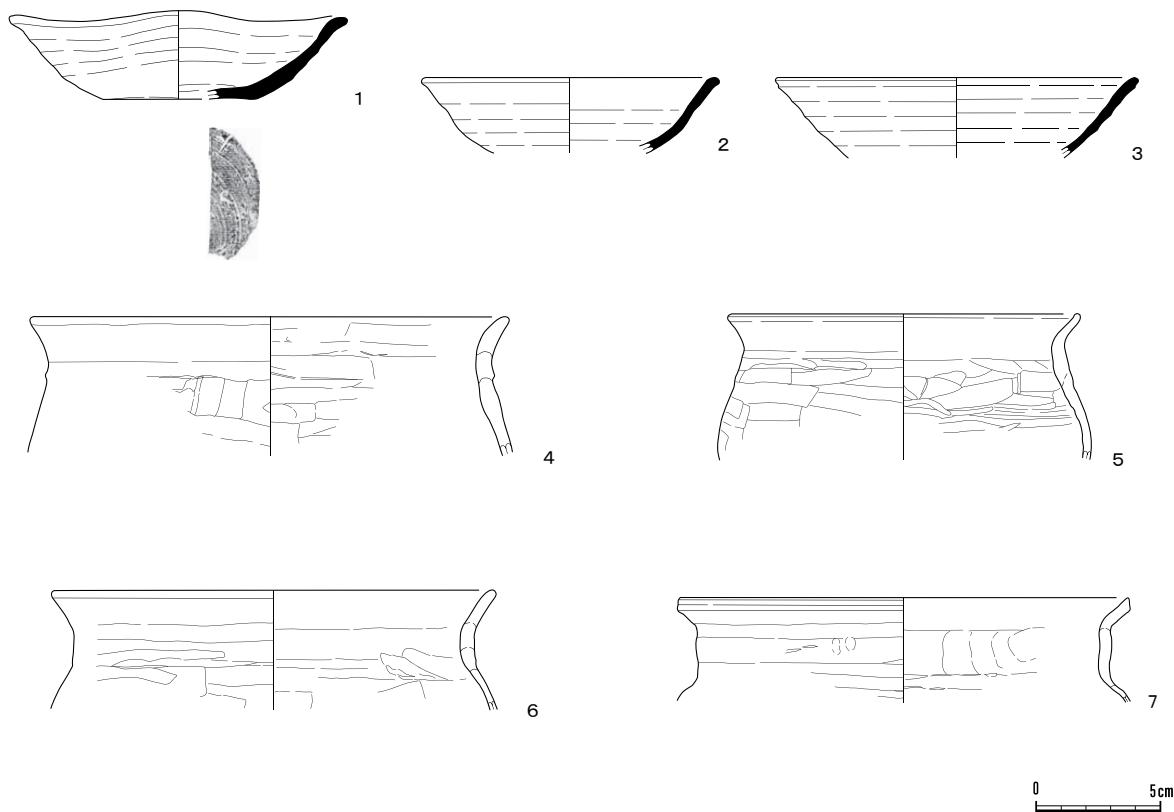


第18図 31号住居跡1（1／60）



第19図 31号住居跡2（1/30・1/80・1/60）





第20図 31号住居跡出土遺物（1／3）

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第20図1 図版24-1-1	須恵器 環	高3.5 口(13.4) 底(6.0)	口縁部は平底から直線的に立ちあがる。口端部は外反する。	外面：灰黄褐色 内面：灰褐色	石英をやや多く、白色粒子・砂粒を含む。	器形に歪みがあり、内外面とも水挽きされる。底部外面に糸切り痕を残す。	覆土下層、床面上5cm	30%
第20図2 図版24-1-2	須恵器 環	高[3.0] 口(11.8)	口縁部は体部から内湾しつつ立ちあがる。	内外面：灰色	白色粒子・砂粒・石英・小石を含む。	内外面とも水挽きされる。	カマド覆土中層、火床面上15cm	口縁部～体部 30%
第20図3 図版24-1-3	須恵器 環	高[3.2] 口(14.4)	口縁部は体部から直線的に外傾して立ちあがる。	外面：灰色 内面：黄灰色	白色粒子・砂粒・石英・小石を含む。	内外面とも水挽きされる。	床面直上・床面下5cm	口縁部～体部 30%
第20図4 図版24-1-4	土師器 甕	高[5.5] 口(19.0)	口縁部はやや内傾する体部からゆるやかに立ちあがり外反する。	内外面：にぶい黄橙色	金雲母を僅かに、砂粒を含む。	外面の口縁部はヨコナデし、体部は横位のヘラケズリを施す。内面の口縁部はヨコナデされ、体部は横位のヘラケズリを施す。	カマド火床面下5cm	口縁部～体部 20%
第20図5 図版24-1-5	土師器 甕	高[5.8] 口(14.0)	口縁部は体部中位から内傾して立ちあがり、頸部に括れ外傾して立ちあがる。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒を含む。	内外面とも口縁部はヨコナデを施し、体部は横位のヘラケズリを施す。	覆土下層、床面上5cm	口縁部～体部 20%
第20図6 図版24-1-6	土師器 甕	高[4.7] 口(17.6)	口縁部は内湾して立ちあがる体部から直立する頸部につながりゆるやかに外反する。	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子・砂粒を含む。	外面は口縁部～頸部にかけてヨコナデを施す。内面も横位のナデを施す。	カマド覆土下層、火床面上5cm	口縁部～体部 20%
第20図7 図版24-1-7	土師器 甕	高[4.2] 口(17.8)	口縁部は内傾する体部から直立する頸部につながり強く外傾する。口端部は尖る。	外面：黒褐色 内面：褐色	白色粒子・砂粒・角閃石を含む。	外面はヨコナデを施し、内面は横位のナデを施す。	周溝内	口縁部～体部 20%

第8表 31号住居跡出土土器一覧

32号住居跡

遺 構 (第21図)

[位 置] (F-1) グリッド。

[検出状況] 大半を30・31号住居跡、北側を35号溝跡に切られる。遺存状態は切り合い関係から悪い。



**[構造]** 平面形：不明。規模：長軸不明／短軸 2.43 m／確認面からの深さ 15cm。長軸方位：N-86°-E。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝：検出されていない。床面：概ね平坦である。しっかりした硬化面がカマド全面に確認された。カマド：東壁に位置し、壁外に逆U字形に 70cmほど突出する。袖部は地山を僅かに残し、その周囲に粘土を貼り付け構築されている。燃烧部は長軸 0.94 m、短軸 0.64 m、深さ 0.31 mを測り、燃烧部は多量の焼土や焼土ブロックが確認され、良く被熱する。また、覆土中よりカマドの支脚と考えられる遺物が出土している。貯蔵穴：カマドの北側に位置する。平面形は隅丸方形。長軸 69cm、短軸 58cm、深さ 35cm。柱穴：確認されていない。掘り方：貼り床面直下が地山である。

**[覆土]** 9層に分層される。

**[遺物]** 須恵器环形土器、土師器甕形土器、土製品（支脚）が出土した。

**[時期]** 平安時代（9世紀中～後葉）

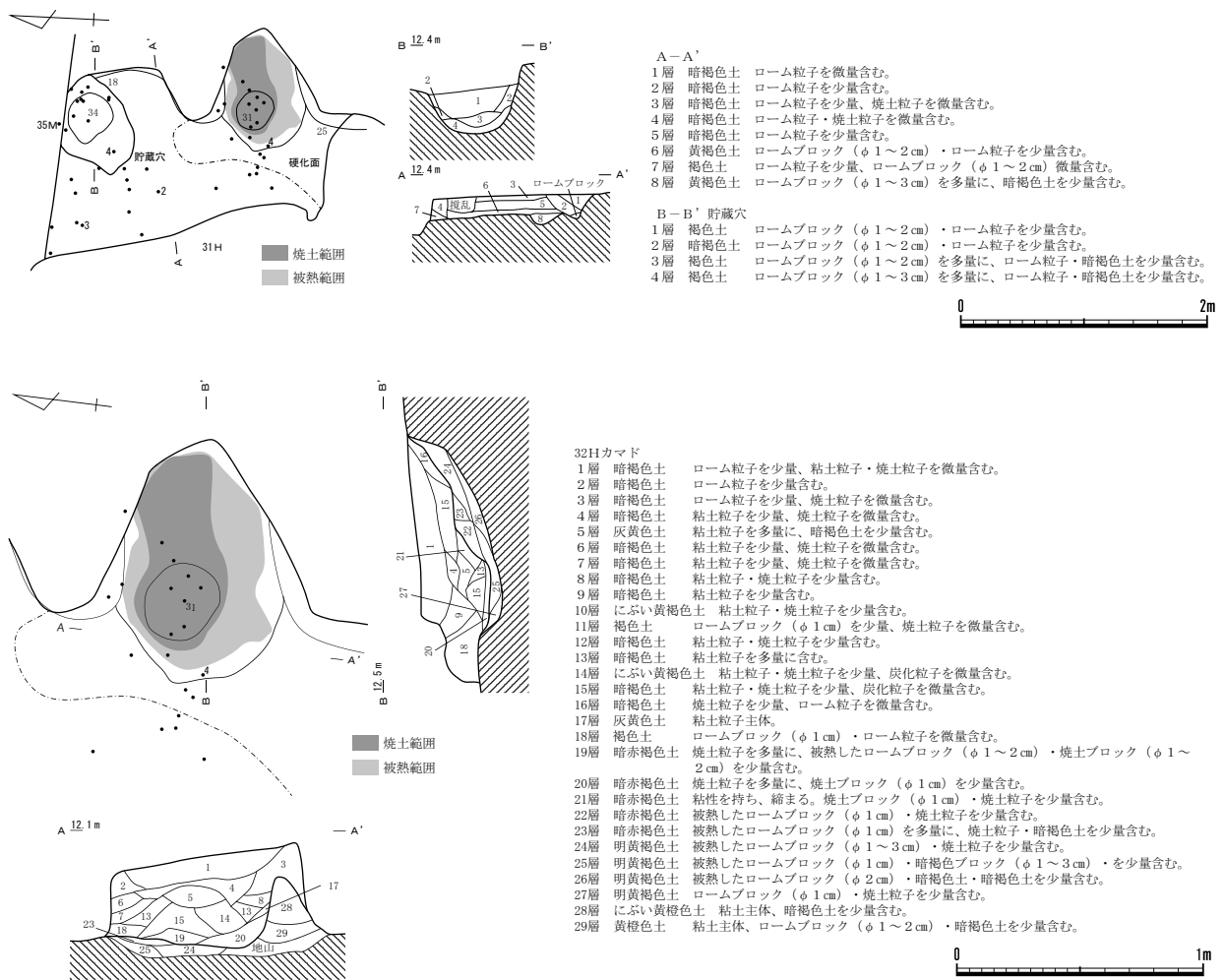
**遺物**（第22図、図版24-2、第9・10表）

**[土器]**（第22図1～3、図版24-2-1～3、第9表）

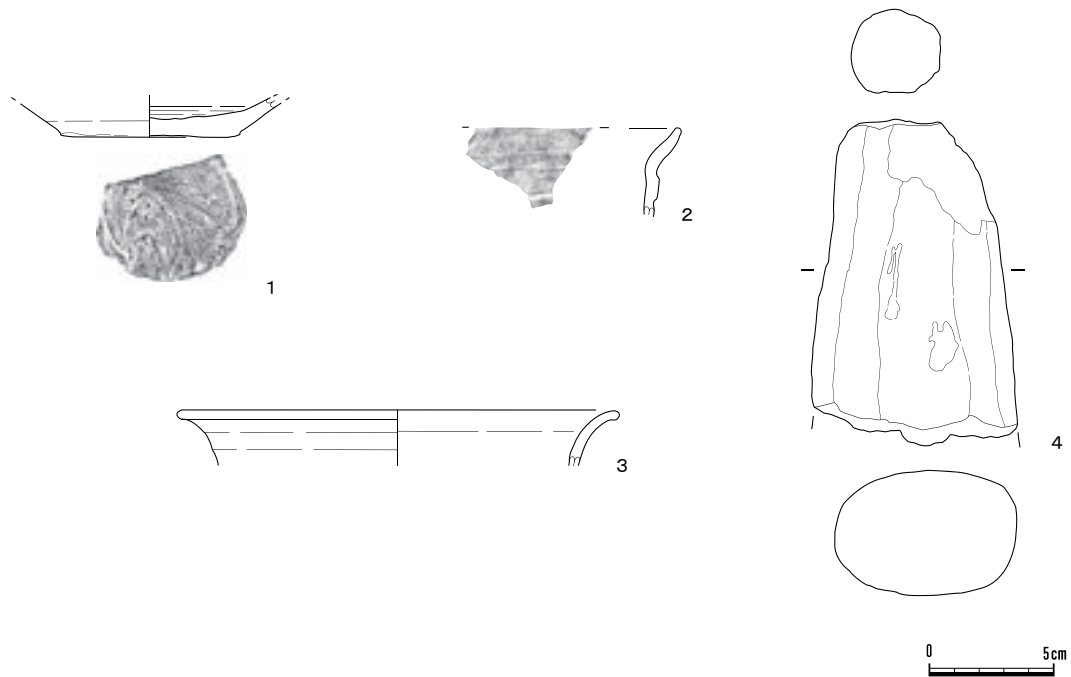
1は須恵器环形土器、2・3は土師器甕形土器である。

**[土製品]**（第22図4、図版24-2-4、第10表）

4は支脚である。



第21図 32号住居跡（1/60・1/30）



第22図 32号住居跡出土遺物（1／3）

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第22図1 図版24-2-1	須恵器 坏	高 [1.6] 底 (7.1)	平底から体部は外傾して立ちあがる。	内外面：橙色	赤色粒子・砂粒を含む。	糸切り痕。ロクロ整形。	カマド覆土下層、火床面上5cm	体部～底部 20%
第22図2 図版24-2-2	土師器 甕	高 [3.9]	口縁部は外傾して立ちあがる。体部から更に開いて立ちあがる。	内外面：黒褐色	白色粒子・砂粒を含む。	外面はヨコナデを施す。	覆土下層、床面上5cm	口縁部片
第22図3 図版24-2-3	土師器 甕	高 [2.2] 口 (17.6)	口縁部は体部から外反して立ちあがる。口唇部は丸味をもつ。	内外面：明黄褐色	白色粒子・砂粒を含む。	外面はヨコナデを施す。	覆土下層、床面上5cm	口縁部 20%

第9表 32号住居跡出土土器一覧

図版番号 挿図番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第22図4 図版24-2-4	支脚	高 12.7 幅 8.0 厚 4.9	下半を欠損。	外面：にぶい黄橙色	白色粒子・砂粒を含む。	縦位のヘラケズリを施す。	床面直上	先端部～基部

第10表 32号住居跡出土土製品一覧

### (3) 土 坑

今回の発掘調査において縄文時代から中世以降の土坑が67基検出された。溝跡や攪乱などにより遺存状態は概ね悪い。調査区全域に満遍なく分布する。以下から各土坑の法量等を説明していく。また、225・226・231・234・251～257・261・263・266～268・272・286号土坑については木根痕等の可能性があり個別の説明ではなく末尾の一覧表をもって説明としたい。

#### 227号土坑

遺 構 (第23図)

[位 置] (A-3・4) グリッド。

- [検出状況] 36号溝跡に切られる。西側は調査区外に延びるものと思われる。
- [構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長径 1.80 m以上／短軸 0.71 m／深さ 40cm。長軸方位：N－70°－E。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。
- [覆土] 10層に分層される。
- [遺物] 出土遺物はなかった。
- [時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 228号土坑

- 遺構** (第23図)
- [位置] (A－4)グリッド。
- [検出状況] 229号土坑を切り、230号土坑・5・8号ピットに切られる。西側は調査区外に延びるものと思われる。
- [構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸 1.50 m以上／短軸 0.63 m／深さ 28cm。長軸方位：N－65°－W。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。
- [覆土] 2層に分層される。
- [遺物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。
- [時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 229号土坑

- 遺構** (第23図)
- [位置] (A－4)グリッド。
- [検出状況] 228・230号土坑、5・8号ピットに切られる。
- [構造] 平面形：長楕円形。規模：長軸 2.05 m／短軸 1.44 m／深さ 25cm。長軸方位：N－27°－W。壁：45～60°の角度で立ち上がる。底面はやや起伏を持ち、丸味を帯びる。
- [覆土] 3層に分層される。
- [遺物] 縄文土器、陶器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。
- [時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 230号土坑

- 遺構** (第23図)
- [位置] (A－4)グリッド。
- [検出状況] 228・229号土坑を切り、5・8号ピットに切られる。南側は調査区外に延びるものと思われる。
- [構造] 平面形：長楕円形。規模：長軸 1.50 m以上／短軸 0.69 m／深さ 33cm。長軸方位：N－3°－W。壁：55～80°の角度で立ち上がる。底面は起伏を持つ。
- [覆土] 4層に分層される。
- [遺物] 縄文土器、土師器、須恵器、陶器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。
- [時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 232号土坑

**遺 構** (第23図)

[位 置] (E-2・3) グリッド。

[検出状況] 53号ピットに切られる。

[構 造] 平面形:楕円形。規模:長軸 1.38 m/短軸 1.11 m/深さ 16cm。長軸方位:N-73°-W。  
壁:60~70°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆 土] 7層に分層される。

[遺 物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 233号土坑

**遺 構** (第23図)

[位 置] (A-3) グリッド。

[検出状況] 36号溝跡、225号土坑に切られる。北側は調査区外に延びるものと思われる。

[構 造] 平面形:不整長楕円形。規模:長軸 1.76 m以上/短軸 0.96 m以上/深さ 45cm。長軸方位:  
N-35°-W。壁:55~80°の角度で立ち上がる。底面は概ね平坦であるが中央部で窪む。

[覆 土] 8層に分層される。

[遺 物] 土師器、陶器、土師質土器が出土した。

[時 期] 出土遺物より中世。

**遺 物** (第27図、図版24-3、第12表)

[土 器] (第27図1、図版24-3-1、第12表)

1は土師質土器(皿)である。

### 235号土坑

**遺 構** (第23図)

[位 置] (E-2) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構 造] 平面形:楕円形。規模:長軸 0.65 m/短軸 0.39 m/深さ 10cm。長軸方位:N-82°-W。  
壁:55~70°の角度で立ち上がる。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 縄文土器・土師器・須恵器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 236号土坑

**遺 構** (第23図)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 231・251号土坑、11号ピットに切られる。

[構 造] 平面形:長楕円形。規模:長軸 2.25 m/短軸 1.06 m/深さ 30cm。長軸方位:N-35°-

E。壁：45～75°の角度で立ち上がる。底面は起伏を持つ。

[覆 土] 9層に分層される。

[遺 物] 礫が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 237号土坑

**遺 構** (第23図)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸 1.31 m／短軸 1.22 m／深さ 26cm。壁：50～55°の角度で立ち上がる。底面は概ね平坦である。

[覆 土] 7層に分層される。

[遺 物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 238号土坑

**遺 構** (第23図)

[位 置] (C・D-4・5) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸 1.03 m／短軸 0.96 m／深さ 45cm。長軸方位：N-15°-W。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

[覆 土] 9層に分層される。

[遺 物] 縄文土器、土師器、石器が出土した。

[時 期] 出土遺物より縄文時代前期後葉、十三菩提式期。

**遺 物** (第27図、図版24-3、第12表)

[土 器] (第27図1～5、図版24-3-1～5、第12表)

1～5は縄文土器深鉢である。

### 239号土坑

**遺 構** (第24図)

[位 置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 256土坑を切る。

[構 造] 平面形：長楕円形。規模：長軸 1.55 m／短軸 0.90 m／深さ 27cm。長軸方位：N-18°-E。壁：45～75°の角度で立ち上がる。底面は起伏を持つ。

[覆 土] 3層に分層される。

[遺 物] 出土遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 240号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.72 m / 短軸 0.66 m / 深さ 20cm。長軸方位：N - 70° - E。  
壁：45 ~ 50°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 5層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から縄文時代。

## 241号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 0.68 m / 短軸 0.58 m / 深さ 12cm。長軸方位：N - 5° - E。  
壁：70 ~ 80°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から縄文時代。

## 242号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 単独分布。北側は調査区外に延びるものと思われる。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：長軸 1.22 m 以上 / 短軸 0.40 m 以上 / 深さ 26cm。長軸方位：不明。  
壁：50 ~ 60°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 7層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 243号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (E-3・4) グリッド。

[検出状況] 38号溝跡・262号土坑を切る。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 0.71 m / 短軸 0.58 m / 深さ 30cm。長軸方位：N - 24° - E。  
壁：50 ~ 60°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 土師器、須恵器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 切り合いより中世以降。

#### 244号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (E・F-4) グリッド。

[検出状況] 38・40号溝跡に切られる。

[構造] 平面形:不整楕円形。規模:長軸1.21m/短軸0.75m/深さ18cm。長軸方位:N-76°-W。壁:60~70°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 磁器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

#### 245号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (E-3) グリッド。

[検出状況] 41号溝跡に切られる。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸0.76m/短軸0.75m/深さ15cm。長軸方位:N-60°-W。壁:45~50°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

#### 246号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 247号土坑を切り、248号土坑・39号溝跡に切られる。

[構造] 平面形:隅丸方形。規模:長軸1.27m/短軸1.04m/深さ27cm。長軸方位:N-85°-W。壁:ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 7層に分層される。

[遺物] 土師器、須恵器、陶器、炭が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から中世以降と思われる。

**遺物** (第27図、図版25-1、第13表)

[陶磁器] (第27図1、図版25-1-1、第13表)

1は陶器(埴)である。

#### 247号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 246号土坑・39号溝跡に切られる。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：長軸1.05m／短軸0.52m／深さ16cm以上。長軸方位：N－88°－W。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 248号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (D－4)グリッド。

[検出状況] 246号土坑を切る。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸0.61m／短軸0.48m／深さ20cm。長軸方位：N－60°－W。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 5層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 249号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (D－3)グリッド。

[検出状況] 38号溝跡に切られる。

[構造] 平面形：長楕円形。規模：長軸1.11m／短軸0.61m／深さ15cm。長軸方位：N－88°－W。壁：45～50°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 250号土坑

**遺構** (第24図)

[位置] (F－3)グリッド。

[検出状況] 47・48Pを切る。東半部は調査区外に延びるものと思われる。

[構造] 平面形：円形ないし楕円形。規模：長軸2.2m以上／短軸0.9m以上／深さ44cm。長軸方位：不明。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝：確認部を全周する。上幅10～19cm、下幅6～12cm、深さ10～13cm。床面：やや起伏をもつ。中央部はさらに窪む。床面：軟弱だが硬化面をもつ。柱穴：検出されなかった。

[覆土] 14層に分層される。

[遺物] 縄文土器、土師器、須恵器、陶器、瓦質土器、磁器が出土した。

[時期] 出土遺物から近世。



**遺物** (第27図、図版25-1-1・2、第12表)

**[磁器]** (第27図、図版25-1-1・2、第12表)

1は磁器塚、2は磁器皿である。

### 252号土坑

**遺構** (第25図)

**[位置]** (C-4) グリッド。

**[検出状況]** 単独分布。

**[構造]** 平面形：円形。規模：長軸 0.52 m / 短軸 0.50 m / 深さ 16cm。長軸方位：N-45°-W。  
壁：55～80°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

**[覆土]** 4層に分層される。

**[遺物]** 出土遺物はなかった。

**[時期]** 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 258号土坑

**遺構** (第25図)

**[位置]** (D-3) グリッド。

**[検出状況]** 単独分布。

**[構造]** 平面形：楕円形。規模：長軸 0.60 m / 短軸 0.39 m / 深さ 19cm。長軸方位：ほぼN-S。  
壁：40～45°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

**[覆土]** 4層に分層される。

**[遺物]** 出土遺物はなかった。

**[時期]** 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 259号土坑

**遺構** (第25図)

**[位置]** (D・E-3) グリッド。

**[検出状況]** 単独分布。

**[構造]** 平面形：長楕円形。規模：長軸 0.72 m / 短軸 0.41 m / 深さ 23cm。長軸方位：N-3°-W。  
壁：40～50°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

**[覆土]** 6層に分層される。

**[遺物]** 出土遺物はなかった。

**[時期]** 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 260号土坑

**遺構** (第25図)

**[位置]** (E-3) グリッド。

**[検出状況]** 単独分布。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 0.69 m/短軸 0.65 m/深さ 6 cm。長軸方位:N - 30° - E。壁:45°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 単層である。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 262号土坑

**遺構** (第25図)

[位置] (E-4) グリッド。

[検出状況] 243号土坑、38号溝跡に切られる。

[構造] 平面形:長楕円形。規模:長軸 0.79 m/短軸 0.41 m/深さ 12 cm。長軸方位:N - 8° - E。壁:35 ~ 45°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 264号土坑

**遺構** (第25図)

[位置] (F-4) グリッド。

[検出状況] 38号溝跡に切られる。

[構造] 平面形:長楕円形。規模:長軸 0.85 m/短軸 0.30 m/深さ 17 cm。長軸方位:N - 13° - W。壁:25 ~ 45°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 265号土坑

**遺構** (第25図)

[位置] (F-4・5) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形:隅丸長方形。規模:長軸 1.84 m/短軸 0.77 m/深さ 15 cm。長軸方位:N - 9° - E。壁:40 ~ 45°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 6層に分層される。

[遺物] 縄文土器、土師器、須恵器が出土した。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 269号土坑

**遺構** (第25図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 西側は攪乱により破壊されている。

[構造] 平面形：推定楕円形。規模：長軸 1.01 m 以上／短軸 0.44 m 以上／深さ 20cm。長軸方位：不明。壁：45～50°の角度で立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 270号土坑

**遺構** (第25図)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形：長楕円形。規模：長軸 1.81 m／短軸 0.74 m／深さ 16cm。長軸方位：N-5°-W。壁：50～70°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 6層に分層される。

[遺物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 271号土坑

**遺構** (第25図)

[位置] (E-4) グリッド。

[検出状況] 38号溝・27・35号ピットに切られる。

[構造] 平面形：不整楕円形。規模：長軸 0.89 m／短軸 0.79 m／深さ 22cm。長軸方位：N-3°-E。壁：50°の角度で立ち上がる。底面は起伏を持つ。

[覆土] 5層に分層される。

[遺物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 273号土坑

**遺構** (第25図)

[位置] (E-2) グリッド。

[検出状況] 274号土坑を切る。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 1.19 m／短軸 1.15 m／深さ 39cm。長軸方位：N-22°-E。壁：60～70°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 9層に分層される。

[遺物] 縄文土器、土師器、須恵器、陶器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 274号土坑

**遺 構** (第25図)

[位 置] (E-2) グリッド。

[検出状況] 273号土坑・43号溝跡に切られる。南側を攪乱で破壊される。

[構 造] 平面形:推定楕円形か。規模:長軸1.20m以上/短軸1.20m/深さ16cm。長軸方位:不明。  
壁:30°の角度で立ち上がる。

[覆 土] 5層に分層される。

[遺 物] 出土遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 275号土坑

**遺 構** (第25図)

[位 置] (E・F-3) グリッド。

[検出状況] 45号ピットに切られる。

[構 造] 平面形:不正楕円形。規模:長軸0.92m/短軸0.78m/深さ17cm。長軸方位:N-48°-W。  
壁:30~45°の角度で立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。

[覆 土] 8層に分層される。

[遺 物] 出土遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 276号土坑

**遺 構** (第26図)

[位 置] (E-3) グリッド。

[検出状況] 282号土坑を切り、26号ピットに切られる。

[構 造] 平面形:楕円形。規模:長軸0.92m/短軸0.68m/深さ11cm。長軸方位:N-5°-E。  
壁:20°の角度で立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。

[覆 土] 3層に分層される。

[遺 物] 出土遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 277号土坑

**遺 構** (第26図)

[位 置] (F-3) グリッド。

[検出状況] 284号土坑を切る。

[構 造] 平面形:楕円形。規模:長軸0.50m/短軸0.39m/深さ11cm。長軸方位:N-40°-W。  
壁:45~50°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 278号土坑

**遺構** (第26図)

[位置] (F-3) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形:楕円形。規模:長軸 0.47 m/短軸 0.37 m/深さ 17cm。長軸方位:N-25°-E。壁:50~60°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 279号土坑

**遺構** (第26図)

[位置] (F-3) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形:長楕円形。規模:長軸 0.88 m/短軸 0.47 m/深さ 9cm。長軸方位:N-20°-W。壁:50~65°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の状況から縄文時代。

### 280号土坑

**遺構** (第26図)

[位置] (F-3) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形:楕円形。規模:長軸 0.44 m/短軸 0.33 m/深さ 10cm。長軸方位:N-54°-E。壁:ほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 土師器、須恵器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 281号土坑

**遺構** (第26図)

[位置] (E-3) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形:楕円形。規模:長軸 0.53 m/短軸 0.33 m/深さ 14cm。長軸方位:N-34°-W。壁:60~80°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

- [覆 土] 4層に分層される。  
[遺 物] 出土遺物はなかった。  
[時 期] 覆土の状況から縄文時代。

### 282号土坑

- 遺 構** (第26図)  
[位 置] (E-3)グリッド。  
[検出状況] 276号土坑に切られる。  
[構 造] 平面形：楕円形か。規模：長軸0.58m／短軸0.40m以上／深さ25cm。長軸方位：不明。  
壁：70～85°の角度で立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。  
[覆 土] 3層に分層される。  
[遺 物] 出土遺物はなかった。  
[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 283号土坑

- 遺 構** (第26図)  
[位 置] (E-3)グリッド。  
[検出状況] 42号溝跡に切られる。  
[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸0.74m／短軸0.44m／深さ32cm。長軸方位：N-20°-E。  
壁：60～75°の角度で立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。  
[覆 土] 4層に分層される。  
[遺 物] 出土遺物はなかった。  
[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 284号土坑

- 遺 構** (第26図)  
[位 置] (E・F-3)グリッド。  
[検出状況] 277号土坑に切られる。  
[構 造] 平面形：不整長楕円形。規模：長軸0.60m以上／短軸0.41m／深さ11cm。長軸方位：N-40°-E。壁：30°の角度で立ち上がる。底面はやや起伏を持つ。  
[覆 土] 3層に分層される。  
[遺 物] 縄文土器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。  
[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 285号土坑

- 遺 構** (第26図)  
[位 置] (D・E-3・4)グリッド。  
[検出状況] 38号溝跡に切られる。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 1.09 m/短軸 0.99 m/深さ 33cm。壁:50°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 5層に分層される。

[遺物] 縄文土器、礫が出土した。

[時期] 出土遺物から縄文時代中期後葉加曾利 E IV 式期。

**遺物** (第 27 図、図版 25-1、第 11 表)

[土器] (第 27 図 1・2、図版 25-1-1・2、第 11 表)

1・2は縄文土器深鉢である。

## 287 号土坑

**遺構** (第 26 図)

[位置] (E-2) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形:楕円形。規模:長軸 0.55 m/短軸 0.46 m/深さ 9 cm。長軸方位: N-3°-W。壁: 40~45°の角度で立ち上がる。底面は丸味を帯びる。

[覆土] 1層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 288 号土坑

**遺構** (第 26 図)

[位置] (E-5) グリッド。

[検出状況] 単独分布。南側は調査区外に延びるものと思われる。

[構造] 平面形:隅丸長方形か。規模:長軸 2.02 m/短軸 0.56 m以上/深さ 3~8 cm。長軸方位: N-78°-W。壁: 45~60°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 289 号土坑

**遺構** (第 26 図)

[位置] (D-2) グリッド。

[検出状況] 45号溝跡に切られる。

[構造] 平面形:円形。規模:長軸 0.89 m/短軸 0.84 m/深さ 13cm。壁:ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 5層に分層される。

[遺物] 土師器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 290号土坑

遺構 (第26図)

[位置] (E-2) グリッド。

[検出状況] 単独分布。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.58 m / 短軸 0.57 m / 深さ 11cm。壁：60～80°の角度で立ち上がる。底面は平坦である。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 291号土坑

遺構 (第26図)

[位置] (E・F-2) グリッド。

[検出状況] 30・31号住居跡、45号溝跡に切られる。

[構造] 平面形：楕円形か。規模：長軸 1.50 m以上 / 短軸不明 0.90 m以上 / 深さ 22cm。長軸方位：不明。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

[覆土] 4層に分層される。

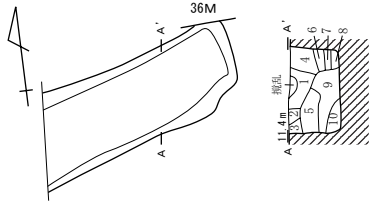
[遺物] 縄文土器、土師器、須恵器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

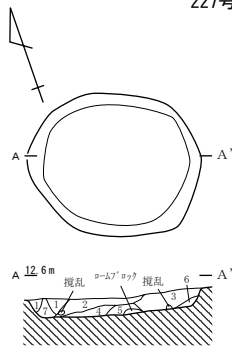
遺構番号	位置	平面形	断面系	規模 (cm)			長軸方位	覆土	切り合い関係	遺物	時期
				長軸	短軸	深さ					
225 D	A-3	楕円形か	皿状	109 以上	99 以上	28	不明	5層	233号土坑・7号ピットに切られる	—	中世以降
226 D	A-3	隅丸方形	箱状	116	82	32	N-6°-E	4層	233号土坑を切る	縄文土器・土師器・須恵器	中世以降
231 D	C-4	楕円形か	逆台形状	88 以上	78 以上	41	N-76°-W	3層	236号土坑・35号溝跡に切られ、251号土坑を切る	—	中世以降
234 D	A-4	方形か	逆台形状か	41 以上	10 以上	3	不明	1層	228号土坑に切られる	—	中世以降
251 D	C-4	楕円形か	逆台形状か	91 以上	50 以上	16	N-20°-E	4層	234・236号土坑に切られる	—	中世以降
253 D	C-4	楕円形	逆台形状か	61	42	10	N-7°-W	1層	268号土坑を切る	—	中世以降
254 D	C-4	不整楕円形	逆台形状か	78	59	9	N-78°-E	2層	267号土坑を切る	—	中世以降
255 D	D-3	不整形	筒状	118 以上	102 以上	13	—	4層	38号溝跡に切られる	—	中世以降
256 D	D-4	楕円形	逆台形状か	40 以上	37 以上	8	N-60°-W	1層	239号土坑・40号溝跡に切られる	—	中世以降
257 D	D-3	楕円形	逆台形状か	60	39	19	N-0°	4層	40号溝跡に切られる	土師器	中世以降
261 D	D・E-4	長楕円形	逆台形状か	100 以上	50 以上	7	N-51°-W	2層	38・39号溝跡に切られる	—	中世以降
263 D	E-4	隅丸方形か	逆台形状か	99	42 以上	15	N-82°-E	6層	38・39号溝跡に切られる	—	中世以降
266 D	E・F-3	不整楕円形	箱状	188	156	20	N-40°-E	3層	—	—	中世以降
267 D	C-4	長楕円形	逆台形状か	116	45 以上	16	N-50°-W	2層	254号土坑・16号ピットに切られる	—	中世以降
268 D	C-4	楕円形か	逆台形状か	36 以上	16 以上	8	N-17°-E	1層	253号土坑に切られる	—	中世以降
272 D	E-4	楕円形か	逆台形状か	115 以上	40 以上	10	N-30°-W	2層	38号溝跡に切られる	—	中世以降
286 D	F-3	円形	筒状	32	—	51	—	4層	—	—	縄文時代

第11表 土坑一覧



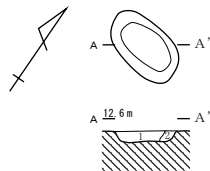


- 227号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 4層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 5層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量、炭化粒子微量含む。
  - 6層 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ1~2cm) 多量含む。
  - 7層 褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 8層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 9層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 10層 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック (φ1cm) 微量含む。



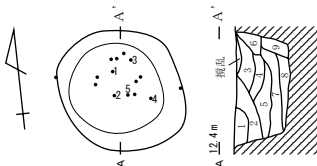
- 229号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1~2cm) 少量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 5層 褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 6層 黒褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 7層 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ0.5~1cm) 少量含む。

232号土坑



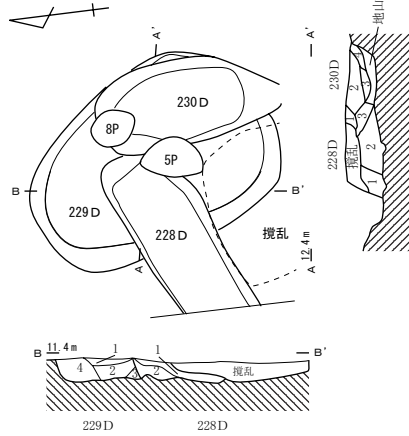
- 232号土坑
- 1層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1~2cm) 少量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。

235号土坑



- 235号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子微量含む。
  - 3層 褐色土 ロームブロック (φ2cm) 少量含む。
  - 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 6層 褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) ・暗褐色土少量含む。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 8層 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ1cm) ・暗褐色土少量含む。
  - 9層 褐色土 ロームブロック (φ2cm) ・暗褐色土少量含む。

238号土坑

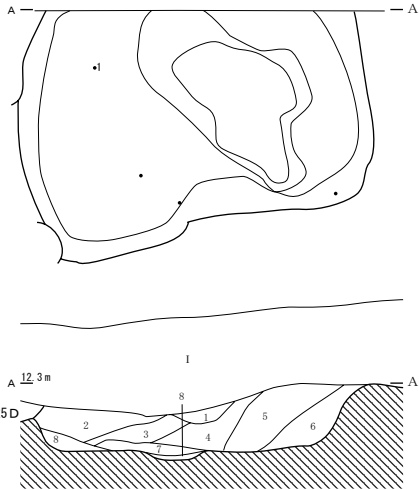


- 228号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

- 229号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1~2cm) 微量含む。
  - 4層 褐色土 ローム粒子・ローム土多量含む。

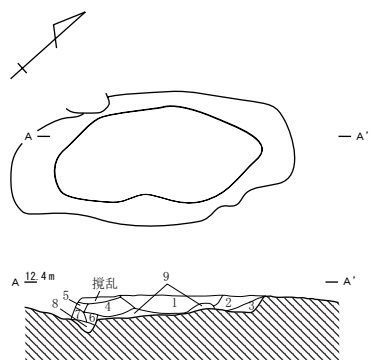
- 230号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 4層 褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック (φ1cm) 微量含む。

228~230号土坑



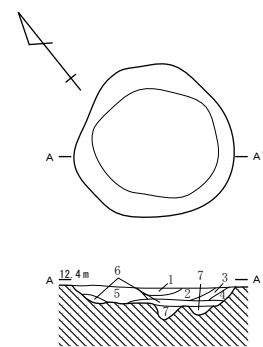
- 233号土坑
- 1層 暗褐色土 ロームブロック (φ1~2cm) を多量に、ローム粒子を少量含む。
  - 2層 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ1~3cm) を多量にローム粒子・暗褐色土を少量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子を多量に、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 4層 褐色土 ロームブロック (φ1~2cm) ・ローム粒子を多量に含む。
  - 5層 褐色土 ローム粒子を多量に、ロームブロック (φ1~2cm) を少量含む。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子を多量に、ローム粒子を少量含む。
  - 7層 褐色土 ロームブロック (φ1~3cm) ・ローム粒子を多量に含む。
  - 8層 褐色土 ロームブロック (φ1~5cm) が主体的に含む。

233号土坑



- 236号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量、礫少量含む。
  - 2層 褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 3層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 5層 褐色土 ロームブロック (φ1~2cm) 主体。
  - 6層 黒褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 7層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 8層 黄褐色土 ロームブロック (φ1cm) 多量含む。
  - 9層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。

236号土坑



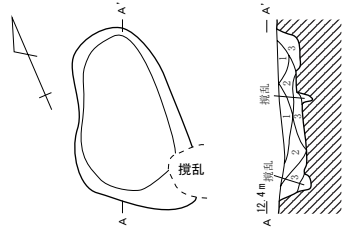
- 237号土坑
- 1層 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm) 多量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 4層 褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 5層 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 6層 褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) 多量含む。
  - 7層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量含む。

237号土坑



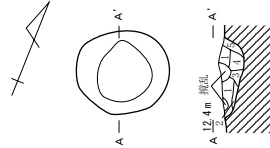
第23図 土坑1 (1/60)

第2章 中道遺跡第87地点の調査



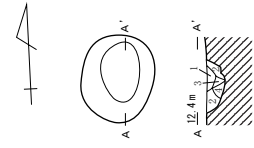
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ 1cm) 少量含む。
- 3層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ 1cm) 微量含む。

239号土坑



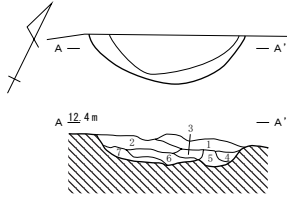
- 1層 褐色土 ローム粒子・暗褐色土微量含む。
- 2層 黄褐色土 ロームブロック (φ 1cm) 少量含む。
- 3層 明黄褐色土 ロームブロック (φ 1cm) 少量、ローム土多量、暗褐色土少量含む。
- 4層 黄褐色土 ローム土多量、暗褐色土少量含む。
- 5層 黄褐色土 ロームブロック (φ 0.5~1cm) 多量含む。

240号土坑



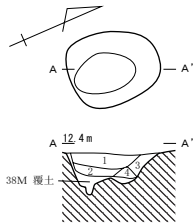
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量含む。
- 4層 褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量含む。

241号土坑



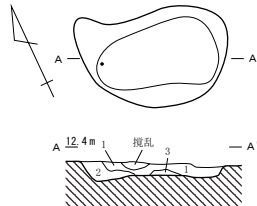
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ 1cm) 少量含む。
- 5層 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ 1cm) ・暗褐色土少量含む。
- 6層 褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量含む。
- 7層 暗褐色土 ロームブロック (φ 1cm) 少量含む。

242号土坑



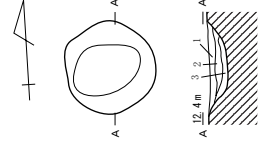
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) 微量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

243号土坑



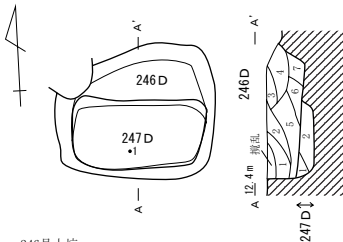
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 3層 褐色土 ロームブロック主体。

244号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ 1cm) 微量含む。
- 3層 黄褐色土 ロームブロック (φ 1cm) 多量、褐色土少量含む。

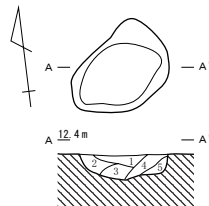
245号土坑



- 246号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・炭化粒子微量含む。
  - 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ 1~2cm) 少量含む。
  - 3層 褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ 1cm) 少量含む。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 7層 黄褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) 多量含む。

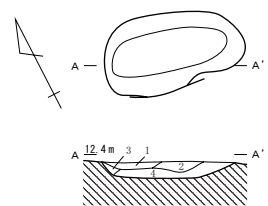
- 247号土坑
- 1層 暗褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) 多量含む。
  - 2層 黄褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) 主体。

246・247号土坑



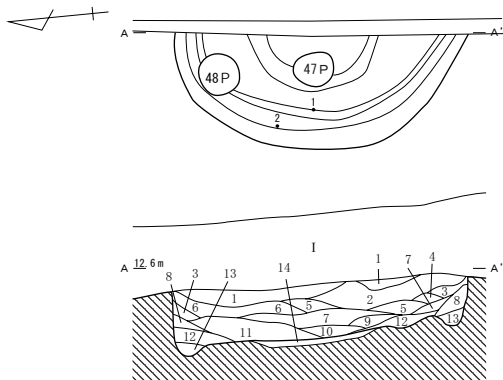
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ 1cm) 少量含む。
- 4層 暗褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) 多量含む。
- 5層 黒褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック (φ 1cm) 多量含む。

248号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・褐色土少量、焼土粒子微量含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、暗褐色土少量含む。
- 4層 黄褐色土 ローム土多量、暗褐色土少量含む。

249号土坑

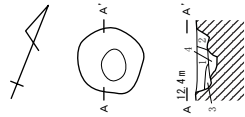


250号土坑

- 1層 表土耕作土層
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多量に、ロームブロック (φ 1~2cm) を少量含む。
- 3層 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 5層 暗褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) ・ローム粒子を少量含む。
- 6層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多量に、炭化粒子を少量含む。
- 7層 暗褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) ・ローム粒子を少量含む。
- 8層 褐色土層 ローム粒子を多量に、ロームブロック (φ 1~2cm) を少量含む。
- 9層 黒褐色土 ローム粒子を少量、ロームブロック (φ 0.5cm) を微量含む。
- 10層 褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) ・ローム粒子を多量に含む。
- 11層 にぶい黄褐色土 ロームブロック (φ 1~2cm) ・ローム粒子を多量に含む。
- 12層 褐色土 ローム粒子を多量に、暗褐色土を少量含む。
- 13層 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 14層 褐色土 ロームブロック (φ 1~3cm) を多量に、暗褐色土を少量含む。

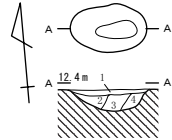


第24図 土坑2 (1/60)



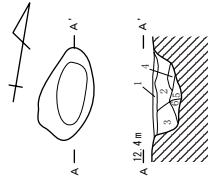
252号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3層 黒褐色土 ローム粒子微量含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量含む。



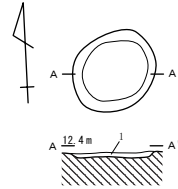
258号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 微量含む。
- 3層 褐色土 ロームブロック (φ1~3cm) 多量、暗褐色土少量含む。
- 4層 褐色土 ローム粒子多量、暗褐色土少量含む。



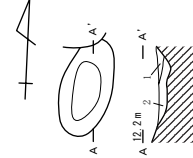
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm)・暗褐色土少量含む。
- 4層 黒褐色土 ローム粒子多量含む。
- 5層 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 6層 褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量含む。

259号土坑



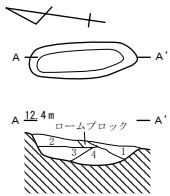
- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

260号土坑



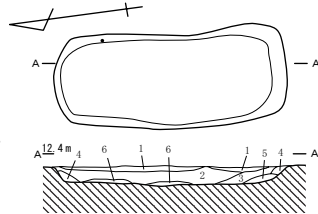
- 1層 にぶい黄褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1~2cm) 少量含む。

262号土坑



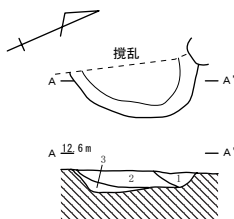
264号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック (φ1~2cm) 少量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック (φ1~2cm) 微量含む。



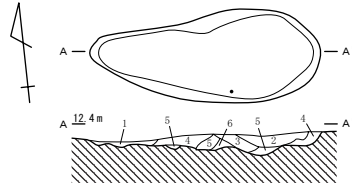
265号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 5層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、褐色土少量含む。
- 6層 黒褐色土 ロームブロック (φ1~2cm) 少量含む。



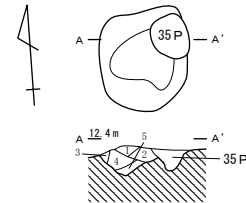
269号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3層 黒褐色土 ローム粒子多量含む。



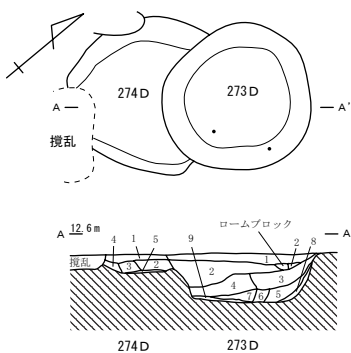
270号土坑

- 1層 褐色土 ロームブロック (φ1cm)・暗褐色土少量含む。
- 2層 暗褐色土 ロームブロック (φ2cm) 少量含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 ローム土・ロームブロック (φ1cm)・暗褐色土少量含む。
- 5層 褐色土 ロームブロック (φ1cm) 多量含む。
- 6層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量含む。



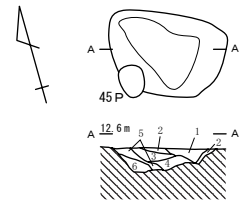
271号土坑

- 1層 にぶい黄褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
- 3層 褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
- 5層 褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。



273・274号土坑

- 273号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
  - 3層 にぶい黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 4層 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm) 少量含む。
  - 5層 黒褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 6層 暗褐色土 ロームブロック (φ1~2cm) 少量含む。
  - 7層 暗褐色土 ロームブロック (φ1cm) 微量含む。
  - 8層 黒褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 9層 褐色土 ローム粒子多量、暗褐色土少量含む。
- 274号土坑
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
  - 4層 褐色土 ローム粒子多量、暗褐色土少量含む。
  - 5層 黒褐色土 ローム粒子微量含む。

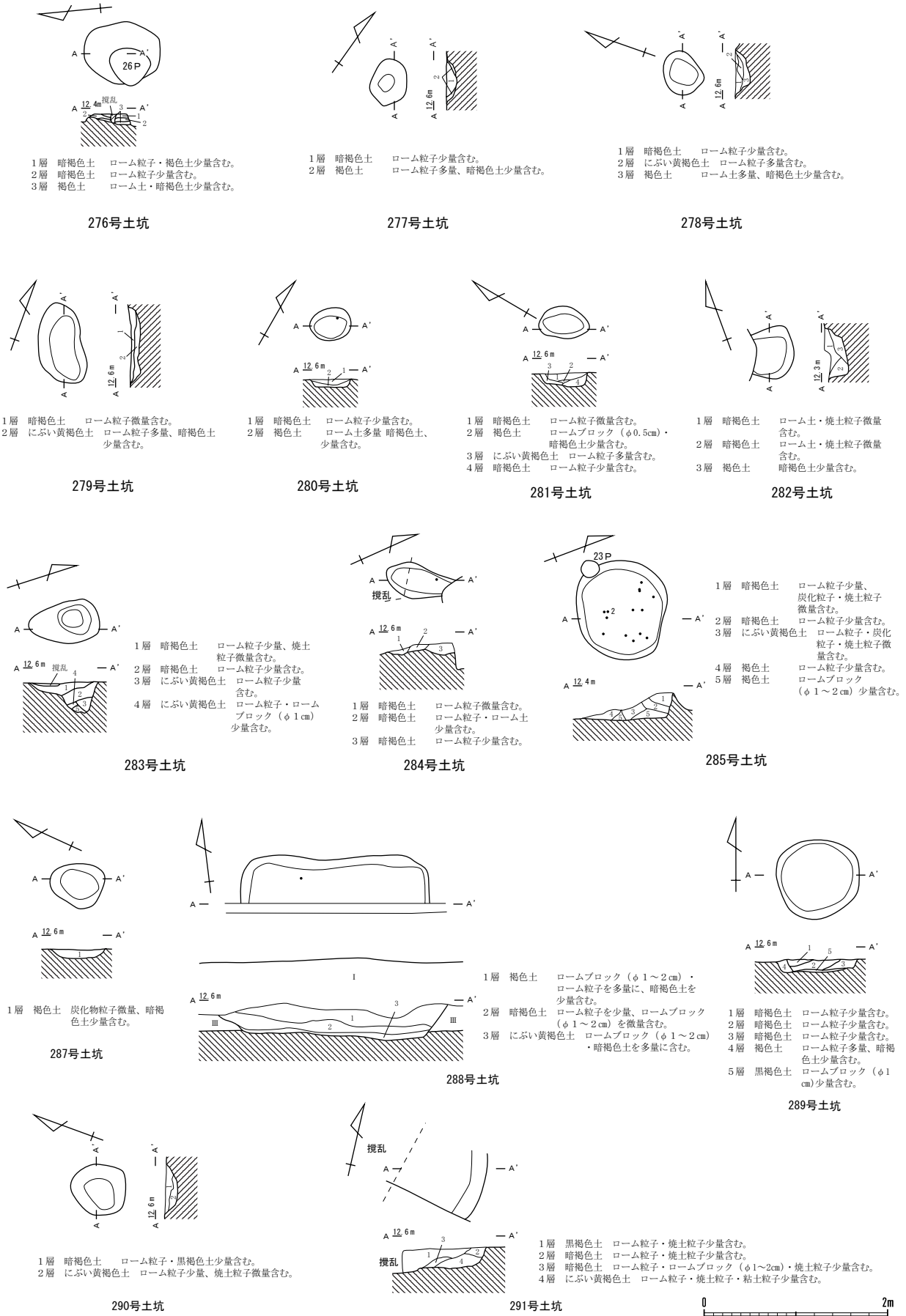


275号土坑

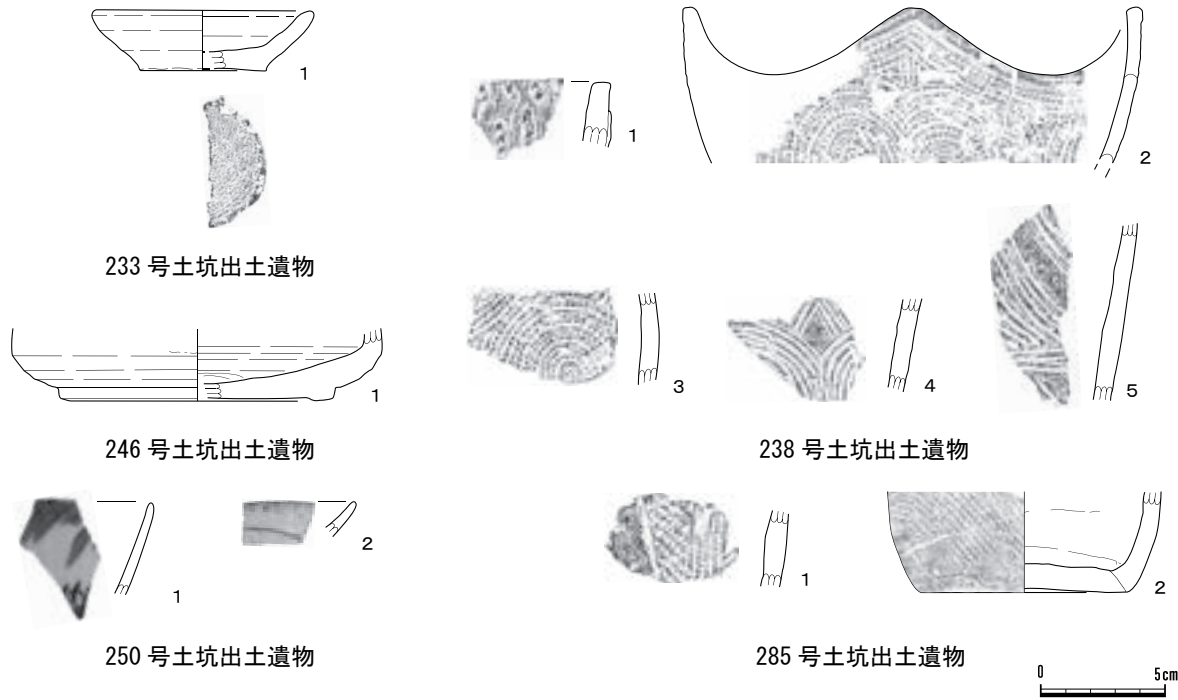
- 1層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子微量含む。
- 3層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm)・暗褐色土少量含む。
- 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1cm)・暗褐色土少量含む。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・褐色土少量含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (φ1~2cm)・褐色土少量含む。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 8層 褐色土 ローム粒子多量含む。



第2章 中道遺跡第87地点の調査



第26図 土坑4 (1/60)



第27図 土坑出土遺物（1／3）

図版番号 挿図番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	制作の特徴等	色調	胎土	出土位置	遺存度	推定 産地	時期
第27図-1 図版24-3-1	233 D	土師質 土器	皿	高2.4 口(8.5) 底(5.0)	底部から体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。ロク口整形。外面にタール付着。	内外面：にぶい黄褐色	白色粒子・砂粒・角閃石を含む。	覆土下層、底面上5cm	口縁部～底部50%	在地系	中世(15C)
第27図-1 図版24-3-1	238 D	縄文土器	深鉢	—	口縁部は平坦に作出され、細い縦位の地文上に刻みを付した棒状貼付文を施す。	外面：黒褐色 内面：褐色	白色粒子・砂粒を含む。	覆土中層、底面上10cm	口縁部片	—	縄文前期諸磯C式
第27図-2 図版24-3-2	238 D	縄文土器	深鉢	高[6.1] 口(8.2)	4単位の波状口縁を呈する。結節沈線文による渦巻条のモチーフ。	内外面：灰黄褐色	白色粒子・砂粒・石英を含む。	覆土中層、底面上10cm	口縁部片	—	縄文前期十三菩提式
第27図-3 図版24-3-3	238 D	縄文土器	深鉢	—	結節沈線文で渦巻状と斜位のモチーフを描く。	外面：褐色 内面：灰黄褐色	白色粒子・砂粒・小石を含む。	覆土中層、底面上10cm	体部片	—	縄文前期十三菩提式
第27図-4 図版24-3-4	238 D	縄文土器	深鉢	—	5～6条単位の沈線文で渦巻文と山形状のモチーフを描く。	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色	白色粒子・砂粒・石英を含む。	覆土中層、底面上10cm	体部片	—	縄文前期十三菩提式
第27図-5 図版24-3-5	238 D	縄文土器	深鉢	—	5～6条単位の沈線文で横位弧状のモチーフを描く。	外面：暗褐色 内面：褐色	白色粒子やや多く、砂粒・石英・小石を含む。	覆土中層、底面上10cm	体部片	—	縄文前期十三菩提式
第27図-1 図版25-1-1	285 D	縄文土器	深鉢	—	斜位の沈線文による区画を行い、区画内に単節縄文LRを縦位と斜位回転で施す。	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子・砂粒・チャートを含む。	覆土中層、底面上5cm	体部片	—	縄文中期加曾利E IV式
第27図-2 図版25-1-2	285 D	縄文土器	深鉢	高[4.0] 底8.2	単節縄文LRを縦位施文。	外面：褐色 内面：褐色	白色粒子・砂粒を含む。	確認面、底面上10cm	体部～底部30%	—	縄文中期加曾利E IV式

第12表 土坑出土土器一覧

図版番号 挿図番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	制作の特徴等	色調	胎土	出土位置	遺存度	推定 産地	時期
第27図-1 図版25-1-1	246 D	陶器	埴	高[2.6] 底(10.8)	直立する低い高台を付し、体部は内湾しつつ立ち上がる。内外面とも水挽き整形される。	外面：暗灰黄褐色 内面：黄褐色	黒色粒子・砂粒・小石を含む。	覆土下層、底面上5cm	体部～高台部20%	瀬戸・美濃系	近世(18C)
第27図-1 図版25-1-1	250 D	磁器	埴	—	内面に2条線、外面に風景画?の染付。	内外面：灰白色	砂粒を含む。	覆土下層、底面上5cm	口縁部片	肥前系	近世(18C)
第27図-2 図版25-1-2	250 D	磁器	皿	—	内外面に染付。	内外面：灰白色	砂粒を含む。	底面直上	口縁部片	肥前系	近世(17C)

第13表 土坑出土陶磁器一覧

#### (4) 溝 跡

今回の発掘調査において中世以降や近世以降の溝跡が11条検出された。このうち35号溝跡は今回の調査区に隣接する第76地点で検出された35号溝跡と同一のものである。また37・41～44号溝跡はその形状や覆土の状況から近世以降の畝跡と考えられ、これについては末尾の一覧表をもって説明としたい。

#### 35号溝跡

**遺 構** (第28図)

[位 置] (B・C-3・4～E・F-1) グリッド。

[検出状況] 27号住居跡・38号溝跡・9・10号ピットを切る。調査区外を挟んで北側部分と南側部分が検出されている。北側と南側は調査区外にさらに延びるものと思われる。

[構 造] 規模：検出長15.40m／上幅155～216cm／下幅59～93cm／深さ94～105cm。溝底はおおむね平坦であるが、深さは北側が概ね同一比高であることに対し、南側は北から南にかけて徐々に深くなっており、中央部で比高差18cm前後の段を有する。断面形は箱葉研状で、壁は溝底から80°と急傾斜であるが、深さ40～50cmの位置で屈曲し、40～50°と緩やかになる。走行方位は南側でN-50°-Eであるが、北側で東へと大きく向きを変え、走行方位はN-85°-Wとなる。

[覆 土] 35層に分層される。

[遺 物] 遺物は縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、播鉢、石器が出土した。

[時 期] 出土遺物と覆土の観察から中世である。

**遺 物** (第29図、図版25-2、第14表)

[陶 器] (第29図1～5、図版25-2-1～5、第14表)

1は皿、2は壺、3は香炉、4・5は播鉢である。

#### 36号溝跡

**遺 構** (第30図)

[位 置] (A・B-3・4) グリッド。

[検出状況] 27号住居跡・227・233号土坑を切る。西側は調査区外にさらに延びるものと思われる。

[構 造] 規模：検出長8.64m／上幅140～155cm／下幅45～63cm／深さ41～102cm。溝底はおおむね平坦であるが、深さは西側から東側にかけて徐々に深くなっており、比高差は10cm前後を測る。断面形は逆台形状で、壁の立ち上がりは45°前後。走行方位：N-68°-E。

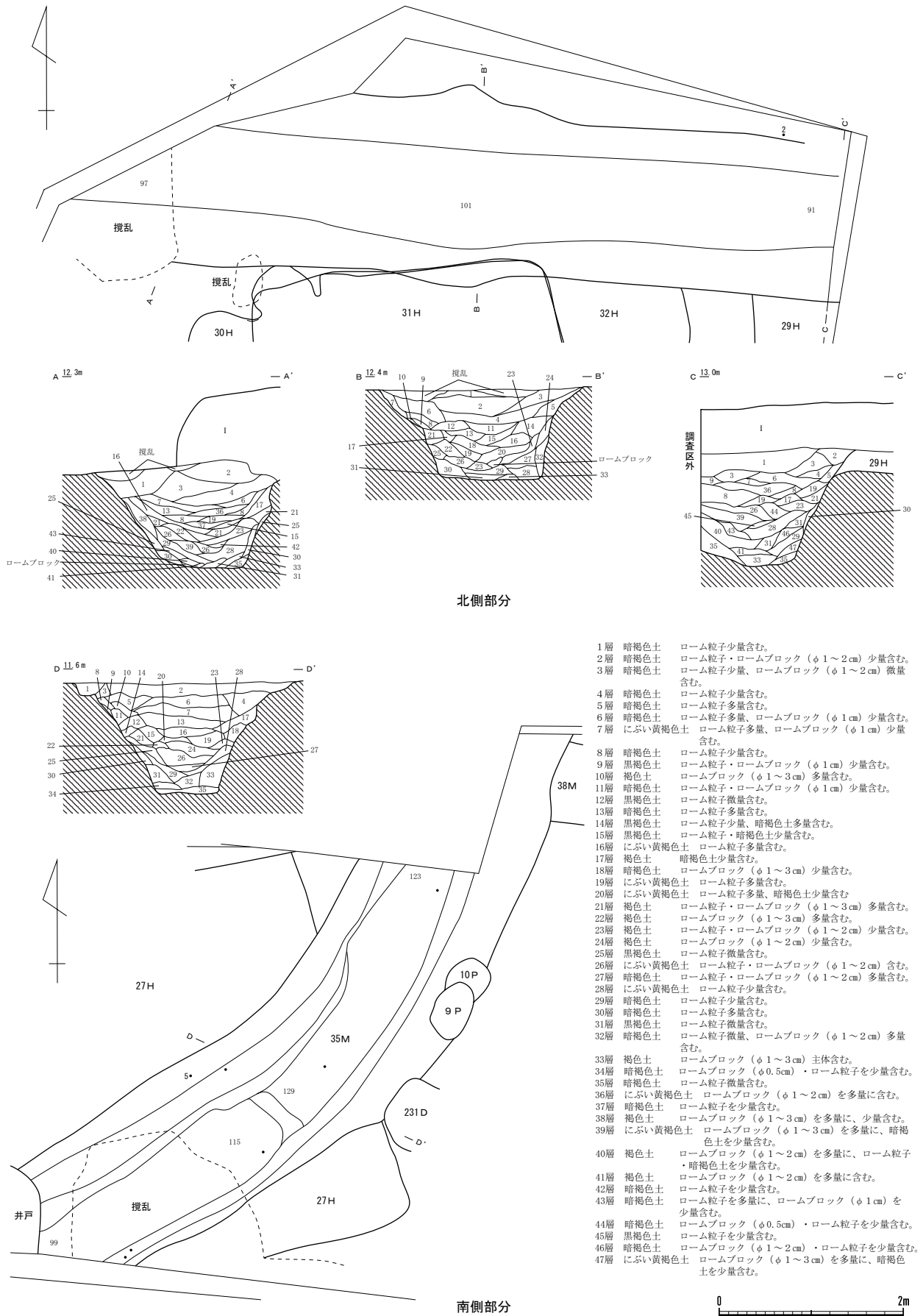
[覆 土] 15層に分層される。

[遺 物] 覆土上層から中層に小礫が多量に出土している。砂岩やチャートなど近隣の河川で採取可能な礫で3箇所の纏まりが確認されている。礫自体に被熱痕などの痕跡は確認されず、礫の分布状況や出土状況から36号溝跡埋没時における投棄の可能性が高い。遺物は縄文土器、土師器、陶器、焙烙、石器が出土した。

[時 期] 覆土の観察から近世以降。

**遺 物** (第31図、図版25-3、第15・16表)

[陶 器] (第31図1～6、図版25-3-1～6、第15表)



北側部分

南側部分

第28図 35号溝跡 (1/60)



1は甕、2は埴、3・4は皿、5は壺、6は香炉である。

[瓦質土器] (第31図7、図版25-3-7、第16表)

7は焙烙である。

### 38号溝跡

**遺 構** (第32図)

[位 置] (C・D・E・F-3・4) グリッド。

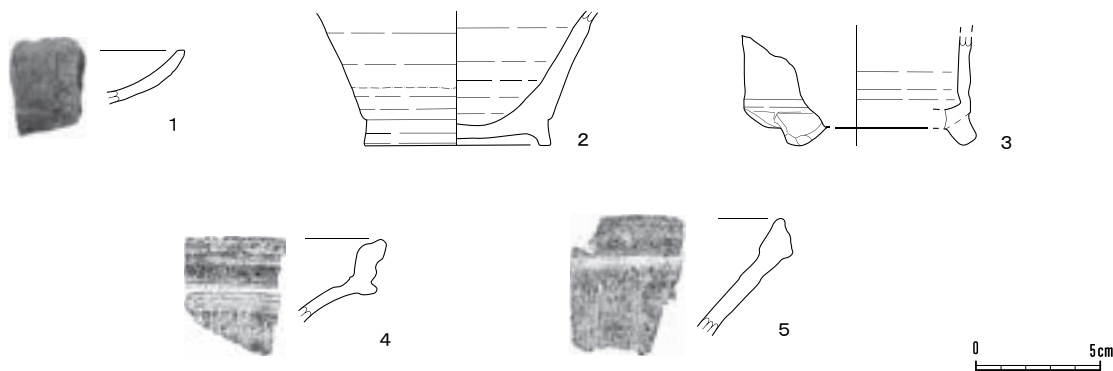
[検出状況] 243号土坑、35・39号溝跡に切られ、244・249・255・261・262・264・271・285号土坑、17・23・25・27・31・35号ピットを切る。東側は調査区外にさらに延びるものと思われる。西側は36号溝跡に合流する様にみえるが、底面の標高が大きく異なるため、別の溝跡と判断している。

[構 造] 規模：検出長15.1m／上幅60～175cm／下幅24～113cm／深さ15～30cm。溝底は起伏に富む。深さは東西の比高差は3cm前後であり概ね平坦である。断面形は緩やかな逆U字状で、壁の立ち上がりは45°前後。走行方位：N-80°-W。

[覆 土] 10層に分層される。

[遺 物] 縄文土器、土師器、須恵器、陶器、礫が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から近世以降。

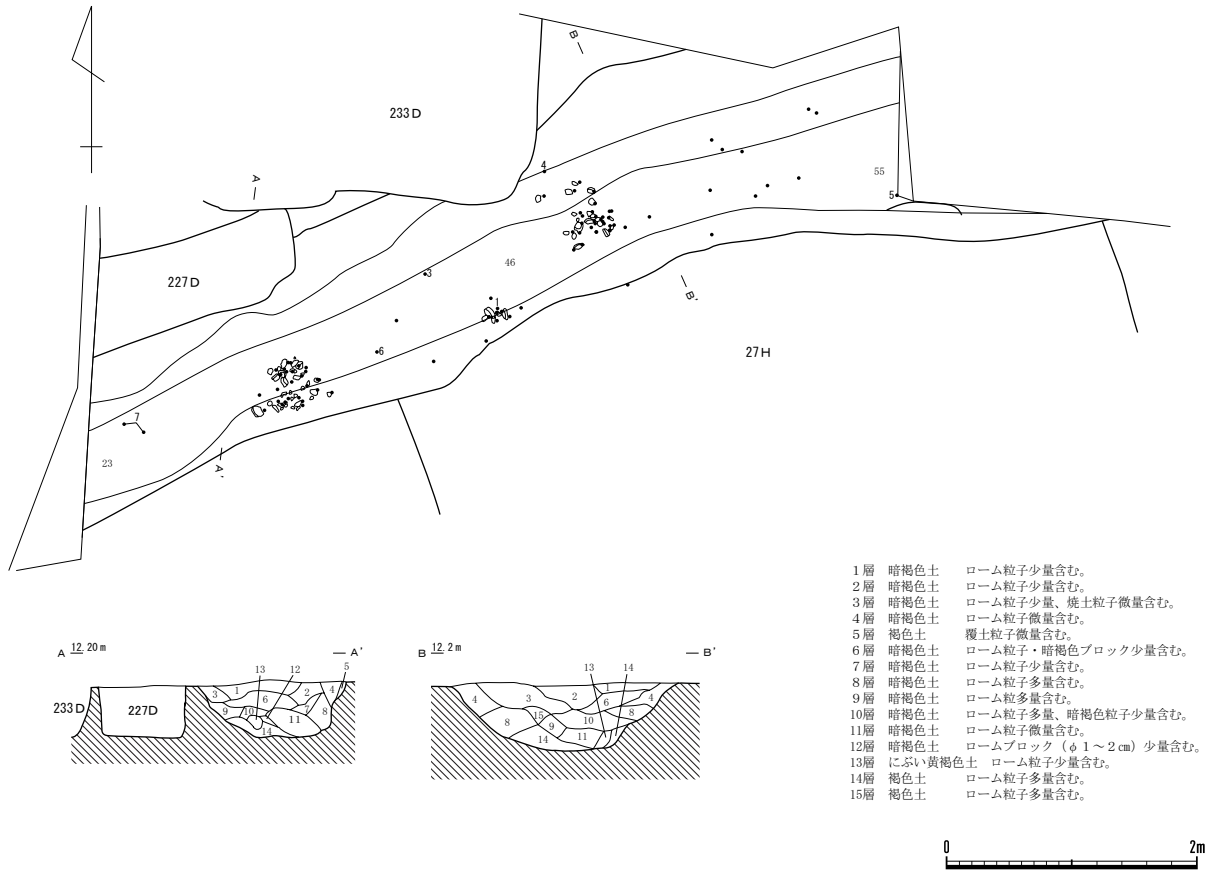


第29図 35号溝出土遺物(1/3)

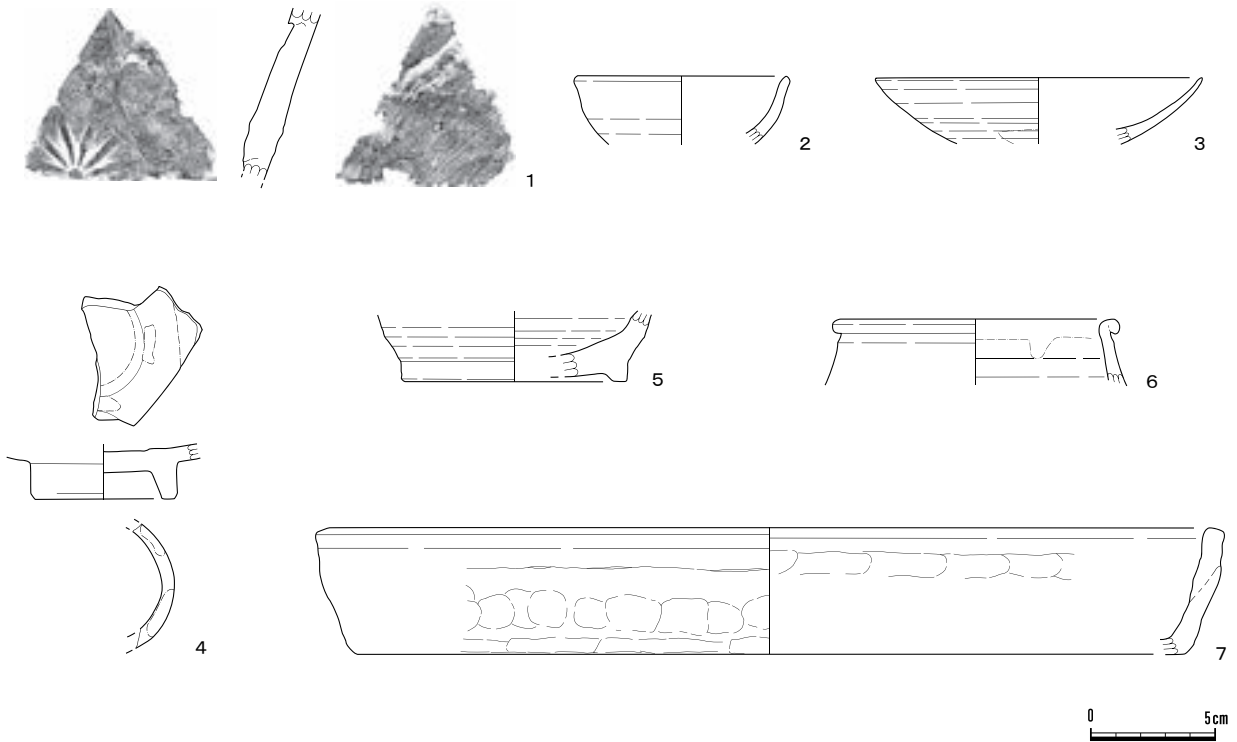
図版番号 挿図番号	種別	器種	法量 (cm)	制作の特徴等	色 調	胎 土	出土位置	遺存度	推定 産地	時期
第29図1 図版25-2-1	陶器	皿	—	菊皿。内外面に灰釉。	内外面：釉	白色粒子・小石を含む。	覆土上層	口縁部片	瀬戸・美濃系	近世(17C)
第29図2 図版25-2-2	陶器	壺	高[5.3] 底(7.4)	高台は低くやや外傾して付く、体部は外傾して立ちあがる。内外面水挽きされる。外面鉄釉。煙硝挿か。	外面：黒褐色 内面：褐色	白色粒子・小石を含む。	覆土上層、確認面	体部～高台部 30%	瀬戸・美濃系	近世(17C)
第29図3 図版25-2-3	陶器	香炉	高[4.3]	底部から体部は直立して立ちあがる。底部の外面は小突起が付される。内外面に青磁釉。	内外面：釉	砂粒を含む。	覆土上層	体部～底部 20%	肥前系	近世(17C)
第29図4 図版25-2-4	陶器	播鉢	—	体部は外傾して立ちあがり、口縁部は直立している。口縁部は無文帯となり、体部に細い縦位の沈線を施す。内面に自然釉。	外面：灰白色 内面：褐灰色	白色粒子・砂粒・石英を含む。	覆土中層	口縁部片	丹波系	近世(17C)
第29図5 図版25-2-5	陶器	播鉢	—	体部は外傾して立ちあがり、口縁部は内傾して立ちあがる。口縁部は無文帯となり、体部は縦位の沈線を施す。8条1単位の摺目。内外面に自然釉。	外面：にぶい黄褐色 内面：黄褐色	白色粒子・黒色粒子粒・石英を含む。	覆土中層、底面上 50cm	口縁部片	瀬戸・美濃系	近世(17C)

第14表 35号溝跡出土陶器一覧





第30図 36号溝跡(1/60)



第31図 36号溝出土遺物(1/3)

図版番号 挿図番号	種別	器種	法量 (cm)	制作の特徴等	色 調	胎 土	出土位置	遺存度	推定 産地	時期
第31図1 図版25-3-1	陶器	甕?	—	体部片外面に印花文を施す。	内外面：にぶ い褐色	白色粒子・砂 粒・小石を含 む。	覆土中層 、底面上 15cm	体部片	常滑系	近世 (19C)
第31図2 図版25-3-2	陶器	埴	高 [2.7] 口 (8.3)	体部から口縁部は内湾して立ち あがり、端部は若干反する。	内外面：浅黄 色	砂粒を含む。	覆土中層	口縁部 ～体部 20%	瀬戸・ 美濃系	近世 (19C)
第31図3 図版25-3-3	陶器	皿	高 [2.6] 口 (13.0)	体部から口縁部に向けて立ちあ がる。口端部に向けて薄くなり 尖る。内外面に青緑釉。	外面：オリ ブ黄色 内面：釉	砂粒を含む。	覆土中層 、底面上 25cm	口縁部 ～体部 30%	肥前系	近世 (19C)
第31図4 図版25-3-4	陶器	皿	高 [2.2] 底 (5.6)	高台はやや外傾して付き、体部 は外上方へ大きく開く。内面に 緑釉。	外面：にぶ い黄褐色 内面：釉	砂粒を含む。	覆土中層 、底面上 15cm	体部～ 高台部 30%	肥前系	近世 (19C)
第31図5 図版25-3-5	陶器	壺	高 [2.8] 底 (8.8)	底部に低い高台部が付き、体部 は外上方に立ちあがる。内外面 ともに水挽きされている。外面 に鉄釉。	外面：にぶ い黄褐色 内面：にぶ い黄褐色	白色粒子・砂 粒を含む。	覆土中層 、底面上 25cm	体部～ 高台部 20%	瀬戸・ 美濃系	近世 (19C)
第31図6 図版25-3-6	陶器	香炉	—	口縁部は体部から内傾して立ち あがる。口縁部は折り返され肥 厚する。外面および内面口縁部 に鉄釉。	外面：褐色 内面：浅黄色	砂粒を含む。	覆土中層 、底面上 25cm	口縁部 ～体部 20%	瀬戸・ 美濃系	近世 (19C)

第15表 36号溝跡出土陶器一覧

図版番号 挿図番号	種別	器種	法量 (cm)	制作の特徴等	色 調	胎 土	出土位置	遺存度	推定 産地	時期
第31図7 図版25-3-7	瓦質土器	焙烙	高 [5.0] 口 (36.3) 底 (33.0)	口縁部は体部から内湾しつつ立 ちあがる。外面はヨコナデとユ ピオサエがみられる。内面はヨ コナデを施す。	外面：黒色 内面：黒褐色	白色粒子・赤 色粒子粒・砂 粒を含む。	底面直上	口縁部 ～体部 30%	在地系	近世 (19C)

第16表 36号溝跡出土瓦質土器一覧

## 39号溝跡

## 遺 構 (第33図)

[位 置] (C・D・E-3・4) グリッド。

[検出状況] 28号住居跡、38号溝跡、246・247号土坑・19号ピットを切る。調査区中央部西側で南東方向に走り、後横走し、再度南西方向に走り消滅する。北西側は調査区外にさらに伸びると思われる。

[構 造] 規模：検出長 10.1 m / 上幅 33～57cm / 下幅 16～34cm / 深さ 3～10cm。溝底は起伏に富む。深さは北西と南の比高差は 3cm 前後であり概ね平坦である。断面形は逆U字状で、壁の立ち上がりはほぼ垂直に立ち上がる。走行方位：西側は N-45°-W、中央部 N-80°-W、東側 N-17°-W。

[覆 土] 3層に分層される。

[遺 物] 土師器・須恵器が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から近世以降。

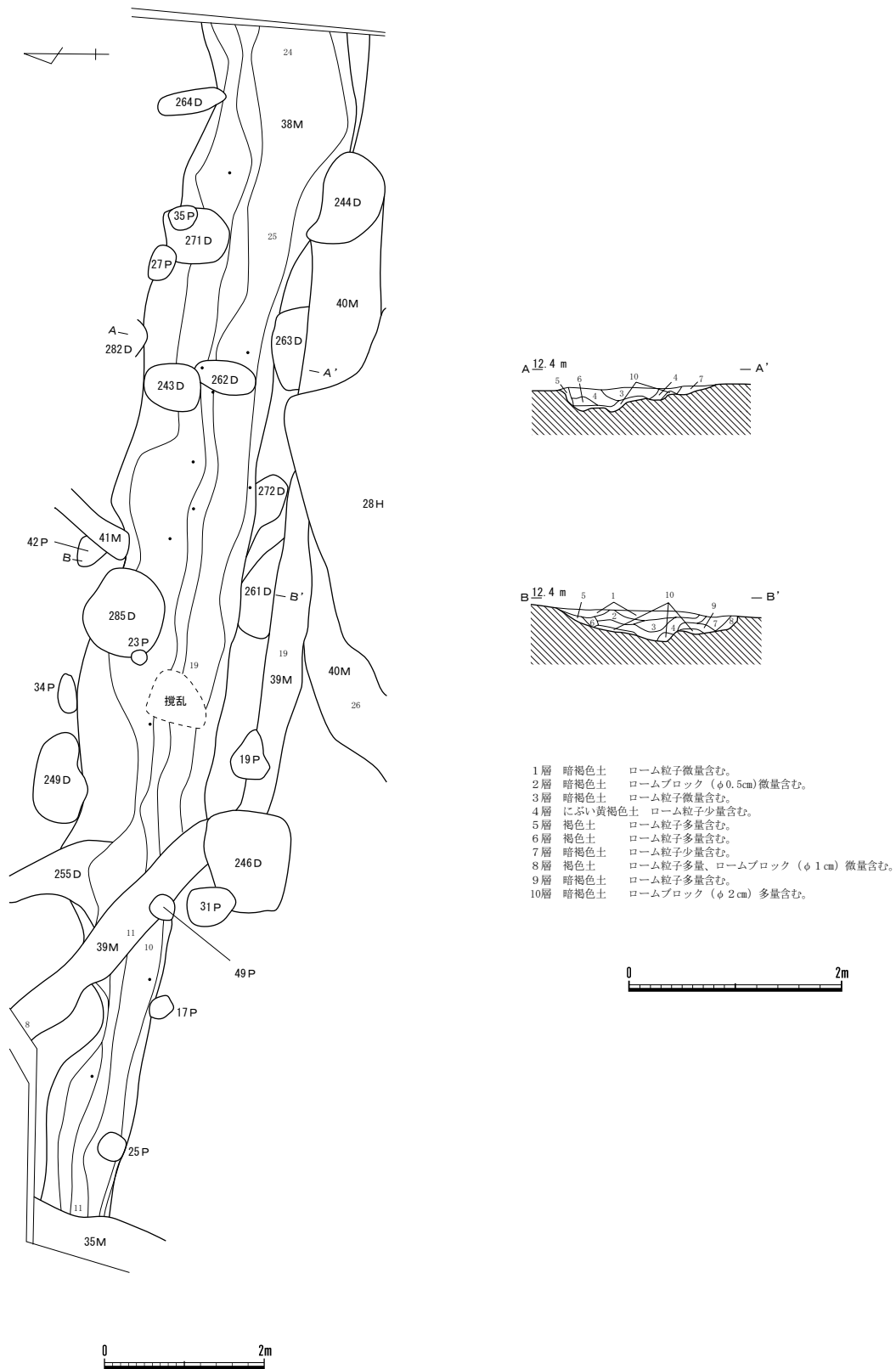
## 40号溝跡

## 遺 構 (第34図)

[位 置] (D・E・F-4・5) グリッド。

[検出状況] 39号溝跡に切られ、28号住居跡、244・256・257・274・261・263号土坑を切る。横走、西側で南西方向に曲がる。東側や南西側は調査区外にさらに伸びると思われる。

[構 造] 規模：検出長 12.7 m / 上幅 60～141cm / 下幅 19～37cm / 深さ 12～27cm。溝底はやや起伏をもつ。深さは西側から南側に向けて徐々に深くなっており、比高差は 16cm 前後を測る。断面形は逆台形状であるが、南側の一部で箱薬研状を呈する。壁は溝底から 45° 前後であるが、深さ 10～20cm の位置で屈曲し、15° 前後と緩やかになる。走行方位：西側は N-39°-E、中央部から東側は N



第32図 38号溝跡 (1/80・1/60)

－ 81°－ E。

[覆 土] 7層に分層される。

[遺 物] 縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・灯明皿が出土したが、図示可能な遺物はなかった。

[時 期] 覆土の観察から近世以降。

### 45号溝跡

**遺 構** (第35図)

[位 置] (D～F－2) グリッド。

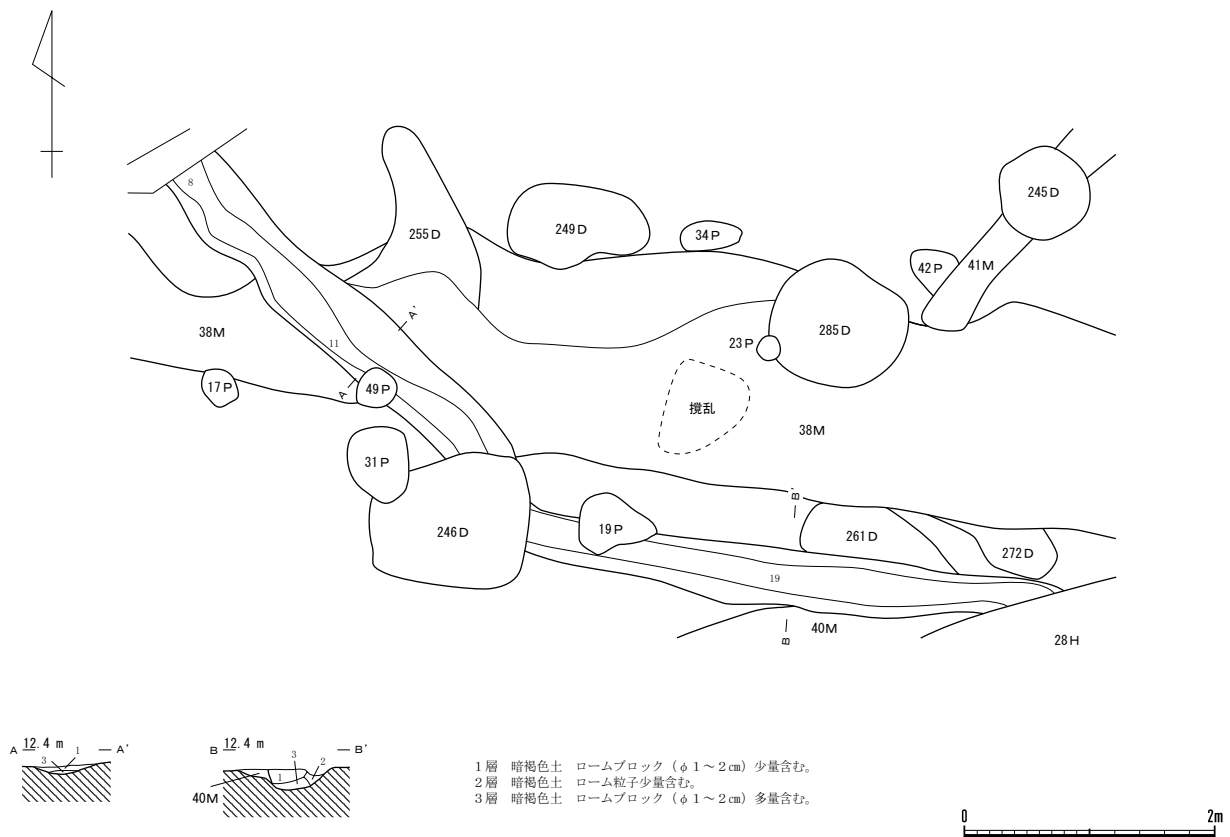
[検出状況] 289・291号土坑・62号ピットを切る。西側は調査区外に延びるものと思われる。

[構 造] 規模：検出長 8.91 m / 上幅 71～99cm / 下幅 50～64cm / 深さ 10～23cm。溝底は概ね平坦だが丸味を帯びる。深さは東側から西側に向けて徐々に深くなっており、比高差は 10cm前後を測る。断面形は逆台形で、壁の立ち上がりは 60～70°。走行方位：N－80°－W。

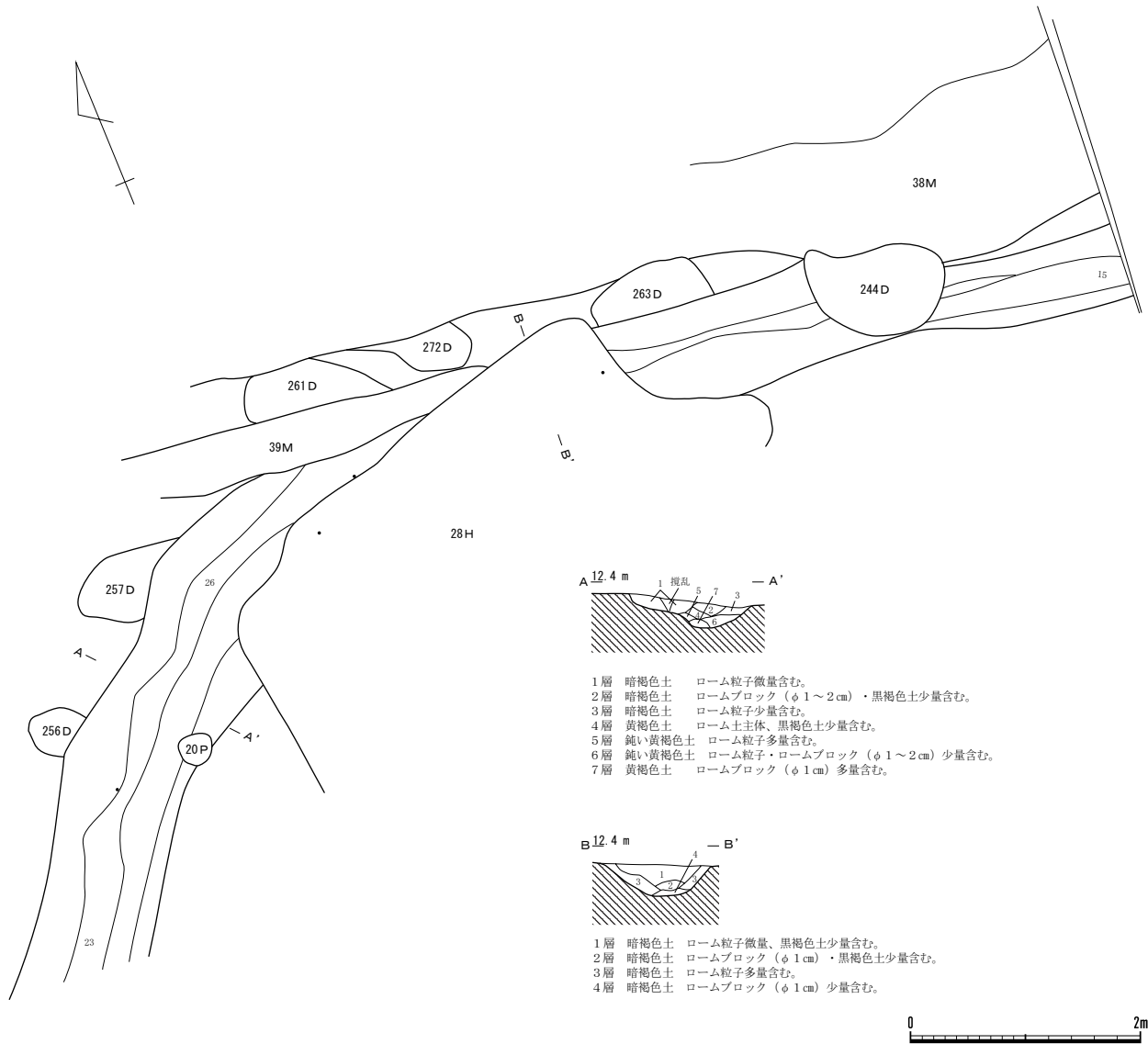
[覆 土] 5層に分層される。

[遺 物] 出土遺物はなかった。

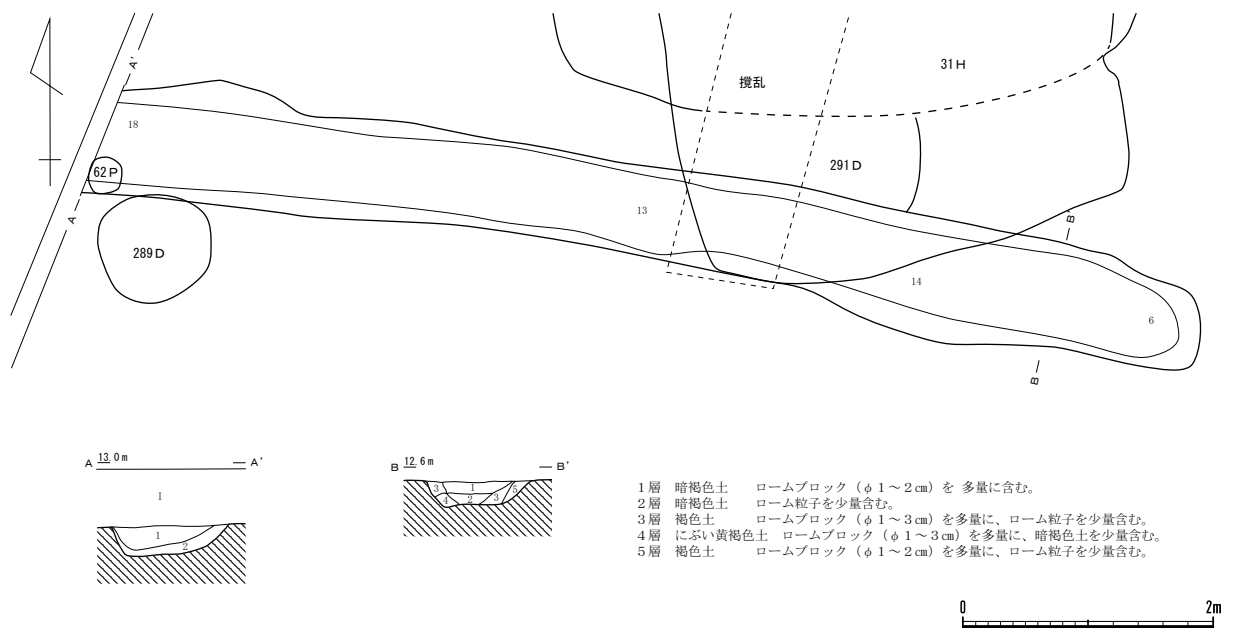
[時 期] 覆土の観察から中世以降。



第33図 39号溝跡 (1 / 60)



第34図 40号溝跡 (1/60)



第35図 45号溝跡 (1/60)

遺構番号	位置	走行方位	規模 (cm)				断面形	覆土	切り合い関係	遺物	時期
			検出長	上幅	下幅	深さ					
37号溝	A-3	N-13°W	45	20~26	7~12	2~4	開いたU字状	1層	6号ピットに切られる	縄文土器	中世以降
41号溝	E-3	N-48°E	388	25~38	10~18	13	開いたU字状	3層	245号土坑・42号ピットに切られる	—	中世以降
42号溝	E-3	N-75°W	152	20~30	10~18	11	逆台形状	2層	46号ピットに切られる	—	中世以降
43号溝	E-2・3	N-38°E	174	23~29	9~18	9	逆台形状	1層	274号土坑を切る	—	中世以降
44号溝	E-2・3	N-9°E	136	18~30	11~18	11	逆台形状	2層	—	—	中世以降

第17表 溝跡一覧

(5) ピット

合計63本が検出された。調査区の広い範囲に散在しており、掘立柱建物跡などの遺構は含まれない。時期的には中世以降を中心とするが、縄文時代と思われる例も一部含まれる。一覧表に概要をまとめた。

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	切り合い関係	出土遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
1P	A-4	楕円形か	35以上	20以上	17	5層		縄文土器	中世以降
2P	B-4	楕円形	36	28	35	2層	27号住居を切る	—	中世以降
3P	B-4	円形	41	40	11	2層	27号住居を切る	—	中世以降
4P	C-4	楕円形	36	30	13	2層		—	中世以降
5P	A-4	不整楕円形	48	31	36	2層	228~230号土坑を切る	須恵器、土製品	中世以降
6P	A-3	楕円形	44	38	16	1層	233号土坑・37号溝跡を切る	—	中世以降
7P	A-3	楕円形	32	26	25	1層	225号土坑を切る	—	中世以降
8P	A-4	楕円形	35	28	9	2層	229・230号土坑を切る	—	中世以降
9P	C-4	楕円形	62	40	11	3層	35号溝跡に切られ、10号ピットを切る	—	中世以降
10P	C-4	楕円形	45以上	40	12	2層	35号溝跡に切られ、9号ピットに切られる	—	中世以降
11P	C-4	不整楕円形	50	35	15	2層	231・236号土坑を切る	—	中世以降
12P	D-4	円形	33	32	15	2層		—	中世以降
13P	D-4	楕円形	45	29	24	3層		—	中世以降
14P	C-4	楕円形	31	21	9	1層		—	中世以降
15P	C-4	円形	33	32	12	2層		—	中世以降
16P	C-4	楕円形	45以上	36	10	2層	267号土坑を切る	—	中世以降
17P	C-4	楕円形	34	24	7	1層	38号溝跡に切られる	—	中世以降
18P	D-3	楕円形	28	24	9	1層		—	中世以降
19P	D-4	不整楕円形	60	50	31	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調	39号溝跡に切られる	—	中世以降
20P	D-4	円形	30	30	19	1層	40号溝跡に切られる	—	中世以降
21P	D-4	円形	26	25	16	3層		—	中世以降
22P	D-4	楕円形	40	29	13	2層		—	中世以降
23P	D-3	円形	19	18	7	1層	285号土坑を切る	—	中世以降
24P	E-4	円形	39	38	16	3層	28号住居跡を切る	—	中世以降
25P	C-3	円形	33	32	25	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調	38号溝跡に切られる	—	中世以降
26P	E-3	楕円形	46	39	11	2層	276号土坑を切る	—	中世以降
27P	E-3・4	楕円形	45	31	10	2層	38号溝跡に切られ、271号土坑を切る	—	中世以降
28P	E・F-3・4	不整楕円形	55	40	11	2層		—	中世以降
29P	F-3	楕円形	35	30	6	1層		—	中世以降
30P	F-3	楕円形	43	37	6	1層		—	中世以降
31P	D-3・4	不整楕円形	87	63	13	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調	38号溝跡に切られ、39号溝跡を切る	—	中世以降
32P	D-3	楕円形	44	23	8	2層		—	中世以降
33P	D-3	楕円形	28	22	13	2層		—	中世以降
34P	D-3	楕円形	50	25	11	2層	38号溝跡に切られる	—	中世以降
35P	E-4	楕円形	35	30	15	3層	271号土坑を切り、38号溝跡に切られる	—	中世以降
36P	D-3	円形	26	24	10	2層		—	中世以降

第18表 ピット一覧(1)

遺構名	位置	平面形	規模 (cm)			覆土	切り合い関係	出土遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
37P	D-3	円形	26	25	12	2層		—	中世以降
38P	E-3	楕円形	46	38	16	2層		—	縄文時代か
39P	F-2	楕円形	39	29	28	4層		—	中世以降
40P	F-2	楕円形	23	20	26	2層	41号ピットを切る	土師器	中世以降
41P	F-3	楕円形	25以上	25	30	2層	40号ピットに切られる	—	中世以降
42P	E-3	楕円形か	35以上	30	14	2層	41号溝跡に切られる	—	中世以降
43P	F-4	楕円形	38	29	13	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調		—	中世以降
44P	F-3	楕円形	61	50	15	2層		—	中世以降
45P	F-3	楕円形	25	18	32	3層	275号土坑に切られる	—	中世以降
46P	E-3	楕円形か	50以上	13以上	20	3層	42号溝跡に切られる	—	中世以降
47P	F-3	楕円形	32	27	27	2層	250号土坑に切られる	—	中世以降
48P	F-3	円形	32	30	19	1層	250号土坑に切られる	—	中世以降
49P	D-4	円形	35	—	13	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調	39号溝跡に切れ、38号溝跡を切る	—	中世以降
50P	F-2	楕円形	59	32	59	4層		土師器	中世以降
51P	F-2	楕円形	50	40	16	3層		—	中世以降
52P	E-2	円形	32	30	33	4層		土師器	中世以降
53P	E-2	楕円形	39	33	17	2層	232号土坑に切られる	—	中世以降
54P	E-2	楕円形	24	20	10	1層		—	中世以降
55P	D-3	楕円形か	40以上	37	27	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調		—	中世以降
56P	E-1	楕円形	34	30	31	5層	30号住居跡を切る	土師器	中世以降
57P	D-3	円形	27	26	35	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調	269号土坑を切る	—	中世以降
58P	D-2・3	円形	27	25	13	ロームブロック混じりの暗褐色土層が基調		—	中世以降
59P	D-2	円形	29	27	43	3層		—	中世以降
60P	F-1	円形	35	33	15	2層		—	中世以降
61P	F-1	円形	35	34	13	1層		—	中世以降
62P	D-2	円形か	30	26以上	50	2層	45号溝跡に切られる	—	中世以降
63P	E-2	楕円形	29	25	27	2層		—	中世以降

第18表 ピット一覧(2)

## 第4節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器、古墳時代後期の土器、平安時代の遺物、中世以降の遺物に分類する。

### (1) 縄文時代の土器 (第36図1～9、図版26-1～9、第19表)

1～4は前期の土器で、1～3は前期前葉の黒浜式土器、4は前期末葉の十三菩提式土器である。5～8は中期の土器で、5・6は中期中葉の勝坂式土器、7は加曽利EIV式土器である。8は型式は不明だが、加曽利E式土器であろう。9は中期の土器と思われる。

### (2) 古墳時代後期の土器 (第36図10・11・17、図版26-10・11・17、第19表)

10は土師器坏形土器、11は土師器高坏形土器、17は土師器甑形土器である。

### (3) 平安時代の遺物 (第36図12～16、第37図18、図版26-12～16・18、第19表)

[土器] (第36図 12～16、図版 26－12～16、第19表)

12は須恵器碗形土器、13～15は土師器台付甕形土器の脚台部、16は土師器甕形土器である。

[瓦] (第37図 18、図版 26－18、第20表)

18は瓦である。

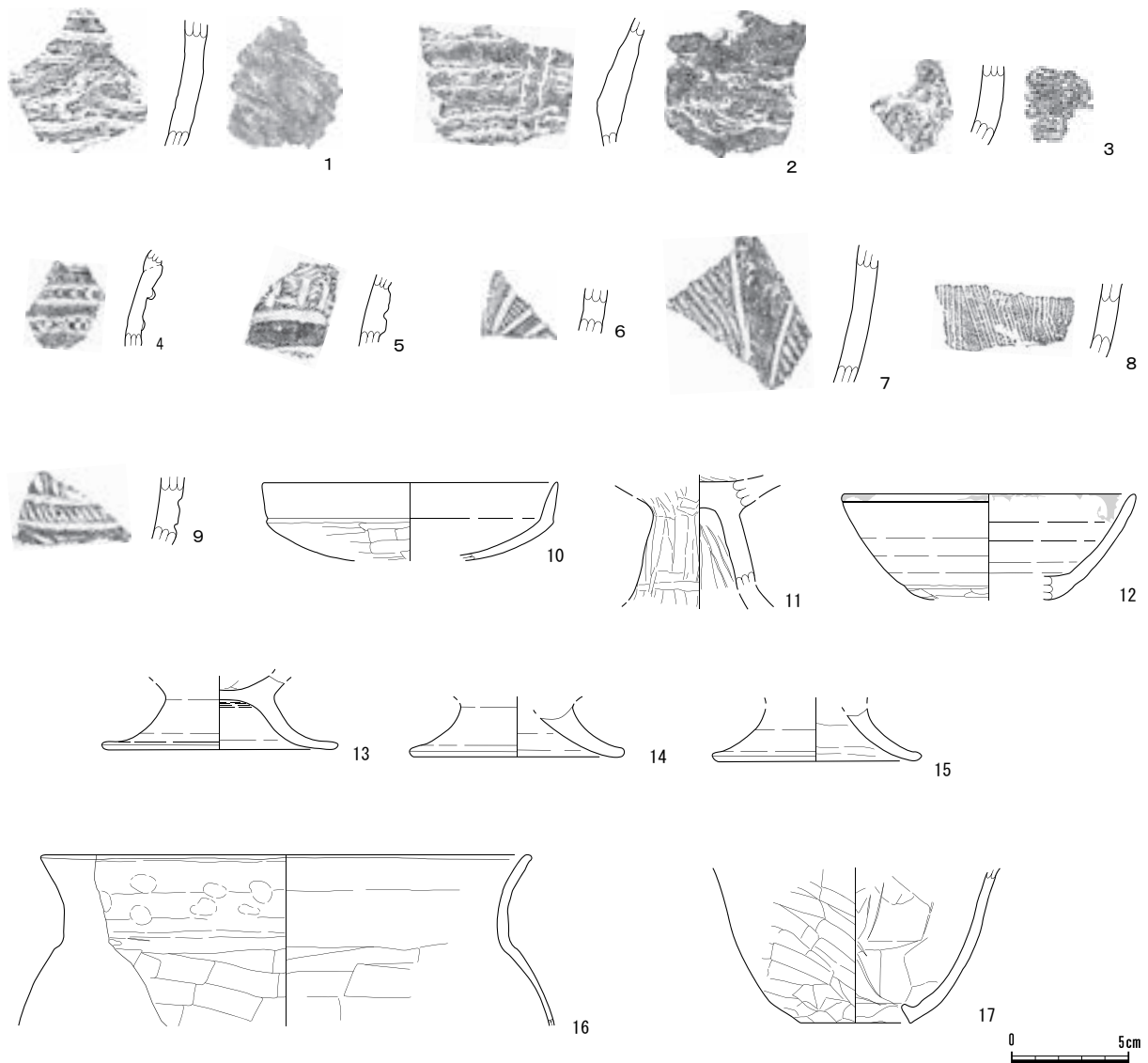
(4) 中世以降の遺物 (第37図 19～26、図版 26－19～26、第19表)

[陶磁器・土器] (第37図 19～25、図版 26－19～25、第19表)

19は磁器碗、20は陶器碗、21は陶器鉢、22は陶器甕か、23は陶器播鉢、24は陶器灯明受皿である。25は七輪火皿である。

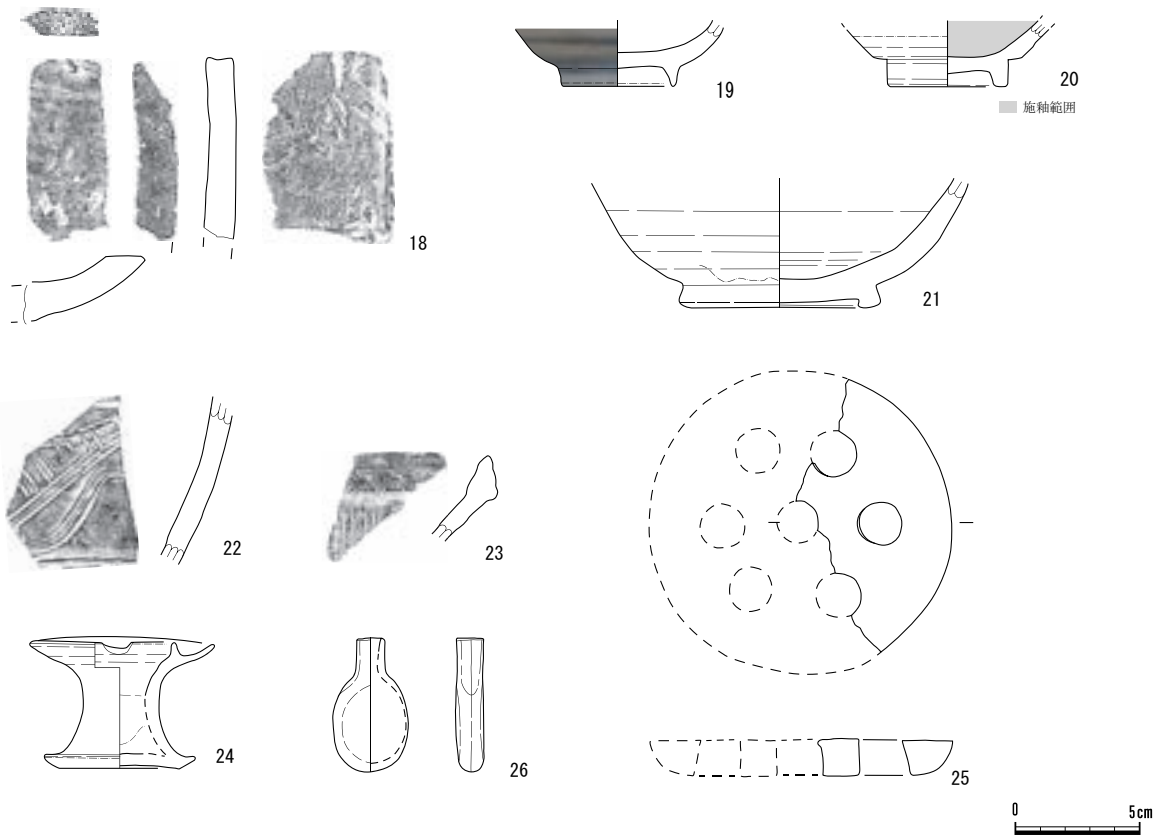
[ガラス製品] (第38図 26、図版 37－26)

26は近代のガラス製品である。薬瓶であろう。



第36図 遺構外出土遺物1 (1/3)





第37図 遺構外出土遺物2 (1/3)

図版番号 挿図番号	種別	器種	法量 (cm)	制作の特徴等	色調	胎土	出土位置	遺存度	推定 産地	時期
第36図1 図版26-1	縄文土器	深鉢	厚1.0	横走する沈線文と弧状の沈線文を施す。内面に斜位のナデを施す。	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	赤色粒子・砂粒・繊維を含む。	30H	体部片	—	縄文前期 前葉 黒浜式
第36図2 図版26-2	縄文土器	深鉢	厚1.2	縦位の沈線間の上に横走する沈線文を加える。内面には横位のナデを施す。	外面：褐色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子をやや多く、砂粒・石英・繊維を含む。	30H	体部片	—	縄文前期 前葉 黒浜式
第36図3 図版26-3	縄文土器	深鉢	厚1.0	外面無文、内面斜位のナデ。	外面：明褐色 内面：褐灰色	白色粒子・砂粒・繊維を含む。	36M	体部片	—	縄文前期 前葉 黒浜式？
第36図4 図版26-4	縄文土器	深鉢	厚0.7	横位の結節浮線文を2条施す。	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒・石英を含む。	27H	胴部片	—	縄文前期 末葉 十三菩提式
第36図5 図版26-5	縄文土器	深鉢	厚0.8	横走する2条の沈線間を無文とし、上位に縦位の沈線文を施す。	外面：黄褐色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子・砂粒・小石を含む。	27H	胴部片	—	縄文中期 中葉 勝坂式
第36図6 図版26-6	縄文土器	深鉢	厚1.0	斜位の沈線文間に刻み目を付す。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子・砂粒・石英を含む。	27H	胴部片	—	縄文中期 中葉 勝坂式
第36図7 図版26-7	縄文土器	深鉢	厚0.9	縦位の沈線間を無文とし、区画内に単節縄文LRを縦位回転に施す。	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色	白色粒子・砂粒を含む。	28H	胴部片	—	縄文中期 後葉 加曾利EIV式
第36図8 図版26-8	縄文土器	深鉢	厚0.8	4本単位の条線文を縦位・斜位に施す。	内外面：暗褐色	砂粒・角閃石を含む。	28H	胴部片	—	縄文中期 後葉 加曾利EIV式
第36図9 図版26-9	縄文土器	深鉢	厚1.0	横走する沈線間に斜位の刻み目を付し、その上下に縦位の沈線文を施す。	外面：にぶい黄褐色 内面：黒褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒・石英・小石を含む。	226D	体部片	—	縄文中期 ？
第36図10 図版26-10	土師器	坏	高[3.3] 口(12.5)	口縁部は体部下位から内湾して立ち上がり、体部上位に稜を有し、直立気味に立ちあがる。体部下位に横位のヘラケズリを施す。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	白色粒子・砂粒・小石を含む。	31H	口縁部 ~体部 30%	在地系	古墳時代 後期 (7C中)

第19表 遺構外出土遺物一覧(1)

図版番号 挿図番号	種別	器種	法量 (cm)	制作の特徴等	色 調	胎 土	出土位置	遺存度	推定 産地	時期
第36図11 図版26-11	土師器	高環	高 [5.5]	脚部は柱状を呈し、裾部は広がるように見える。坏部は外傾して立ちあがる。外面は縦位のヘラケズリを加える。内面はしばりがみられる。	外面：赤褐色 内面：にぶい褐色	白色粒子をやや多く、砂粒・石英・角閃石を含む。	44M	坏部～脚部 40%	—	古墳時代後期 (7C中)
第36図12 図版26-12	須恵器	埴	高 [4.4] 口 (12.4)	口縁部は体部下位から内湾して立ちあがる。内外面とも水挽きされる。体部外面には横位のヘラケズリを加える。内外面にタール付着。	内外面：にぶい 橙色	赤色粒子・砂粒を含む。	31H	口縁部～体部 30%	—	平安時代
第36図13 図版26-13	土師器	高環	高 [3.1] 底 10.0	高台部は裾広がり状に付される。端部は反る。体部は外傾して立ちあがる。	外面：褐色 内面：褐色	白色粒子・砂粒・小石を含む。	31H	体部～脚部 30%	—	平安時代
第36図14 図版26-14	土師器	高環	高 [2.3] 底 (9.0)	高台部はハの字状に開く、端部はやや反る。	外面：にぶい 黄褐色 内面：にぶい 褐色	白色粒子・砂粒・小石を含む。	31H	脚部 30%	—	平安時代
第36図15 図版26-15	土師器	高環	高 2.2 底 (8.8)	脚部は外反りしつつ開き、脚部は丸味をもつ。内外面ともヨコナデされる。	外面：明黄褐色 内面：にぶい 黄褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒を含む。	32M	脚部 30%	—	平安時代
第36図16 図版26-16	土師器	甕	高 [7.2] 口 (20.8)	口縁部は内湾する体部から緩く外反して立ちあがる。器壁は薄くなる。外面口縁部はヨコナデが施され、ユビオサエがみられる。体部は横位のヘラケズリを施す。内面の体部には横位のヘラケズリが施される。口縁部に輪積み痕。武蔵型甕。	外面：明赤褐色 内面：赤褐色	白色粒子・砂粒を含む。	35M	口縁部～体部 20%	—	平安時代 (9C後半)
第36図17 図版26-17	土師器	甗	高 [6.5] 口 (3.8) 底 (4.6)	平定から体部は外傾しつつ立ちあがる。外面は斜位のヘラケズリを施す。内面は縦位のナデを施す。	外面：褐色 内面：褐色	白色粒子・砂粒を含む。	36M	体部～底部 20%	—	古墳時代後期 (7C中)
第36図18 図版26-18	瓦	平瓦	厚 1.3	断面に張り付けのための溝条の線。	内外面：にぶい 黄橙色	白色粒子・砂粒・石英・雲母を含む。	表土	40%	—	平安時代
第37図19 図版26-19	磁器	埴	底 (4.4)	1条線が巡る。	内外面：灰白色	砂粒を含む。	表土	体部～高台部 10%	肥前系	近世 (18C)
第37図20 図版26-20	陶器	埴	高 [2.6] 底 (4.6)	直立する高台部から、体部は外傾して立ちあがる。内面と外面の一部に鉄釉。天目埴。	外面：浅黄色 内面：黒色	砂粒を含む。	表土	体部～高台部 10%	瀬戸・美濃系	近世 (18C後半)
第37図21 図版26-21	陶器	鉢	底 (8.0)	内外面に鉛釉。片口・捏ね鉢。	外面：淡黄色 内面：釉	褐色粒を含む。	表土	体部～高台部 10%	瀬戸・美濃系	近世 (18C)
第37図22 図版26-22	陶器	甕?	厚 0.9	2条単位の沈線文で斜位波水のモチーフが描かれ、斜位の短沈線文が施される。	外面：黒褐色 内面：赤褐色	白色粒子・砂粒・小石を含む。	表土	体部片	備前系か	近世
第37図23 図版26-23	陶器	播鉢	厚 0.7	口縁部を無文帯とし、段を有し、以下に縦位の細沈線文を施す。	外面：にぶい 褐色 内面：にぶい 橙色	白色粒子・砂粒・石英を含む。	27H	口縁部片	瀬戸・美濃系	近世 (18C)
第37図24 図版26-24	陶器	灯明 受皿	口 7.2 受け径 4.1 高 5.2 底 4.7	底部は裾広がりになり、端部は反る。体部は外反しつつ立ちあがり、口縁部は更に外反する。	内外面：釉	砂粒・石英を含む。	表土	口縁部～底部 ほぼ完形	信楽系	近世 (19C)
第37図25 図版26-25	土器	七輪	上径 (12.0) 下径 (10.6) 厚 1.5	上部は火熱を受け白色化。火皿。	上部：にぶい 黄褐色 下部：明褐色	白色粒子・赤色粒子・砂粒・石英・雲母を含む。	表土	30%	在地系	近世 (19C)
第37図26 図版26-26	ガラス製品		長 5.8 径 [3.0] 厚 1.1	薬瓶。	—	—	表土	完形	—	近代

第19表 遺構外出土遺物一覧(2)

## 第3章 調査のまとめ

今回の調査では、全体としてL字状を呈する調査地点より縄文時代から近世に至る遺構・遺物が検出された。遺構としては住居跡6軒、土坑67基、溝跡11条、ピット63基、および各時期の土器、土製品、石器、鉄製品、ガラス製品などの遺物が検出された。調査面積は限られるが、遺構の分布は密集しており、重複するものも多い。

共伴する遺物が乏しいことから時期を明瞭にできた遺構は少ないが、以下、本項では、時代毎に確認された遺構・遺物の概要を明らかにする。

### 縄文時代

当該期の遺構としては、238・240・241・279・281・285・286号土坑の7基が確認されている。調査区の南側から東側にかけて分布しており、南側に238・240・241号土坑の3基、東側に279・281・286号土坑の3基が集中する傾向が認められる。ただし、前期後葉～末葉の諸磯C式・十三菩提式土器が出土した238号土坑、同じく型式不明の前期土器が出土した285号土坑を除くと、覆土のあり方から縄文時代と認定された例がほとんどであり、明確な配置の特徴や性格などを明らかにすることはできない。この他、前期中葉の黒浜式土器、中期中葉の勝坂式土器、後葉の加曾利E式土器、打製石斧片などが遺構外から出土しているが、いずれも量的にはわずかである。

### 古墳時代

当該期の遺構としては27号住居跡をあげることができる。調査区の南西端に位置するが、各所に攪乱を受けており、遺存状態は良好とはいえない。長軸6m近い隅丸方形プランの住居であり、長軸線に沿った北側にカマドを伴うが、36号溝跡に大半を壊されている。ピットの分布状況から建て替えが行われた可能性が考えられるが、詳細は不明である。

7世紀中葉、古墳時代後期を中心とする土師器坏、甕などが出土しているが、縄文土器などの混入遺物も少なくない。この他、当該期の土師器が出土した土坑やピットが存在するが、覆土のあり方から中世以降の所産とみられるものであり、二次的な混入例と考えられる。

### 平安時代

当該期の遺構としては28～32号の5軒の住居跡が該当する。この時期の土師器や須恵器が出土した土坑やピットもみられるが、古墳時代と同様、二次的な混入例と考えられる。南東端に近い28号は長軸5mに満たない隅丸長方形の住居跡であり、長軸線に沿った東壁中央にカマドを伴う。30～32号住居跡は28号に比べると、いずれも遺存状態が不良である。30～32号の3軒は調査区の北東側に重複しながら分布しており、住居内からは9世紀中葉～末葉にかけての土師器や須恵器が出土している。30号のカマドは北側に位置しており、左側袖部の芯材に古代の瓦を利用していることが注意される。31号は東カマドの住居跡であり、袖部は地山を掘り残して構築されている。30号同様、確認されたピットの配置は不規則である。貼り床下部から床面がもう一面検出されているが、遺物の出土はみられず、カマドの作り替えなども認められないことから、性格は不明である。32号は31号に切られ、床面の

大半を破壊されているが、形状などをみると30・31号との大きな差はなく、30～32号の3軒の住居跡は同一エリアに短期間のうちに連続して建てられた可能性が高い。

### 中世以降

今回の調査でもっとも多くの遺構が確認された時期であり、土坑や溝跡、およびピットの多くが当該期に該当する。本地点における土地利用がもっとも活発になる時期といいかえることもできるが、明確に遺物を共伴する例は少なく、大半が覆土の状況から中世以降と推測されたものであることを断っておきたい。北側が粗である以外、土坑は調査区の広い範囲に万遍なく分布しているが、厳密な時期同様、性格の不明な例が大半である。溝跡も厳密な時期、性格の不明な例が大半であり、重複する例も少なくないが、45号のように現在の道とおおむね並行するものは近世ないし近世以降の区画溝であった可能性も考えられる。ピットも明確な配列を示すものはみられず、厳密な時期、性格は明らかにはできない。遺物をみると、前述したように明確に中世に属する遺物は明らかではなく、確認された陶磁器や土師質土器はいずれも近世の所産であることが注意される。

上記のような状況で当該期の注目する遺構としては250号土坑、35号溝跡があげられる。東側半分が調査区外にかかるため全容は不明であるが、調査区東端に位置する250号土坑は長軸2mを超える円形ないし楕円形の遺構である。床面に硬化面をもち、壁溝が確認部を全周するが、炉跡やカマド、柱穴の存在は明らかではなく、用途・性格も不明である。内部からは近世の陶器類が少なからず出土していることから、近世の所産であった可能性も否定できない。一方、35号溝跡は全長15m以上、上幅最大2m以上、深さ約1mを測る大型の溝跡である。底面の一部に段を伴い、多くの遺構と重複しながら調査区の南西側から北東方向に大きくL字状に屈曲するように走っている。溝内からは土師器や近世の陶器類も出土するが、調査地点の北側、現在の城山遺跡のエリア内に位置する市立志木第三小学校付近には柳瀬川を望むように中世の城郭が存在していたといわれる。柏城あるいは柏の城と呼ばれる当該城郭の詳細については不明な部分が多いが、戦国時代初期には関東管領である山内上杉氏の重臣・大石氏の居城であったとされ、1590年の豊臣秀吉による小田原の役の頃に落城したといわれる。目立った遺構などは残されていないが、当該溝の規模を考慮すると柏城の外郭線を区画する溝跡であった可能性も考えられる。この他、ピット数基が中世の所産であった可能性が高いが、前出の遺構を含めて、明確に中世に属する遺物の出土は明らかではない。

また、分布はやや散漫であるが、227・228・265号土坑のように細長い長方形プランの土坑は、当該期の芋穴であった可能性が高い。また、37・41～44号溝跡のように調査区東寄りの区域に近接分布する小型の細長い溝は、覆土のあり方とも合わせて当該期の畝跡であったものと思われる。出土した遺物は土師器や須恵器であるが、調査区の南寄りを東西に走る39号溝跡は重複するすべての遺構に後続する溝跡であり、近代に所属する可能性も否定できない。当該溝跡の詳細は不明であるが、前述した芋穴や畝跡などの農業関連施設の目立った分布を考慮すると、近世以降の本地点が全体として農村地帯としての性格を強めていったことは明らかであり、本地域一帯に宅地開発の波が押し寄せる近年まで、そのあり方に基本的な変化はなかったものと考えられる。現代の穴倉や井戸跡などの存在も、その可能性を裏付けるものといえるだろう。

版 圖







1. 調査区南側完掘 西から



2. 調査区南東側完掘 北から





1. 調査区北側中央部完掘 西から



2. 調査区北側完掘 南東から





1. 27号住居跡完掘状況



2. 27号住居跡土層断面A-A'



3. 27号住居跡土層断面B-B'



4. 27号住居跡カマド完掘状況



5. 27号住居跡カマド土層断面



6. 27号住居跡遺物出土状況



7. 27号住居跡貯蔵穴完掘状況



8. 27号住居跡 P1・3完掘状況



1. 27号住居跡P 2 · 4完掘狀況



2. 27号住居跡P 5完掘狀況



3. 27号住居跡炉跡完掘狀況



4. 27号住居跡炉跡完掘狀況



5. 27号住居跡炉跡土層断面



6. 27号住居跡炉跡土層断面



7. 28号住居跡完掘狀況



8. 28号住居跡土層断面A - A'





1. 28号住居跡土層断面B-B'



2. 28号住居跡カマド完掘状況



3. 28号住居跡カマド土層断面A-A'



4. 28号住居跡カマド土層断面B-B'



5. 28号住居跡遺物出土状況



6. 28号住居跡遺物出土状況



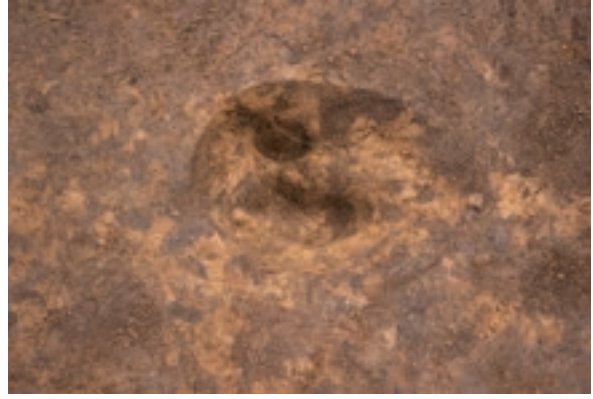
7. 28号住居跡遺物出土状況



8. 28号住居跡カマド遺物出土状況



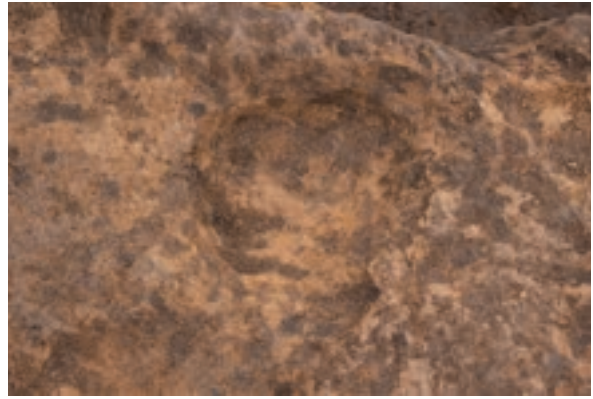
1. 28号住居跡貯蔵穴・P2完掘状況



2. 28号住居跡P1完掘状況



3. 28号住居跡P3完掘状況



4. 28号住居跡P4完掘状況



5. 29号住居跡完掘及び土層断面



6. 30号住居跡完掘状況



7. 30号住居跡土層断面A-A'



8. 30号住居跡土層断面B-B'





1. 30号住居跡カマド完掘状況



2. 30号住居跡カマド土層断面A-A'



3. 30号住居跡カマド土層断面B-B'



4. 30号住居跡北側遺物出土状況



5. 30号住居跡南西側遺物出土状況



6. 30号住居跡遺物出土状況



7. 30号住居跡瓦出土状況



8. 30号住居跡瓦出土状況



1. 30号住居跡カマド遺物出土状況



2. 30号住居跡カマド袖部瓦検出状況



3. 30号住居跡P1・5完掘状況



4. 30号住居跡P2完掘状況



5. 30号住居跡P3完掘状況



6. 30号住居跡P4完掘状況



7. 30号住居跡P6完掘状況



8. 30号住居跡P7完掘状況





1. 30号住居跡P8完掘状況



2. 31号住居跡完掘状況



3. 31号住居跡土層断面A-A'



4. 31号住居跡土層断面B-B'



5. 31号住居跡カマド完掘状況



6. 31号住居跡カマド土層断面



7. 31号住居跡カマド遺物出土状況



8. 31号住居跡P1・8完掘状況



1. 31号住居跡P 2完掘状況



2. 31号住居跡P 3完掘状況



3. 31号住居跡P 5・6完掘状況



4. 31号住居跡P 4・7完掘状況



5. 31号住居跡掘り方完掘状況



6. 31号住居跡掘り方土層断面



7. 32号住居跡完掘状況



8. 32号住居跡土層断面





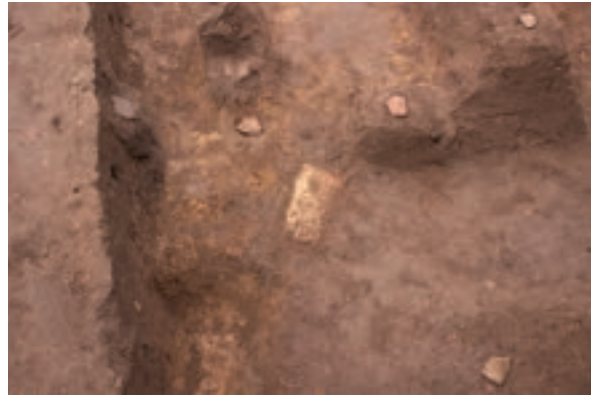
1. 32号住居跡カマド完掘状況



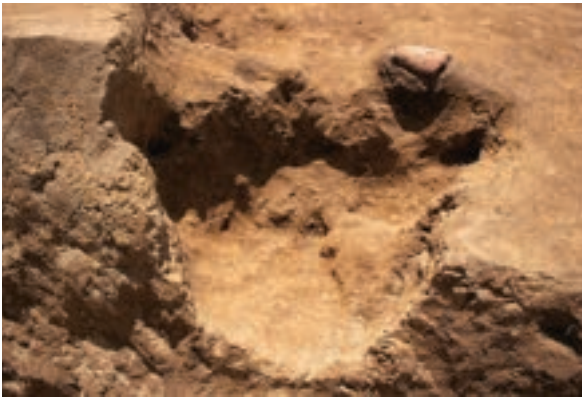
2. 32号住居跡カマド土層断面A-A'



3. 32号住居跡カマド土層断面B-B'



4. 32号住居跡遺物出土状況



5. 32号住居跡貯蔵穴完掘状況



6. 32号住居跡貯蔵穴土層断面



7. 35号溝跡北側完掘状況



8. 35号溝跡南側完掘状況



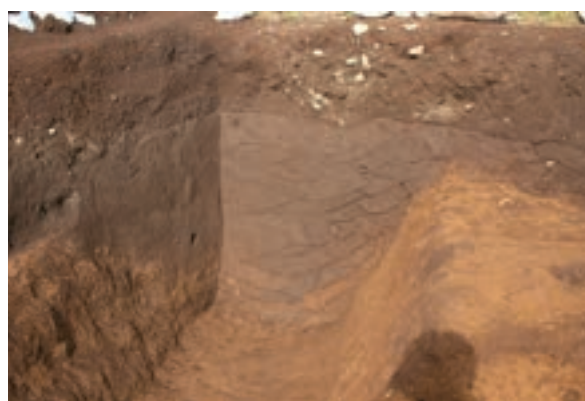
1. 35号沟迹南侧完掘状况



2. 35号沟迹土层断面A-A'



3. 35号沟迹土层断面B-B'



4. 35号沟迹土层断面C-C'



5. 35号沟迹土层断面D-D'



6. 36号沟迹完掘状况



7. 36号沟迹完掘状况



8. 36号沟迹土层断面A-A'





1. 36号沟迹遗物出土状况



2. 38号沟迹完掘状况



3. 38号沟迹土层断面A-A'



4. 38号沟迹土层断面B-B'



5. 39号沟迹完掘状况



6. 39号沟迹完掘状况



7. 39号沟迹土层断面A-A'



8. 39号沟迹土层断面B-B'



1. 39号沟迹土层断面C—C'



2. 40号沟迹完掘状况



3. 40号沟迹土层断面A—A'



4. 40号沟迹土层断面B—B'



5. 45号沟迹完掘状况



6. 45号沟迹土层断面A—A'



7. 45号沟迹土层断面B—B'



8. 41~44号沟迹完掘状况





1. 227号土坑·37号沟迹完掘状况



2. 228号土坑完掘状况



3. 229号土坑完掘状况



4. 230号土坑完掘状况



5. 232号土坑完掘状况



6. 233号土坑土层断面及び完掘状况



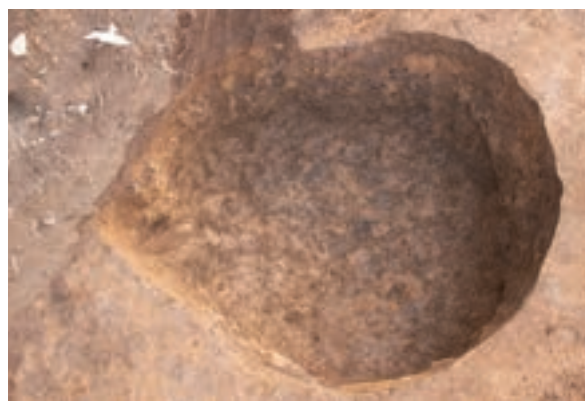
7. 235号土坑完掘状况



8. 236号土坑完掘状况



1. 237 号土坑完掘状况



2. 238 号土坑完掘状况



3. 238 号土坑土层断面



4. 238 号土坑遺物出土状况



5. 239 号土坑完掘状况



6. 240 号土坑完掘状况



7. 241 号土坑完掘状况



8. 242 号土坑完掘状况





1. 243 号土坑完掘状况



2. 244 号土坑完掘状况



3. 245 号土坑完状况



4. 246・247 号土坑完掘状况



5. 248 号土坑完掘状况



6. 249 号土坑完掘状况



7. 250 号土坑土层断面及び完掘状况



8. 258・259 号土坑完掘状况



1. 260 号土坑完掘状况



2. 262 号土坑完掘状况



3. 264 号土坑完掘状况



4. 265 号土坑完掘状况



5. 269 号土坑完掘状况



6. 270 号土坑完掘状况



7. 271 号土坑完掘状况



8. 273 号土坑完掘状况





1. 274 号土坑完掘状况



2. 275 号土坑完掘状况



3. 276 号土坑完掘状况



4. 277 号土坑完掘状况



5. 278 号土坑完掘状况



6. 279 号土坑完掘状况



7. 280 号土坑完掘状况



8. 281 号土坑完掘状况



1. 282 号土坑完掘状况



2. 283 号土坑完掘状况



3. 284 号土坑完掘状况



4. 285 号土坑完掘状况



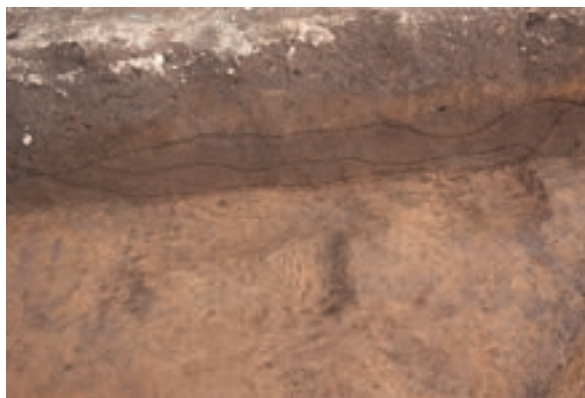
5. 285 号土坑土层断面



6. 285 号土坑遺物出土状况



7. 287 号土坑完掘状况



8. 288 号土坑土层断面及完掘状况





1. 289号土坑完掘状況



2. 289号土坑完掘状況



3. T P O 1 西壁土層断面 (基本土層)



4. T P O 1 南壁土層断面 (基本土層)



5. T P O 2 東壁土層断面 (基本土層)



6. T P O 2 南壁土層断面 (基本土層)



7. 調査風景



8. 調査風景



1. 27号住居跡出土遺物



2. 28号住居跡出土遺物



3. 29号住居跡出土遺物

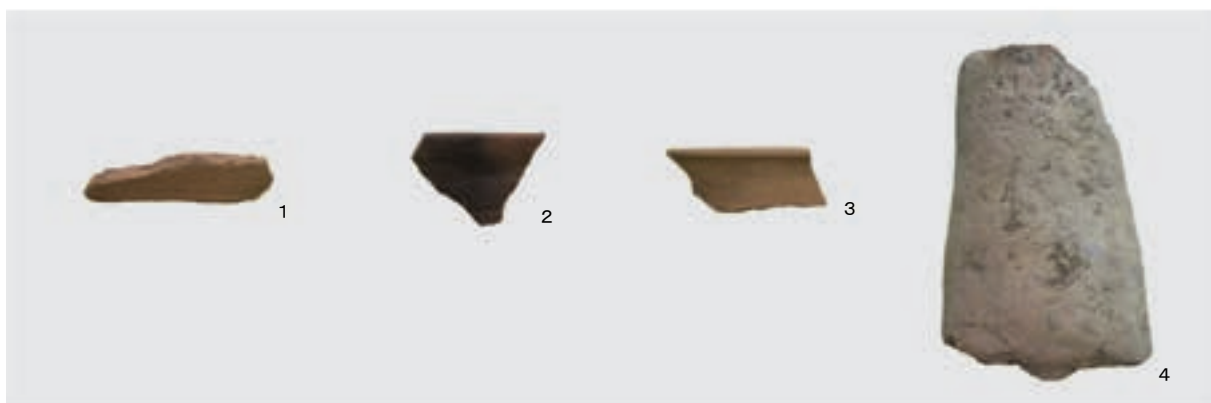


30号住居跡出土遺物





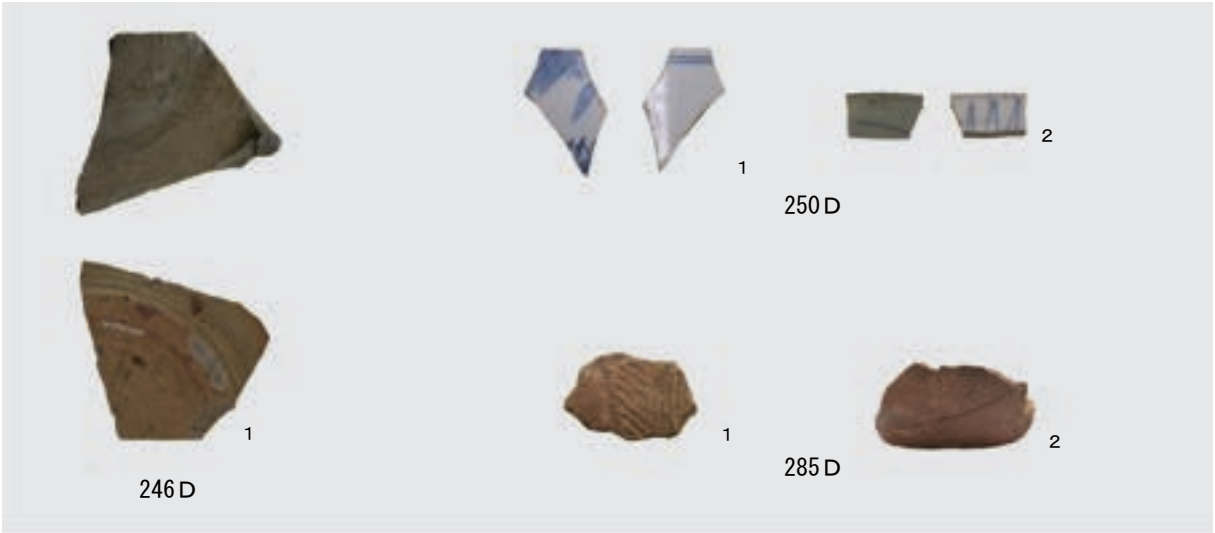
1. 31号住居跡出土遺物



2. 32号住居跡出土遺物



3. 土坑出土遺物 1



1. 土坑出土遺物 2



2. 35号溝出土遺物



3. 36号溝出土遺物



1. 遺構外出土遺物



## 報告書抄録

ふりがな	なかみちいせきだいはちじゅうななちてん まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	中道遺跡第 87 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第 73 集							
編著者	尾形則敏／大久保 聡／林 邦雄							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒 353-0002 埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	令和 2 (2020) 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°′″)	東経 (°′″)	調査期間	調査面積 (㎡) (全体面積)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかみちいせき 中道遺跡 (第 87 地点)	しきしかしわちよう 志木市柏町 5 丁目 2955-2	11228	09-005	35° 49′ 49″	139° 34′ 9″	20190129 ～ 20190524	416.00	分譲住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
なかみちいせき 中道遺跡 (第 87 地点)	集落跡 ・ 墓跡	縄文時代		土坑	7 基	縄文土器		調査区北側に 9 世紀 中葉から末葉の住居 跡が 3 軒重複し、調 査区北側から南側に 走る大型の中世の溝 跡を検出。
		古墳時代後期		ピット	1 基			
		平安時代		住居跡	2 軒	土師器		
		中世以降		住居跡	4 軒	土師器・須恵器・瓦		
				土坑	60 基	陶磁器		
				溝跡	11 条	陶磁器		
				ピット	62 基	土師器		
要約								
<p>縄文時代・古墳時代・平安時代・中世以降の複合遺跡で、縄文時代の土坑、古墳時代後期から平安時代の住居跡、中世以降の土坑や溝跡などが検出されている。遺物は縄文時代は前期黒浜式や十三菩提式、中期は勝坂式、加曾利 E 式、古墳時代から平安時代は土師器や須恵器、中世以降は土師質土器、陶器、磁器などが出土している。特に 7 世紀中葉の住居跡は散在的に 2 軒 (27・29 号住居跡) 検出されているが、9 世紀中葉から末の 3 軒 (30～32 号住居跡) はほぼ同一位置に重複している。</p> <p>中世以降は溝跡や土坑が検出されたが、特に調査区中央部から北側に走る大型の 35 号溝跡は出土遺物から中世と考えられ、調査区北側に位置する柏の城との関連が伺わせる。その他中世以降は溝跡や土坑が検出されている。今回の発掘調査において縄文時代や古墳時代、平安時代の集落等の様相が確認されたほか、中世以降における当遺跡が位置する台地上の様相や、柏の城の規模等を想定する一助となった。</p>								

志木市の文化財 第73集

## 中道遺跡第87地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号  
発行日 令和2（2020）年3月31日  
印刷 山三印刷株式会社